

高文連



も く じ

山口県高等学校文化連盟の紹介	1
ごあいさつ	5
第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式（音楽4部門発表会）の報告	6
各部門の報告	
演劇部門	8
合唱部門	12
吹奏楽部門	14
器楽・管弦楽部門	17
日本音楽・郷土芸能部門	19
マーチングバンド・バトントワリング部門	21
美術・工芸部門	23
書道部門	26
写真部門	30
放送部門	34
囲碁部門	36
将棋部門	38
小倉百人一首かるた部門	41
文芸部門	44
自然科学部門	49
第46回全国高等学校総合文化祭東京大会に参加して	54
自主事業・補助事業の報告	55
参考資料	
自主事業・補助事業実施校一覧	62
令和4年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告	64
令和4年度 山口県高等学校文化連盟 会計決算書	65
令和5年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画	66
令和5年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書・調整基金会計予算書	67
山口県高等学校文化連盟規約	68
山口県高等学校文化連盟諸規程	71
山口県高等学校文化連盟表彰規程	72
山口県高等学校文化連盟旅費支給基準	73
令和4年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	74
令和5年度 山口県高等学校文化連盟役員一覧	75
全国高文連の歌	76

山口県高等学校文化連盟の紹介

山口県高等学校文化連盟には17の部門があります。

演劇／合唱／吹奏楽／器楽・管弦楽／日本音楽／郷土芸能／マーチングバンド・バトントワリング／吟詠剣詩舞／美術・工芸／書道／写真／放送／囲碁／将棋／小倉百人一首かるた／文芸／自然科学

2022年6月16日、第44回山口県高等学校総合文化祭開会式がシンフォニア岩国で開催されました。2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止を余儀なくされた各部門の大会も、2022年度は県内各地において、すべてほぼ予定通り行うことができました。

2022年7月31日～8月4日、東京都にて第46回全国高等学校総合文化祭が行われました。山口県からは、県総文で選ばれた代表が多数出場しました。

【演劇】



【合唱】



【吹奏楽】



【器楽・管弦楽】



【日本音楽・郷土芸能】



【マーチングバンド・バトントワリング】



【美術・工芸】



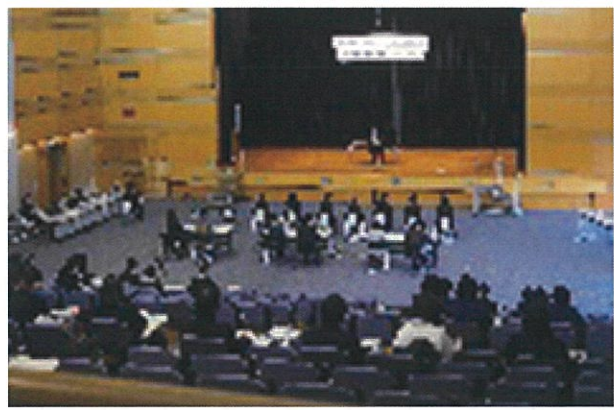
【書道】



【写真】



【放送】



【囲碁】



【将棋】



【小倉百人一首かるた】



【文芸】



【自然科学】





ご あ い さ つ

山口県高等学校文化連盟
会 長 大 村 勇

皆様の御理解と御協力のもと、ここに令和4年度の山口県高文連の歩みを記した集録ができあがりましたことに深く感謝申し上げます。

本連盟は昭和62年6月に発足し、35年を超える歴史があります。その間、県内外の様々な文化・芸術活動への参加の拠点として、高校生の創造力の育成と豊かな心の醸成を支援してまいりました。高校時代の文化部活動への関わりが、人生の幅を広げるということ、そして人間関係やものの見方に大きな影響を与えるということを鑑み、今後も、各学校の文化部活動をつなぐ役割を果たしながら、高校生のさまざまな文化・芸術活動を支えてまいりますので、引き続き御理解と御協力をお願い申し上げます。

さて、今年度も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に大きな影響を受けた1年となりました。そのような中、第44回山口県高等学校総合文化祭は「未来へ 繋げ 文化の軌跡」のテーマのもとで開催することができました。総合開会式は、岩国市の岩国シンフォニアを会場として6月に、昨年度できなかった有観客にて行いました。慶祝演奏や慶祝展示も当初の計画どおりに進めることができ、盛大で素晴らしい総合開会式にすることができました。開催にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様に改めて感謝申し上げます。

各専門部の大会は、5月の小倉百人一首かるた部門・将棋部門をスタートとし、12月の写真部門まで、7か月にわたって県内各地で開催されました。どの専門部においても、参加された生徒の皆さんは、制限を余儀なくされた活動の中で、日々の精一杯の努力で積み重ねてきたものを見事に披露してくれました。高校生の皆さんが、みずみずしい感性で、自分らしい表現を追求し、テーマにあるように、参加している部門の軌跡を未来につないでくれたと感じました。

また、7月には第46回全国高等学校総合文化祭（東京大会）が開催され、本県からは14部門、21校、146名が参加しました。直前のコロナの広がりのために参加を辞退した生徒も残念ながらいましたが、参加したどの部門の生徒たちも持てる力を十分に発揮し、本県を代表するにふさわしい演奏や演技、作品展示を見せてくれました。全国のレベルを体感するとともに、他県の生徒たちとの交流も深まり、有意義な5日間になったものと思います。持ち帰った全国の風を日々の活動に活かし、次年度の鹿児島大会ではさらにより成果が発揮できるよう頑張っしてほしいと願っています。

コロナ禍により思いどおりの活動とならない数年間の動きとなっていますが、そのような中であっても、日々熱心に御指導いただいております各校の顧問の先生方や関係の皆様方に深く感謝申し上げますとともに、今後とも御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

そのほか、本連盟では高校生が優れた文化や芸術に直接ふれあって感性を高めることを目的に、自主文化事業や補助事業を企画し、希望の学校で開催しております。今後も、高校生の希望を取り入れながら、より多くの学校に参加していただける文化・芸術活動を企画していきたいと考えておりますので、ぜひ積極的な御活用をお願いいたします。

結びに、本連盟の活動に御支援、御協力を賜りました関係者の皆様に心から感謝し、厚くお礼を申し上げます。発刊の御挨拶といたします。

第44回 山口県高等学校総合文化祭

総合開会式(音楽4部門発表会)の報告

主管校 福 田 亮
(山口県立熊毛南高等学校教諭)

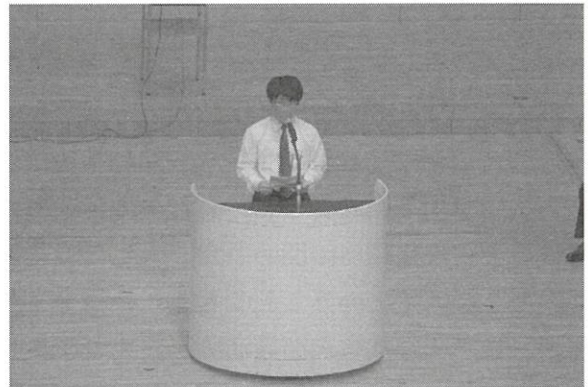
総合開会式(音楽4部門発表会)の記録

令和4年6月16日(木)～18日(土)、シンフォニア岩国を会場に「未来へ 繋げ 文化の軌跡」のテーマの下、第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式並びに音楽4部門発表会が開催された。

総合開会式は山口県立熊毛南高等学校・山口県立柳井商工高等学校を主管校として、また音楽4部門発表会は山口県立岩国総合高等学校を主幹とした岩国地区関係高等学校の協力により、無事に終えることができた。

今年度は新型コロナウイルス感染症発生以来3年ぶりとなる開催ということもあり、消毒、検温、入場制限など例年以上に準備や対応に気を配る必要があったが、3日間大きなトラブルもなく3年ぶりに会場で開催できた。久しぶりに触れる「生の芸術」は出演者・観覧者等にとっても大きな感動を呼び起こした。またコロナ禍にもかかわらず出演者や観覧者等、3日間でのべ約2,400人の参加を得て開催できたことは、文化芸術の再興に向けて新たな一歩を踏み出したように感じた。

6月16日(木)に開催された総合開会式では、田中亜武郎(熊毛南高校)さんの開会宣言と柳井地区高等学校吹奏楽団によるファンファーレで幕を開けた。次にスライドとナレーションにより、山口県高等学校文化連盟の演劇や器楽・管弦楽等、16部門からなる専門部の紹介と自主事業等、山口県高文連の活動紹介を行った。その後、主催者を代表して山口県高等学校文化連盟会長及び山口県教育委員会教育長が挨拶を行い、続いて主管校である熊毛南高校を代表して、生徒会長の椎木奏太さんが挨拶をした。来賓の紹介を経て、優秀芸術文化賞、優秀指導者賞、功績賞、テーマ最優秀賞の表彰を行った。



総合開会式 主管校生徒代表挨拶

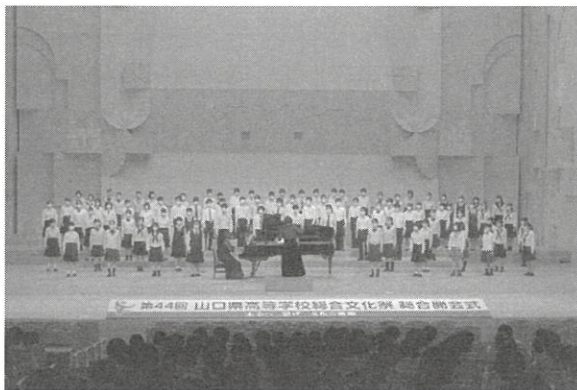
慶祝演奏は柳井商工高校生徒会の司会進行の下、日本音楽、マーチング、合唱、吹奏楽、器楽・管弦楽の演奏を行った。日本音楽は、田布施農工高校邦楽部が担当し、「赤い花束」を息のそろった演奏で鮮やかに響かせた。マーチングバンドのステージでは岩国商業高校が「行進曲シルバー・ウイング」に合わせて躍動感のある演技を披露した。合唱は山口県高等学校合唱団による「無音が聴こえる」「大地讃頌」が披露され、美しく響く混声合唱の音色で会場を魅了した。次に柳井地区高等学校吹奏楽団により「マゼランの未知なる大陸への挑戦」が演奏された。60人を超える編成のサウンドに会場からは大きな拍手が送られた。最後に山口県高等学校管弦楽団による「交響詩《フィンランディア》」が演奏された。県内各地からこの日のために集まった高校生等が奏でる壮大な音色で総合開会式は幕を閉じた。



慶祝演奏 日本音楽 田布施農工高校



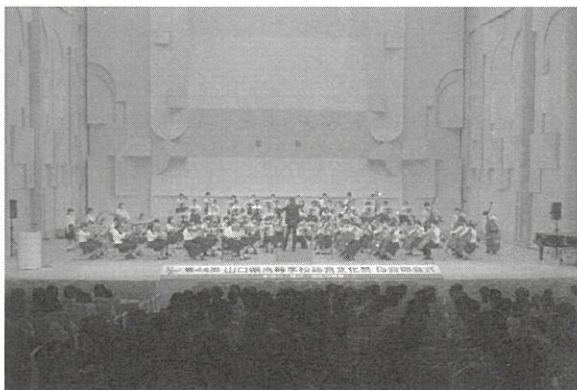
慶祝演奏 マーチング 岩国商業高校



慶祝演奏 合唱 山口県高等学校合唱団



慶祝演奏 吹奏楽 柳井地区高等学校吹奏楽団



慶祝演奏 器楽・管弦楽 山口県高等学校管弦楽団

慶祝展示は、シンフォニア岩国大ホールロビーで行われ、県内の高校生による、美術・工芸13点、書道8点、写真8点が展示された。また、演劇、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学、小倉百人一種カルタの7専門部の大会風景や活動写真のパネルも展示され、3日間を通じて多くの来館者によって観覧された。

音楽4部門発表会では、6月17・18日の2日間にわたって、県内高校から55団体、出演者総数 1,541 名が演奏・演技を披露した。いずれの団体も日ごろの練習の成果を十分に発揮し、素晴らしい演奏・演技であった。コロナ禍の影響で恒例となっている全員合唱の「翼をください」は中止となったが次年度以降は是非再開できると良いと強く感じた。

文化部最大の発表の場である山口県高等学校総合文化祭を3年ぶりに開催できたことは、コロナ禍で活動を制限されてきた多くの高校生にとって希望の光となったと感じる。総合開会式、音楽4部門発表会開催に向け、御協力いただきました全ての方に、心より御礼申し上げます



慶祝展示 美術・工芸

各部門の報告

演劇部門

理事長 石田 千晶

(山口県立光高等学校教諭)

劇場に観客が戻って来ました！ 県大会は、570 人の観客を迎え、上演校同士の交流や生徒講評の討議も活発に行われ、これまで抑えられていた情熱が迸る熱い大会となりました。上演校は、幕間講評で審査員の先生方に自分たちの思いや工夫を丁寧に読み取っていただき、感想用封筒いっぱい観客の感想をもらい、達成感に満たされました。

運営側も新しい試みを重ねています。

まず、山口県高校演劇創作脚本集を山口県高等学校文化連盟のHPに創りました。(QRコード)過去の魅力的な脚本を埋もれさせてしまうのは残念だと考えたからです。



また、県大会を活気づけるために、県下の演劇部員に観劇を呼びかけるチラシを配布し、主管地区の理事の



尽力で、上演校の「絵師」による魅力的なイラストやデジタル技術を駆使した上演作品紹介の掲示を試みました。

しかし、コロナ禍は終わったわけではないことを中国大会で痛感しました。県代表の上演校に陽性者が出て、上演から稽古動画の上映に切り替えられました。部員たちの涙の挨拶に観客からは大きな励ましの拍手が寄せられました。

1 指導者講習会

魅力的な創作脚本の創り方に悩む顧問の要望に沿い、5月28日小郡ふれあいセンターにて、前年度全国大会審査員を務められた泊篤志氏を講師に招いて『誰にでも書ける、あなたにしか書けない戯曲講座』を開催しました。自身の体験から劇的な題材を見出すという手法で、生徒や教員20名が創作に挑戦し、指導者24名がその創作や指導法を聴講しました。県大会11作品中9作品も創作があったのは、この成果かもしれません。

2 演劇講習会

中国大会引き受けの今年度は照明講習会を行いました。7月

18日不二輸送機ホールにて、日本照明家協会から伊藤馨氏他4名を招き、安全確保の為の照明の基本、調光や照明仕込等を学びました。生徒100名、指導者25名が参加しました。おかげで県大会の照明演出は例年以上に凝ったものになりました。

3 地区大会 全地区で有観客開催。◎は最優秀 ※は創作

◇周防地区 8月20日(土) <新南陽ふれあいセンター>

審査員 久保田 修治氏 (ポップ・シアター・ヤ主宰)

室積 光氏 (作家・俳優)

高梨 辰也氏 (作新学院高等学校教諭)

生徒講評部門 長尾 渉未 (岩国総合高等学校)

西山 奈津恵 (新南陽高等学校)

◎華陵高等学校	※ ファンタスティックライフ	華陵 舞作
岩国総合高等学校	風のすきまの始まりの月	鶴見 充展作 岩国総合高等学校潤色
◎光高等学校	※ みすてりい	緋岡 篤作
新南陽高等学校	※ 雨降りの夏祭り	石崎 美里作

◇山防地区 8月10日(水) <山口南総合センター>

審査員 早川 明子氏 (劇団演劇街 代表)

伊藤 馨氏 (照明家 Otta 代表)

大塚 恵美子氏 (梅光学院中学校・高等学校教諭)

生徒講評部門 沖 美咲 (防府西高等学校)

佐伯 亜子 (西京高等学校)

西京高等学校	※ ブレイク	西京高等学校演劇部作
山口中央高等学校	変わらぬ世の恋物語	花風作
◎防府商工高等学校	※ 「わたし」に必要なもの	西村 行登作 防府商工高等学校演劇部潤色
◎山口高等学校	※ 恋ひ恋ふれど、	山口高等学校演劇部作
◎山口県鴻城高等学校	スケッチブック	渚 太陽作 びの潤色
防府西高等学校	まよいみち	井出 秀次作 防府西高等学校演劇部潤色

◇宇部地区 8月10日(水) <不二輸送機ホール>

審査員 広島 友好氏 (シアターボトム主宰)

宮崎 萌美氏 (劇団シバユズ代表)

羽鳥 敦司氏 (下関南高等学校教諭)

生徒講評部門 正木 優海治 (宇部鴻城高等学校)

吉富 咲良 (サビエル高等学校)

宇部西高等学校	『at Home』から	吉田 佳作
◎宇部中央高等学校	パノニアの肖像	益村 梨沙作

◎宇部フロンティア大学 付属香川高等学校	※ 花咲く想い出の中で	秋山 葡乃花作
宇部中央高等学校	※ 流生群	正木 優海治作
◎宇部高等学校	※ きみとつむぐ夏の日	岩城 莉那作
サビエル高等学校	今更中2病 (三訂版)	東 佑実子作

◇下関地区 8月3日 (水) 4日 (木) <下関市生涯学習プラザ>

審査員 藤田 典子氏 (下関市民劇場事務局長)
石田 康正氏 (有限会社エフェクト)
新竹 伸芳氏 (山口高等学校教諭)
生徒講評部門 横山 歩美 (田部高等学校)
幸野 弥菜美 (長府高等学校)

田部高等学校	0と1の雫	悠 潔作 田部高等学校演劇部潤色
下関商業高等学校	※心に。あなたに。	高田 結衣作
◎梅光学院中学校・ 高等学校	※ 逃げたってどうせ ～拝啓、厨二の君へ	小野 駿・竹岡英大原案 梅光学院中学校・高等学校 演劇部作
長府高等学校	私は、私になりたい	和田 夏実作 長府高等学校演劇部潤色
◎下関南高等学校	※ かみはいずこにおはしたまふ	うしろだ かずや作
◎下関西高等学校	※ ナナシノハナシ	白尾颯人作 下関西高等学校演劇部潤色
下関中等教育学校	※ ピース	下関中等教育学校演劇部作

4 県大会 第44回山口県高等学校総合文化祭 (演劇部門)

第41回山口県高等学校演劇大会

10月22日 (土)・23日 (日) <山口市民会館大ホール>

A: 上演部門 ◎は最優秀校 (中国大会推薦) ◇は創作脚本賞 ※は創作

審査員 小林 七緒氏 (演出家・俳優)

柳沢 悟氏 (俳優・演出家)

原田 多恵子氏 (山口県立宇部西高等学校)

山口県鴻巣高等学校	スケッチブック	渚 太陽作 びの潤色
◎光高等学校	※ みすてりい	緋岡 篤作
下関西高等学校	※ ナナシノハナシ	白尾 颯土作 下関西高等学校演劇部潤色
宇部中央高等学校	パラノイアの肖像	益村 梨沙原作 宇部中央高等学校演劇部潤色
◎◇梅光学院中学校・ 高等学校	※ 逃げたってどうせ ～拝啓、厨二の君へ	小野 駿・竹岡英大原案 梅光学院中学校・高等学校 演劇部作
宇部高等学校	※ きみとつむぐ夏の日	岩城 莉那
防府商工高等学校	※ 「わたし」に必要なもの	川瀬 葵原案 西村 行登作 防府商工高等学校演劇部潤色
宇部フロンティア大 学付属香川高等学校	※ 花咲く想い出の中で	秋山 葡乃花作
下関南高等学校	※ かみはいずこにおはしたまふ	うしろだ かずや作
◎華陵高等学校	※ ファンタスティックライフ	華陵 舞作
山口高等学校	※ 恋ひ恋ふれど、	山口高等学校演劇部作



B: 生徒講評部門

最優秀賞 西山 奈津恵 (新南陽高等学校)

沖 美咲 (防府西高等学校)

幸野 弥菜美 (長府高等学校)

5 中国大会 第60回中国地区高等学校演劇発表会

12月24日 (土)・25日 (日) <下関市市民会館大ホール>

審査員 横山 拓也氏 (劇作家・演出家)

中島 憲氏 (札幌啓成高等学校)

井上 幸助氏 (下関商業高等学校)

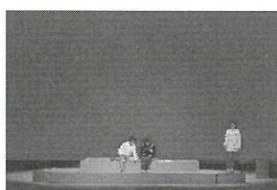
小林 秀子氏 (鳥取県立倉吉東高等学校)

村尾 弓恵氏 (島根県立松江商業高等学校)

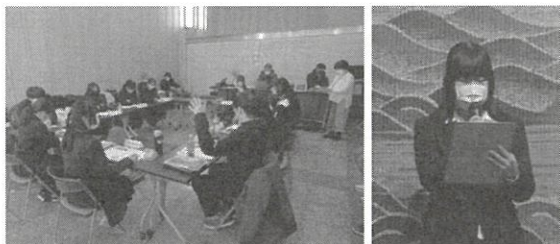
寺岡 俊之氏 (岡山県立玉野高等学校)

檜崎 僚一氏 (広島県立尾道商業高等学校)

60回記念大会として中国5県の活動報告が掲示されました。



山口県としては、生徒講評部門で、全国大会への推薦を得ることができました。



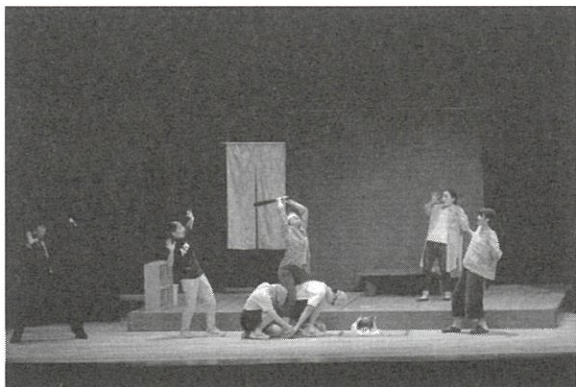
優秀生徒講評委員

山口県立長府高等学校 2年 幸野弥菜美

中国大会という大舞台で、仲間と観劇・討議をしたあの時間は楽しくて嬉しくて仕方ありませんでした。自分が受け取ったものを相手に伝える力だけでなく、人の話を聞く力や想像力も鍛えられたように思います。

上演校の皆様はもちろん、これまで生徒講評で関わった委員の皆様や先生方から良い刺激をもらえたおかげで全国への切符も手にすることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。充実した3日間になりました！ありがとうございました！

華陵高等学校が、『ファンタスティックライフ』という作品で優良賞を受賞しました。“ファニちゃん”という架空の便利ツールを体操服姿の役者が生身で演じるというコミカルな演出で、会場を沸かせてくれました。家族の負担になりたくない祖母、家族に尽くす母親、夢を貫きたい娘、誰かに必要とされる為に働く販売員……それぞれの人物の心情を丁寧に描いて、観客の共感を呼びました。



梅光学院中学校・高等学校が、『逃げたってどうせ～拝啓、厨二の君へ～』という生徒創作脚本で、創作脚本賞、優良賞を受賞しました。妹の死のショックで妹の好物しか作らなくなった母

との息の詰まる暮らしを紛らわせるため、空想上の妹と厨二病的やりとりを繰り返すある男子高校生の昼休み。そこにやってきた女子。彼女もまた、酒におぼれる父の作る真っ黒なお弁当を苦にしていました。考え抜かれたセリフや演出で大きな笑いを取りながら、逆境に立ち向かう勇気を与えてくれました。



創作脚本賞受賞

梅光学院中学校・高等学校 3年 小野駿

皆さんこんにちは。中国大会という大きな舞台で創作脚本賞という素晴らしい賞を頂き、さらにこうして作品への思いを書く機会を下さって本当に感謝です。

今のメンバーで2022年度の中国大会という大きな大会へ出場出来て、本当に嬉しかったです。また、私たち梅光学院演劇部が中国大会へ出場するのは37年振りだとのことで感無量でした。

さて、私たちの今回の作品が出来た理由は簡潔に言ってしまうと「私が厨二病の役をやってみたかったから」なのです。なぜ厨二病をやってみたかったかというのは正直自分でも分かりませんが、とにかく「やってみたい！」と強く思ったのです。そしてその厨二病という設定を上手く活かせるような台本を私と竹岡くんで作りました。ストーリーは私が考え、演出は竹岡くんが考えるというお互い協力し合う形で今回の台本が出来上がりました。

私は中学を含めると4年間演劇をしてきたのですが（梅光には「ドラマ」という演劇を応用した授業があります）今までの4年間を通して自分がどんな役をやりたいか、どんな作品を作りたいのか、そんな思いを今回の作品に込めてストーリーや演出を考えました。会場全体を巻き込んだのは、劇には観客がいないと成立しないくらい大きな存在だということを顧問の先生から教えていただいたことが大きいですし、あと、やってる側も観る側もお互い楽しめると思ったし、でもやっぱり、何より私たちが「やってみたかったから！」です。みんなで、無茶苦茶楽しみながらバトルシーンの演出を創っていったのは最高の思い出です。そう、この作品には、僕の、みんなの「やってみ

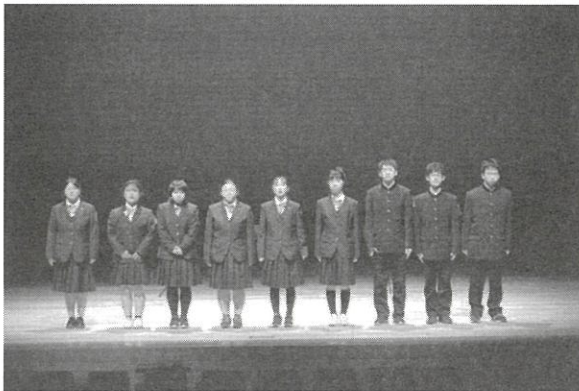
たかった！」が詰まっているのです。

お弁当をキーアイテムにしたのは、梅光には給食がないため、基本的にはお弁当で、中学から梅光の私は毎日母が作ってくれるお弁当を食べて6年間を過ごしました。超個人的ではありますが、そんな母への感謝も込めてお弁当もテーマに含めました。

今回はお弁当をキッカゲにしたけれど、このお弁当のように家族にも言えない悩みが皆あるかなあ、と思います。またリョウタもユイも片親だったのは、最近は片親世帯が多くて、私を含め部員の多くがひとり親の家庭であることを台本作成中に知り、リアルな感じが書けると思ったからです。

改めて、創作脚本賞、本当にありがとうございました。私は卒業しますが、この賞をいただいたことに恥じないよう、これからも、演劇で培った全能力をフルに使って、全力で進んでいきます！

光高等学校が、『みすてりい』という作品で優良賞を受賞しました。前述の通り、新型コロナ感染者が出たため、上演ではなく稽古動画上映での出場となりました。失踪した女医の手懸りを追いながら、女性の生きづらさに想いを馳せさせる仕掛けの舞台で、主人公の恋人が右手足の不自由という障害をもつとせず自由に生きる姿を示し、主人公の心を解き放つ際の感動は、映像であっても観客にしっかりと伝わっていました。



Ms.照井のように胸に蠢いたもの

山口県立光高等学校 2年 山本倫禾

私達光高校演劇部は中国大会にて、上演ではなく、上映で出場しました。出発の朝、部員に陽性者が出たからです。悔しさややるせなさで叫び出したい気分でした。

私達が上演するはずだった『みすてりい』は、十分努力しているのに思いを自由に叶えられない医師 Ms.照井を描いた作品ですが、この大会で彼女の苦しさから共感できた気がします。

リハーサルの時間には、上映する動画の確認と挨拶の練習をしましたが、この映像で作品にこめた思いが伝わるのかという不安で気持ちは落ちていくばかりでした。でも、「今出来ることを精一杯しよう」と他校のリハーサルや上演を見て、照明や舞台の使い方を勉強しました。

そして迎えた上演 11 『みすてりい』。想いが伝わるようにと、祈りを込めて挨拶をしました。上映中は、やっぱり上演したかったと思いながらも、1 観客として、1 人 1 人の登場人物がそれぞれの人生を生きている『みすてりい』が好きだと思いました。審査員講評では必要性を問われたけれど、ラストで Mystery と書かれたパネルの E を O に替え My story と全員で言う演出も、『みすてりい』には必要なピースだったと思います。普段は絶対立かない部員も、顧問の先生方も泣きました。

だけど、私達の伝えたかったことは観客に伝わったと確信しています。上映中笑い声が響き、客電が点くと泣いている人も多くいました。照井を支える森元気が「好きだ」とも言ってもらえました。悔いはありません。寒くて暗い体育館で撮った通し稽古の動画は、感染で来られなかった子の思いも、県大会から中国大会までのみんなの頑張りもしっかり伝えてくれていたからです。

涙にくれた中国大会でしたが、演出や演技などの技術的なこととともに、他校への羨望と悶えるような苦しみ、似たような境遇の方への強い共感、みんな揃って上演できる奇跡への感謝など物凄い学びができました。



5年に1度の山口県開催でしたが、大寒波の影響で一部の上演校の到着が遅れ、急遽リハーサルのスケジュール変更等を余儀なくされました。感染拡大により代役や映像上映に切り替える上演校もありましたが、久しぶりに一般観客を招いた大会は大いに盛り上がり、記憶に残るものとなりました。

主管の宇部フロンティア大学付属香川高等学校をはじめとする宇部地区の顧問の先生方や生徒役員の皆さんだけでなく、山口県下全域の顧問の先生方や生徒の皆さんの御協力により、素晴らしい中国大会となったことを御報告いたします。

各部門の報告

合唱部門

理事長 高山 律子

(山口県立宇部中央高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟合唱部門では、今年度次のような事業を行いました。

1. 活動報告

(1) 令和4年度 第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式において慶祝演奏

・6月16日(木)

・曲目/「無音が聴こえる」

“カンタータ《土の歌》より

「大地讃頌」”

・山口県高等学校合唱団/8校 86名

・会場/シンフォニア岩国

(2) 令和4年度 第44回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

・6月17日(金)、18日(土)

・合唱部門出演者/7校 137名

・会場/シンフォニア岩国

2. 山口県高等学校総合文化祭の記録

会場：シンフォニア岩国

令和4年度第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式が、6月16日(木)「シンフォニア岩国」にて盛大に開催されました。今年度は新型コロナウイルス感染症による感染拡大の影響もあり、例年のように器楽・管弦楽部門と合同で演奏するのではなく、合唱部門単独での参加となりました。オーケストラとの共演は叶いませんでしたが、8校86名の大合唱は、広い会場に美しく響き渡りました。演奏の中心となった3年生は、部活動に所属した3年間、「歌うこと」に対する多くの制約を受けてきましたが、県内のそれぞれの学校で活動する多くの仲間とともに3年間の思いを乗せて素晴らしいハーモニーを届けてくれました。

(3) 令和4年度山口県高等学校文化連盟

合唱部会及び研修会

・令和4年12月15日(木)

・出席者/部会長以下9名

・議題/県総文、全総文、高文連表彰などについて

・会場/山口県立宇部中央高等学校 会議室

(4) 山口県高等学校合唱講習会

・令和4年5月28日(土)

・講師/相澤 直人 先生

(声楽家・合唱指揮者)

・内容/山口県総合文化祭慶祝演奏の合同練習及び演奏技術向上のための講習会

・会場/山口市民会館小ホール



また、翌日からの2日間で行われた音楽4部門の発表は、高校生の気迫あふれる演奏が続きました。今年度の合唱部門出演校は、7校137名が参加し、各校個性豊かな演奏を披露しました。

コロナ前から合唱部門の生徒数の減少は深刻化していますが、生徒にとっても教員にとってもこの総合文化祭が一つのきっかけとなり、山口県全体の合唱活動がさらに盛り上がっていくことを期待しています。

3. 全国高等学校総合文化祭の記録

萩光塩学院高等学校 合唱部部長 椿 史帆

第 46 回全国高等学校総合文化祭「とうきょう総文 2022」の合唱部門が、8 月 4 日に東京芸術劇場で行われました。新型コロナウイルス「第 7 波」の感染拡大で、私たちが住む山口県も過去最多の罹患者数を記録する中、今回の大会への参加は不安も大きかったです。

しかし、振り返ってみると、あのような素晴らしい舞台上で歌えたことは、私たちにとってとても良い経験になりました。普段の学校生活ではコロナウイルスの影響で合唱を発表する機会が奪われ、歌うことさえ制限されてきました。そんな状況の中、とうきょう総文のような素晴らしい大会で歌えたことに本当に心から感謝しています。

私たちは今回、コンクールの課題曲である「草原の別れ」と、サスケの「青いベンチ」を演奏しました。本番前に、部員のみんが「緊張する」と言っていたのですが、本番では自分たちの合唱をしっかりと楽しむことができていました。そして、これまでの練習の成果を十分に発揮し、光塩らしい合唱で会場の皆さんに元気を届けられたと思います。また、全国から集まった合唱部の演奏を聴くことができたことも良い勉強になりました。自分たちと同じように歌うことが好きな高校生がこんなにいるんだと思うと嬉しくなり、改めて

合唱の楽しさを実感しました。

とうきょう総文での経験をこれからの部活動で活かしていけるように、自分たちの合唱をしっかりと磨いていきたいです。今回はこのような機会をいただき、本当にありがとうございました。

4. その他

今年度は、長く続く新型コロナウイルス感染症の影響から with コロナへと少し変化した年となりました。部会としては、数年ぶりに開催された合唱講習会を皮切りに総合文化祭のホールでの開催が実現し、歌えることの喜びを改めて実感することができた 1 年でした。そして生徒たちは、大勢の人とともにハーモニーを奏で、その音楽で自分たちも周りの人たちも満たされた気持ちになるという素晴らしい体験をすることができました。

まだまだ先が見通せない時代が続きますが、今後も山口県の多くの高校生が歌の輪を広め、豊かな音楽活動を紡いでいってくれることを願い、部会として前進していきたいと思います。



各部門の報告

吹奏楽部門

理事長 中村 亮
(山口県立宇部高等学校教諭)

1 令和4年度の吹奏楽専門部の活動報告

(1) 第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式

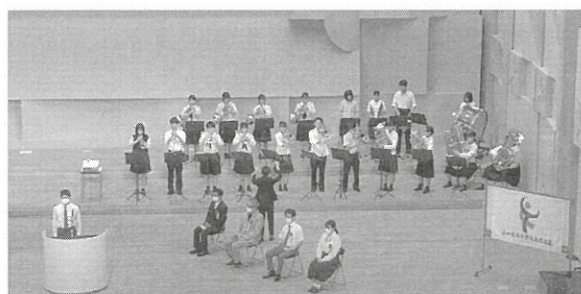
式典における慶祝演奏

- ・開催日 令和4年6月16日(木)
- ・会場 岩国市 シンフォニア岩国 コンサートホール
- ・参加演奏 柳井地域高等学校吹奏楽団
(周防大島、柳井、熊毛南、柳井商工、田布施農工、柳井学園)
- ・演奏曲目・指揮者

【ファンファーレ】

「高文連山口 開会ファンファーレ」(河添 達也 作曲)

< 指揮:小柳菜月(周防大島高等学校) >

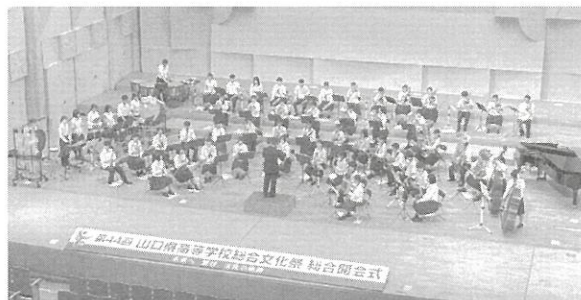


総合開会式 ファンファーレ 柳井地域高等学校吹奏楽団

【慶祝演奏】

「マゼランの未知なる大陸への挑戦」(樽屋 雅徳 作曲)

< 指揮:武安敏之(柳井商工高等学校) >



総合開会式 慶祝演奏 柳井地域高等学校吹奏楽団

(2) 第44回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門発表会

・第73回山口県高等学校連合音楽会

- ・開催日 令和4年6月17日(金)、18日(土)
- ・会場 岩国市 シンフォニア岩国 コンサートホール
- ・参加演奏 42団体 1, 215名

(3) 第46回全国高等学校総合文化祭

- ・開催日 令和4年7月31日(日)、8月1日(月)
- ・会場 東京都台東区 東京文化会館 大ホール
- ・参加演奏 宇部鴻城高等学校(2日目 プログラム8番)
- ・演奏曲目 オリエンツの光芒(片岡 寛晶作曲)
ディズニー・スペクタキュラー(J.モス編曲)
- ・指揮 松田 廉遵(宇部鴻城高等学校)

(4) 吹奏楽専門部総会・研修会

- ・開催日 令和4年11月30日(水)
- ・会場 山口県立宇部高等学校
会議室(総会会場)
コモンホール(研修会会場)
- ・参加人数 45名
- ・研修会講師 小林 恵子 先生(指揮者)



研修会の様子(モデルバンド:宇部高等学校吹奏楽部)

2 山口県高等学校総合文化祭の記録

令和4年度第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式・音楽4部門発表会は、3年ぶりにホール会場(シンフォニア 岩国 コンサートホール)での実施となりました。柳井地区合同吹奏楽団の慶祝演奏を直接お聴きいただけたこと、参加校の演奏を互いに聴き合う機会を設けて頂けたことに、心から感動いたしました。主幹校である熊毛南高等学校・柳井商工高等学校、そして岩国総合高等学校、各校関係者の皆様のご尽力に改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

改めまして、本年度の慶祝演奏では、山口県立柳井商工高等学校、武安敏之先生指揮・指導の下、柳井、熊毛南、柳井商工、田布施農工、柳井学園、各高等学校の代表生徒約50名が、本専門部を代表して「マゼランの未知なる大陸への挑戦」を披露いたしました。作曲者が意図した『志半ばで亡くなってしまったマゼランの“未知なる”航海と、自然へ挑む人間の姿』について熟考され、指導に当たられた武安先生のご指導を生徒たちは確実に理解し、より良い演奏となるよう練習を重ねてくれました。本番の演奏では、作曲者・演奏者の思いが表現された見事な演奏が会場中に響き渡り、大きな拍手をもって迎えられました。

また、6月17日(金)と18日(土)には、音楽4部門発表会を同会場にて実施いたしました。この2日間で、42団体、1,215名が日頃の練習の成果を発揮し、立派な演奏を披露いたしました。この発表会を通して、同じ意識を持つ多くの仲間存在に気づくとともに、新たな音楽表現を創造する意識が高まることを期待しています。

他方、3年ぶりの開催となった同発表会への参加者は約300名減少いたしました。コロナによる文化活動への影響の大きさを痛感すると共に、多感な時期を過ごす高校生に対し、表現活動の場を提供し続けることの大切さを再認識する機会となりました。

3 第46回全国高等学校総合文化祭「とうきょう総文2022」

吹奏楽部門参加報告

宇部鴻城高等学校吹奏楽部 石川 なずな

私たち宇部鴻城高等学校吹奏楽部は、7月31日～8月1日に開催された第46回全国高等学校総合文化祭・とうきょう総文2022に出場させていただきました。

開催時期は、コロナウイルスが全国的に感染拡大していて、様々な制約や制限があり、出場辞退校が数校出た中での開催となりましたが、本校吹奏楽部は無事に部員全員で参加することができました。

私たちは、開催2日目に出演させていただき、吹奏楽コンクールの自由曲である、「オリエントの光芒」(片岡寛晶)と「ディズニースペクタキュラー」を演奏しました。本校吹奏楽部にとっては創部以来初の県外での演奏であり、全国大会という舞台は、非常に楽しみでもありながら、山口県の代表として演奏を披露するという今までに味わったことの無い緊張感を持ち続ける練習の日々でした。

迎えた当日、上野にある「東京文化会館」のステージは、写真や映像を事前に顧問の先生から見せてもらっていたものの、想像していた以上に大きく圧倒されてしまいました。

演奏前の舞台上のインタビューでは本校吹奏楽部の紹介や、山口県の名産や名所について少し話しましたが、なかでもフグが給食で食されることを伝え、客席から大きなうめきが返ってきたことを今でも鮮明に覚えています。

「オリエントの光芒」は今までに経験したことない大きな舞台に少し緊張したスタートとなりましたが、徐々に慣れていき、素晴らしいホールと一体となった演奏をすることができました。「ディズニースペクタキュラー」は演奏だけでなく演出を楽しんでもらおうと、スタンドプレイやダンスを振り付けた演奏をしました。また、曲の途中ではお客さんの手拍子も自然と入ってきて、楽しく演奏することができました。そして、講師の鈴木英史先生からは、「広がりのある柔らかなサウンドと力みのないアンサンブルが良い。」市原満先生からは、「インパクトが強く、躍動感溢れる楽しいパフォーマンスでした。」と、今後の練習の励みになるご講評をいただきました。

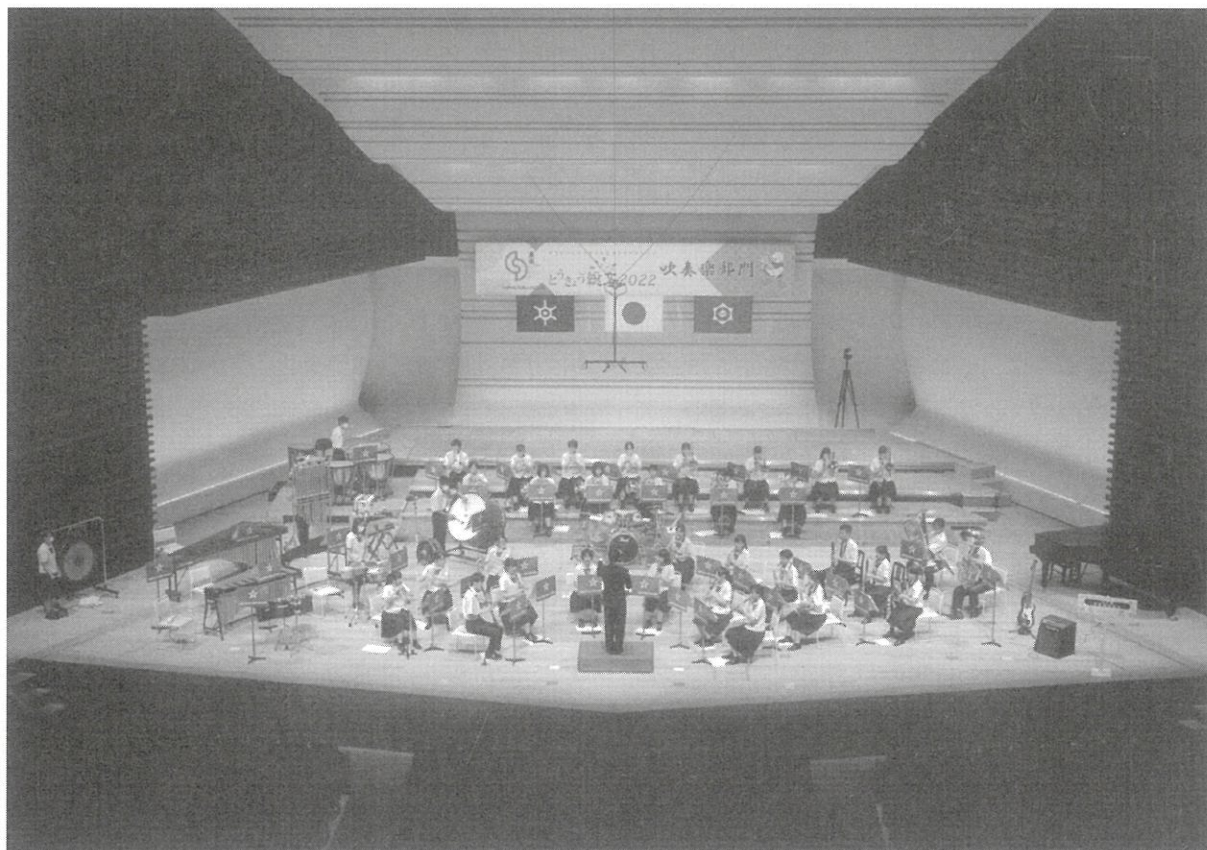
また、全国各地から集まった高校生の演奏、演出は多彩な工夫が凝らされており、演奏の質の高さだけでなく、「魅せる演奏」という私たちにはない素晴らしい演奏をたくさん聴くことができました。

その他、本番前日の全国から集まった高校生との交流会は大きく盛り上がり、東京都や吹奏楽に関係するクイズなどを楽しみました。また、出演前日の「かつしかシンフォニーヒルズ」のリハーサル会場では、総文祭の高校生スタッフの方々が快く迎えてくださり、会場の使用方法などの説明を丁寧にいただきました。そのおかげで、何一つ不自由なく、素晴らしい練習環境の中でリハーサルをすることができました。

そして全国から出場された各演奏団体が素晴らしいのはもちろんのこと、実行委員の皆さんの準備や大会運営の質の高さに圧倒されてしまい、この大会を成功させようという強い思いが、この素晴らしい全国総文になったと思います。

終わりに、今回の出場を通じて、非常に貴重な体験をさせていただいたことと同時に、私たちの課題も多く見つかりました。この経験を無駄にしないように今後更に聴いていただく方に伝わる演奏をめざし、精進していきたいと思います。

そして、多くの方々からの様々なご支援、ご協力くださいました全ての皆様に対しまして部員一同心から、厚くお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



宇部鴻城高等学校吹奏楽部

各部門の報告

器楽・管弦楽部門

理事長 秋本 隆

(山口県立下関南高等学校教諭)

山口県高等学校文化連盟器楽・管弦楽部門では今年度、次のような事業を行いました。

1 第44回山口県高等学校総合文化祭 総合開会式慶祝演奏

期 日：令和4年6月16日

会 場：シンフォニア岩国

参加校：柳井高校 防府高校 山口中央高校
山口高校 下関南高校

演奏曲目：シベリウス作曲

交響詩「フィンランディア」

指揮者：福田 亮（山口県立熊毛南高校）

2 第44回山口県高等学校総合文化祭音楽 4部門発表会

期 日：令和4年6月17日～18日

会 場：シンフォニア岩国

演奏種目：管弦楽・弦楽合奏・ギター・
マンドリン

参加人数：200名

3 第46回全国高等学校総合文化祭 (とうきょう総文2022)

期 日：令和4年8月3日～4日

会 場：東京文化会館

参加校：山口県立柳井高等学校

演奏曲目：ブリッジ作曲

「弦楽四重奏の為の3つの牧歌
作品67より」

グレアム&ロヴランド作曲

「ユー・レイズ・ミー・アップ」

4 令和4年度山口県高等学校文化連盟 器楽・管弦楽部会

期 日：令和4年12月5日

会 場：下関南高校会議室

議 題：第41回器楽・管弦楽スプリングコンサート（岩国大会）について
県総文、全国総文、高文連表彰、役員
改選など

5 第41回山口県高等学校文化連盟 器楽・管弦楽スプリングコンサート

期 日：令和5年3月27日

会 場：岩国市民文化会館

主管校：山口県立岩国高等学校

演奏団体：部門所属7校によるギター・マンド
リン・弦楽合奏・管弦楽の演奏

コロナ禍となり3年ぶりに有観客で通常開催された県総文祭でした。慶祝演奏については例年合唱部門と合同演奏でしたが、今回は感染防止対策の観点から管弦楽単独での演奏となりました。演奏当日初めて約70名のメンバーが顔合わせをし、午前中のリハーサルから本番というタイトな日程でしたが、3年間のブランクを感じさせない堂々の演奏でした。次年度についても本年度と同様の形態で演奏する予定です。また、本年度の全国総文祭（東京大会）は、新型コロナ第7波の猛威がふるう中でしたがほぼ通常開催され、本県代表の柳井高校が弦楽合奏の美しい響きを奏でられました。来年度の全国総文祭（鹿児島大会）については、岩国高校が本県代表として参加する予定です。本県

の器楽・管弦楽部門のレベルは高く、素晴らしい演奏をされることを大いに期待しています。

「全国高等学校総合文化祭に参加して」

山口県立柳井高等学校弦楽部

私たち山口県立柳井高等学校弦楽部は、この度「とうきょう総文 2022」に山口県代表として参加させていただきました。推薦状をいただいた日から一人ひとりが山口県の代表であるという自覚と覚悟を持って、日々練習に励んできました。

今回私たちが演奏した曲は、フランク・ブリッジ作曲「弦楽四重奏のための3つの牧歌 作品67」と「YOU RAISE ME UP」です。どちらもこの大会に向け、みんなで練習を重ねてきました。特に「弦楽四重奏のための3つの牧歌」は、私たち2、3年生にとって、今まで弾いた曲の中で一番と言ってもいいほど難易度の高いもので、半年以上かけて練習してきました。1年生にとっては、入部してわずか3か月でこの曲を完成させなければならず、不安が大きかったことと思います。そんな中、本番では心に響く音楽を届けたいという思いで気持ちをひとつにして演奏することができました。

大会を通して、全国レベルの演奏を肌で感じる

ことができたことは大変貴重な経験になりました。3年生にとっては今回が最後のステージであり、素晴らしい舞台で共に高め合える仲間と集大成の演奏を披露することができたことをとても嬉しく思います。この経験を後輩たちがこれからの部活動で生かし、より高いレベルを目指して精進していってくれることと思います。

最後になりますが、このようなコロナ禍で大会に参加できたことへの感謝とこの大会へと私たちを導いてくださった顧問の宮本先生、岩本先生に部員一同心から感謝いたします。本当にありがとうございました。



日本音楽・郷土芸能部門

理事長 古田 正彦

(宇部鴻城高等学校教諭)

1 活動報告

今年度は、山口県総合文化祭を3年ぶりに有観客で実施することができました。

新型コロナウイルス蔓延防止対策により、観客の人数制限はありましたが、演奏者にとって観客の前で演奏する緊張感や充実感は何物にも代えがたい経験となりました。県の発表会については、主管の下関南高等学校に学校を挙げてご協力いただき、各校発表の機会を得ることとなりました。

- (1) 第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式
式典における慶祝演奏 於:シンフォニア岩国
参加校: 山口県立田布施農工高等学校邦楽部
曲 目: 「赤い花束」(佐藤義久作曲)



慶祝演奏リハーサル(田布施農工高等学校)

- (2) 第44回山口県高等学校総合文化祭日本音楽・郷土芸能専門部発表会
開催日: 令和4年6月18日(土)
会 場: 下関市菊川ふれあい会館アブニール
主管校: 山口県立下関南高等学校
参加校: 日本音楽9校, 郷土芸能3校
講 評: 有富 美子



開会宣言(下関南高等学校生徒会長 土井啓輔)



日本音楽箏曲「六段の調」合奏
(下関短期大学付属・野田学園・聖光・下関南・
田布施農工・柳井高等学校)



郷土芸能「源平音頭」(早瀬高等学校)

- (3) 第46回全国高等学校総合文化祭
(とうきょう総文2022) 日本音楽部門
於:江戸川区総合文化センター
開催日: 令和4年7月31日(日)~8月1日(月)
参加校: 山口県立下関南高等学校
曲 目: 「龍星群」(橋本みぎわ)



全国大会発表リハーサル(下関南高等学校)

(4) 日本音楽・郷土芸能専門部会

於：宇部鴻城高等学校

開催日：令和4年11月28日(月)

議題：県総文、全国総文、役員改選について

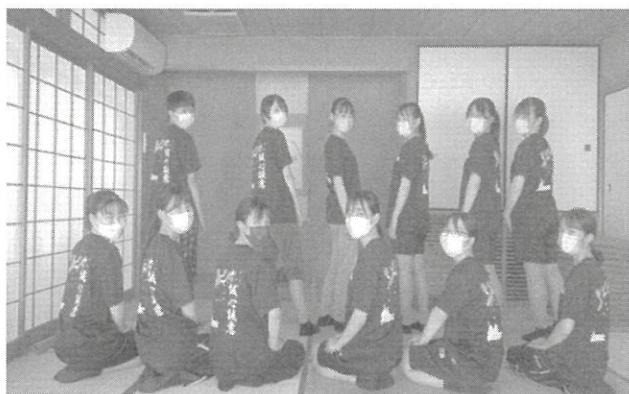
2 「全国総文に参加して」

下関南高等学校 箏曲部部长 二年 梅木 綺那

私たちが演奏した曲は、「龍星群」という難易度の高い楽曲で、まずは一人一人が自分のパートを弾けるようになることが第一の目標でした。一人で弾くのも大変ですが、これを6パートで私たちが演奏している姿が初めは想像もつきませんでした。しかし、ある程度一人で弾けるようになり、みんなで合わせていくうちに最初はバラバラだった音が一つの音になっていくのが分かり、最後まで演奏しきったときの喜びは今でも覚えています。

この曲を通してお琴はただ弾くだけでなく、どのように聞かせたいのか、どう表現したいのかが、演奏する上で大切だと知りました。そして自分たちでこれらについて話し合い、先生方にもアドバイスをもらいながら細かいところまでこだわり尽くした私たちだけの楽曲に仕上げることができました。

きつい時や、上手くいかないこともありましたが、一緒に演奏をする仲間がいたから乗り越えることができたと思います。互いの音を聞きながら一つの曲を完成させることが、こんなにも嬉しいのだと知ることができて、本当に良かったです。



とうきょう総文発表大会に向けて、猛練習!!(下関南高等学校)

主幹校 山口県立下関南高等学校

箏曲部顧問 松岡 範子

去年の今頃、来年の東京大会は南高が出ると決まり、生徒は大喜びしました。2年生(現3年生)は、東京に行くはずだった修学旅行が九州方面に代わり日数も縮小、1

年生(現2年生)は、中学校の修学旅行が中止になった学年です。「みんなで東京に行ける！」それがもう、楽しみで仕方ないようでした。

練習にも、熱が入ります。それはもう、これまでに見たことがないレベルでした。だれも休みません。回数も増え、土日もやると言い出します。いつ行っても、弾いているか、話し合っているか。音の迫力がどんどんパワーアップしていくのが、素人の私にも分かります。譜面が読めない私でも、もっと聴いていたい、ずっと「龍星群」を弾いているこの子達を見ていたい、と思っていました。

大型トラックが入らない会場、駐車スペースが少なく配送業者には嫌がられる東京、そして夏に入ってから右肩上がりのコロナ感染状況。お琴を運んでくれる業者選びから大苦戦、最後は、楽器なんて運んだことはないけれど、生徒さんのためならと、地元の運送会社さんが動いて下さいました。「東京行き、やっぱりやめとこうか」と校長先生にいつ呼ばれるかビクビクしていましたが、「気を付けて、思いっきり弾いておいで」と送り出していただきました。保護者の方も、何人も東京に駆けつけてくださり、「何かあったら呼んでください、手伝いますから」と力強いお言葉。そして、酷暑の中、東京4泊5日、ハードスケジュールにもかかわらず、元気に部を率いてくださった柳井先生、平尾先生。

たくさんの方々の支えと、応援と、生徒たちが流した汗と涙と、膨大な練習時間の結晶が、あの9分間の「龍星群」でした。

たくさんの感動をありがとう。青春っていいなあ、最高だなあ、と心から思いました。ありがとうございました。



各部門の報告

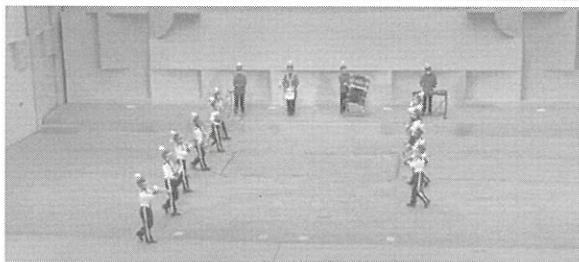
マーチングバンド・バトントワリング部門

理事長 中村 亮
(山口県立宇部高等学校教諭)

(1) 第44回山口県高等学校総合文化祭総合開会式

式典における慶祝演奏

令和4年6月16日(木)に、シンフォニア岩国で開催された総合開会式での式典慶祝演奏に、部門を代表して岩国商業高等学校が出演いたしました。本番では、「行進曲 シルバー・ウイングス」(斉藤高順作曲)の演奏に乗せて、息の合った演技を披露いたしました。



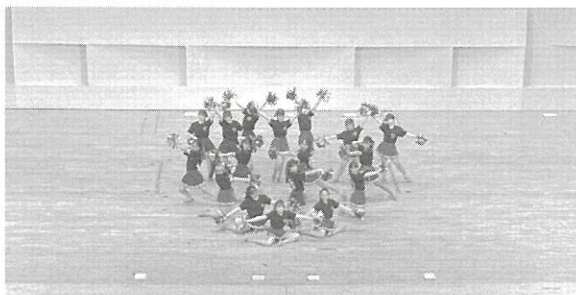
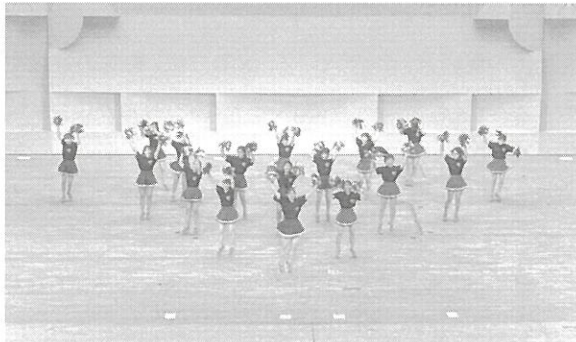
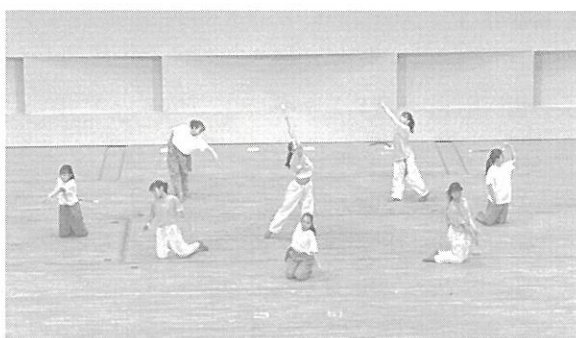
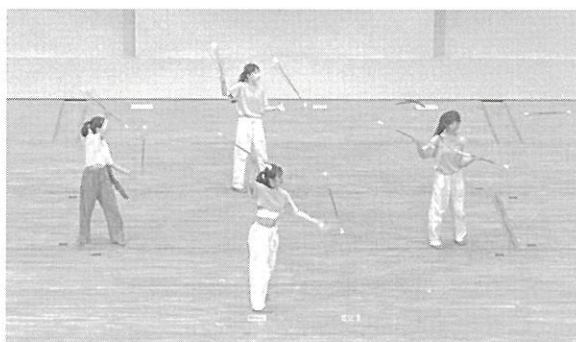
上記写真:総合開会式 慶祝演技(岩国商業高等学校)

右記写真:音楽4部門発表会(慶進中学校・高等学校)

(2) 第44回山口県高等学校総合文化祭音楽4部門

発表会・第73回山口県高等学校連合音楽会

令和4年6月18日(金)にシンフォニア岩国で開催された音楽4部門発表会に、慶進中学校・高等学校が参加いたしました。「Stay」「Me & My girls」「Fight Song」の3曲の特徴を捉え、特色ある演技を披露してくれました。



(3) 第46回全国高等学校総合文化祭

令和4年8月2日(火)、東京都調布市の武蔵野の森総合スポーツプラザで開催されました。

今年度も本県内の他の行事と日程が近いことや、自校の行事との関係で参加は困難でした。

(4) マーチングバンド・バントワリング専門部総会・研修会

【 総会 】

開催日 令和4年8月18日(木)

会 場 リモート(Google meet)にて実施

内 容 以下のとおり

- ・ 第45回山口県高等学校総合文化祭総合開会式
⇒ 慶祝演奏へは慶進中学校・高等学校が参加。
- ・ 第47回全国高等学校総合文化祭への参加について
⇒ パレード及びマーチングバンド・バントワリング
専門部出演団体希望は共になし。
- ・ 令和5年度より、マーチングバンド・バントワリング
専門部理事長は加盟校理事が輪番にて従事
⇒ 山口県鴻城、慶進、長府、岩国商業の順

【 研修会 】

開催日 令和4年8月25日(木)

会 場 山口県鴻城高等学校

講 師 大窪 研二 先生

内 容 マーチングパーカッションの奏法の工夫について

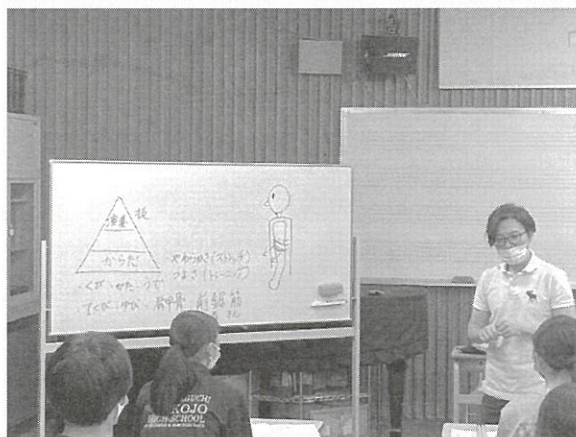
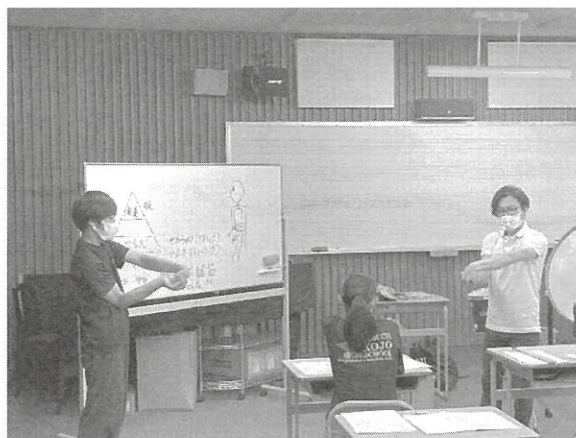
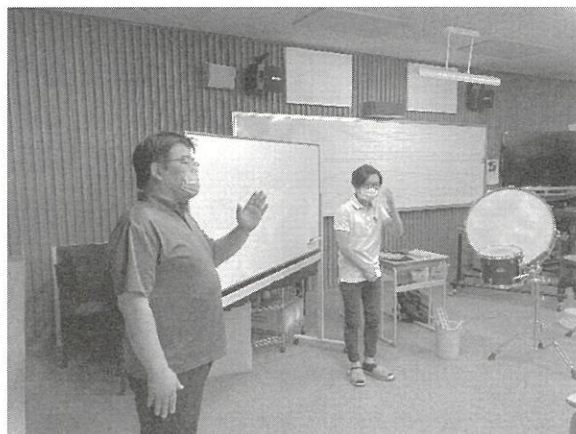
令和4年度山口県高等学校文化連盟 マーチングバンド・バントワリング専門部研修会の講師として、マーチング協会公認指導員、マーチングパーカッション奏者の大窪研二先生をお招きいたしました。

身体の使い方、セッティング、演奏方法、特有の意識や考え方など、打楽器奏者として必要となる考え方について幅広くご教授いただくと共に、マーチングパーカッション特有楽器のセッティングや奏法についても細かくご説明・実践をしていただきました。

受講生は、実践前後の音色や感覚の違いを体感しながら研修に取り組むことができました。

研修会には、マーチング専門部理事のみならず、吹奏楽専門部の理事も参加されました。研修会での内容を、ぜひ各校での打楽器指導に生かしていただきたいと願っています。

右記:マーチングバンド・バントワリング研修会の様子



各部門の報告

美術・工芸部門

理事長 島田 憲貢
(山口県立柳井高等学校教諭)

令和4年度美術・工芸部門の活動について報告いたします。

1 第44回山口県高等学校総合文化祭 美術・工芸部門

11月11日から13日まで、防府市地域交流センターアスピラートで開催しました。本年度の美術・工芸部門には県内30校より130点の出品がありました。内訳は平面124点、立体6点でした。本年度も質の高い作品が多く、平面では73点の作品が50号やB1の出品規定最大のサイズでした。審査で26点が優秀賞に選ばれ、さらにその中から6点が来年度の全国高等学校総合文化祭(2023かごしま総文)の出品候補作品として、最優秀賞に選ばれました。

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に気を付けながら、審査の経緯等を紹介した後、参加生徒を5人程度のグループに分け、全国大会で行われるような相互鑑賞会を実施しました。講評を希望する生徒に対しては、審査員が手分けをして、個別に作品講評を行いました。



最優秀賞(全国高総文祭出品候補作品)

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
岩国高等学校	西村 穂乃	2	無邪気な巨人	F50 縦	絵画
防府西高等学校	平井 花歩	2	笑	B1 縦	絵画
山口高等学校	村岡 真衣	2	思い出の夕日	F50 横	絵画
下関南高等学校	中村 蒼葉	2	青春放棄	F50 縦	絵画
下関中等教育学校	飯田 結	2	わたしの恐竜	F50 縦	絵画
サビエル高等学校	大原 まなか	1	月に吠える	B1 縦	絵画

優秀賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
周防大島高等学校	兼田 柚花	3	サヨナラ	B1 縦	絵画
岩国高等学校	来見 吏紗	2	マジ瘦せたい	F50 縦	絵画
岩国高等学校	田原 葵	2	狼のはあと	F50 横	絵画
岩国高等学校	嘉屋 歩美	3	散歩	B1 横	絵画
岩国総合高等学校	濱田 凌佳	2	人間に憧れる怪物	B1 横	絵画
柳井高等学校	山本 千裕	1	シャボン玉	F30 縦	絵画
柳井高等学校	藤井 春佳	2	見つめる	F50 横	絵画
熊毛南高等学校	林 友樹菜	1	夏の日の思い出	F50 縦	絵画
下松高等学校	長尾 優里佳	2	ポストアボカリプス	105cm×86.8cm 縦	絵画
下松高等学校	山根 歌多	2	お尻愛	縦90cm×横90cm×高さ180cm	彫刻
徳山高等学校	青木 瑚和	2	disordered kosmos	F50 横	絵画
防府商工高等学校	沖本 真優和	1	ラクガキニンゲン	54cm×76.5cm 横	絵画
山口高等学校	猪木 奏	3	2×××年、車窓より	B1 縦	絵画
山口高等学校	梅迫 千奈	1	あじさい	F20 横	絵画

田部高等学校	肥喜里 ほのか	3	成長する君に祝福を！	B1 縦	絵画
下関南高等学校	田村 野乃花	1	嫌	F50 縦	絵画
下関中等教育学校	日浦 果蓮	2	翡翠	F50 縦	絵画
下関中等教育学校	山中 春菜	2	輝きを纏って	F50 横	絵画
下関商業高等学校	下田 遥菜	2	neuron	B1 横	デザイン
宇部フロンティア大学付属香川高等学校	石井 麻由子	1	夕暮れの道	F 3 0 縦	絵画

奨励賞

学校名	氏名	学年	題名	大きさ	種別
下松高等学校	白石 朋実	2	坊主バズれば袈裟まで映え	B1 横	デザイン
防府西高等学校	杉山 由奈	2	顔面水族館	B1 横	絵画
山口中央高等学校	阿武 美羽	1	花かまきり	縦 60cm×横 27cm×高さ 35cm	彫刻
宇部西高等学校	坪井 礼美	3	クレーンゲーム	F50 縦	絵画
下関南高等学校	白石 智咲	1	先輩、また明日	F50 縦	絵画
下関南高等学校	千賀 葵	1	階段を昇る私	F50 縦	絵画
野田学園高等学校	有馬 愛恵	2	夢見乙女	B1 縦	絵画
サビエル高等学校	重村 星七	2	虎じゃらし	B1 縦	絵画

2 第46回全国高等学校総合文化祭(とうきょう総文祭)美術・工芸部門

本年度の全国総文祭は、令和4年7月31日(日)～8月4日(木)の5日間、全国の都道府県で選ばれた絵画、彫刻、デザイン、版画、工芸、映像等401点の優れた作品が、東京の上野にある東京都美術館に展示されました。本年度のこの全国展の展示は都道府県別の展示となっており、一部の立体作品と映像作品を除いて、東京都美術館の第3、第4展示室に一段掛けで展示されていました。多くの立体作品は、平面展示室のスペースに周囲から鑑賞できる形で展示されており、一部は、第1、第2の写真、書道の展示室内にも展示されているものがありました。また、映像作品については、別に鑑賞できる部屋が準備されておりループ再生による展示となっていました。

本県から出品した6点の作品も、作者の思いや気持ちが込められた質の高い作品として、全国の作品に引けを取らない展示でした。

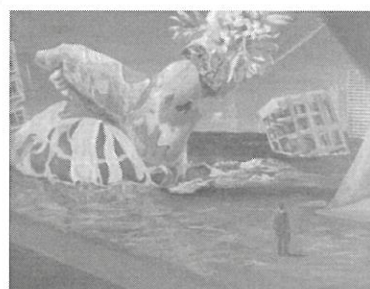
また、全国大会参加校間の交流については、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策をとりながら、東京都美術館の近くにある東京都立上野高等学校にて、各教室5～6グループ(1グループ6人程度)に分かれ、互いの作品を紹介、感想を述べ合うなどの相互鑑賞を行い、その後、とうきょう総文実行委員会の企画した、東京の伝統工芸品のレクチャを受け制作を行いました。本県の生徒達も全国のすばらしい作品群に刺激を受け、より一層、美術文化活動への関心を深め、今後の表現活動への大きな原動力になったことと思います。なお、この大会では優劣をつける審査等は実施していません。

以下、参加した生徒のみなさんよりいただいた感想を紹介します。

山口県立岩国総合高等学校 3年 近藤 想良

題名「脱却サリウム」

全国高等学校総合文化祭には、全国の高校生の作品が集まって、その中に自分の作品も入っていることが嬉しいのです。そして作品を見て、様々な面で刺激を受けました。「こういう画材を使うとこんな表現ができて、この構図だと作品が魅力的に見える」というようなことを知って、自分の表現の幅が広がった気がします。この経験を今後の制作に生かしたいです。



山口県立徳山高等学校 3年 岡嶋 美穂 題名「恍惚」

全国総文祭は美術をやっている高校生にとって本当に夢のような場所で、一生の思い出になります。全国から様々な系統の平面・立体作品が集まり、互いの作品の制作工程に



ついて質問し合えるのがとても楽しかったです。同世代がこんなにも輝いているんだという刺激、驚き。自分自身もこの夏の貴重な経験を糧として更に深く深くまで美術に没入していきたいです。

山口県立防府西高等学校 3年 高橋 みみ 題名「瞄」

初めて全国総合文化祭に参加したことを経て、全国のたくさんの作品に触れたことで、さらに作品に対する着想の幅が広がりました。

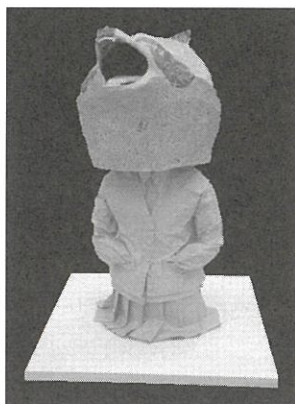


表現方法が多彩で、県によって特徴が出ている作品もあれば、我が道をと突き進んでいるような作品もあったため、素敵な作品に出会えてとてもうれしかったです。また、山口県団での交流は大変楽しく、とても有意義な時間になりました。この経験から学んだことを、これから先の作品制作にも活かしていきたいと思います。

山口県立防府西高等学校

3年 吉本 夕姫 題名「消化不良」

全国の作品を実際に見ることができ、自分の視野や価値観を広げることができました。また、様々な人たちとの交流も楽しめ、とても貴重な体験ができた充実した二日間になりました。



大会を通して学んだことや感じたことなどを無駄にせず、これからの作品制作にいかしていきたいと思います。

山口県立下関南高等学校

3年 田中 千友 題名「つかれる」

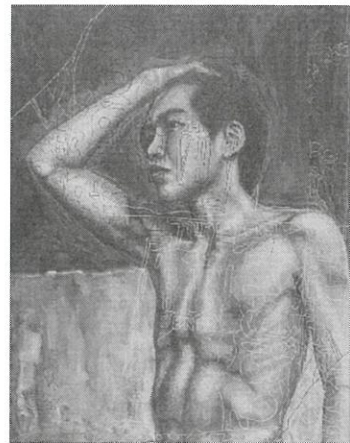
今年の全国総合文化祭で、同世代の人たちの作品を見て、さらにその製作者と交流するという貴重な体験をすることができました。この体験を通して、今まで自分では思いつかなかった表現や、美術に関する様々な考え方を知ることができました。



今回学んだことを、今後の作品に生かしていきたいと思います。

慶進高等学校 3年 小川 翔大 題名「青年の上裸」

私は全国高校総合文化祭に参加して2つ良い経験をしました。一つは全国からの作品が展示された際、そこには多くの凄い作品があり、驚異でした。自分の美術はまだこれからだと思わされたことです。そしてもう1つは



絵を描く人たちとたくさん交流できたことです。私は今まで他校の人たちと接することがなかったため、とても新鮮で良い経験でした。

3 美術・工芸専門部連絡協議会および研修会

本年度の美術・工芸専門部連絡協議会および研修会は、新型コロナウイルス感染防止対策をとりながら、2年ぶりに対面による開催となりました。この2年間で進んできた全国総文祭の動向や運営に関する内容の確認を行い、全国総文の本県開催に備えて、本県の今後の美術・工芸部門の運営や、県総文祭美術・工芸展覧会などについて活発な意見交換を行い、さらに審議を進めていくことが確認されました。また、審議事項については、追加の議案等が提出されたことを受けて、昨年度に続き本年度も本連絡協議会の報告とともに追加審議事項として各学校へ送付し、審議を継続していくことになっています。

その他に、4年前から開催を模索してきていた生徒対象の実技講習会についても、昨年度末ZOOMでのリモート開催を経て、本年度、夏季休業中に山口大学において、同大学教育学部美術教育選修の協力のもと開催できることとなり、今後はさらに内容を充実させていきたいと考えているところです。

また、本年度の県総文では、これまでの講評会を全国大会のような参加生徒による相互鑑賞会形式での鑑賞会に変更し、これについても生徒対象の実技講習会と同様に参加の生徒、顧問教員の感想等を集めて、今後の改善に向けて内容を充実させていくこととなっています。

各部門の報告

書道部門

理事長 鏡 証子

(山口県立美祢青嶺高等学校教諭)

1 書道部門活動報告

(1) 高校生のための書道講習会

開催日 9月17日(土)

会場 秋吉台国際芸術村

内容 一字書創作

講師 南岳杲雲氏

参加数 8校36名

今年度は、公益財団法人山口きらめき財団よりお話をいただき、一字書の講習会を行いました。講師には淡路島の書家、南岳杲雲氏をお招きし、書道教育より広いアートの視点で一字書の理論・実技を教えてくださいました。コロナ禍となり2年間中止していたため、全ての生徒が初めての参加となりましたが、他校の生徒とも親睦を深めながら取り組んでいました。



(2) 第44回山口県高等学校総合文化祭

開催日 11月5日(土)～6日(日)

会場 おのだサンパーク 大催事場

出品数 20校 87点

来場者 336名

コロナ禍となり、会場での講評会を中止していましたが、今年度は紙上に講評をまとめ各校にお送りしました。明清時代や日本の古典臨書が例年より多かったのが印象的で、例年より書の幅広さを感じられる作品展になったと思います。審査の結果は以下の通りです。最優秀賞を受賞した3名は、第47回全国高等学校総合文化祭「2023かごしま総文」へ出場します。

《最優秀賞》

防府高校	2年	加納	愛
山口高校	2年	水野	結衣
下関西高校	1年	金田	明日実

《優秀賞》

防府高校	2年	平口	みちる
山口高校	2年	部坂	友美
宇部西高校	1年	佐々木	怜菜
美祢青嶺高校	3年	重枝	花菜
長府高校	2年	岸田	梨々花
長府高校	1年	村上	遥夏
下関西高校	1年	手嶋	陽菜
下関南高校	2年	沖野	南
下関商業高校	2年	中村	優斗
下関商業高校	2年	黒田	真衣佳

《奨励賞》

岩国高校	2年	久村	菜々美
岩国総合高校	2年	貞益	杏柚
岩国商業高校	2年	森政	佳那実
徳山高校	2年	青木	瑚和
防府商工高校	2年	本弘	葵空
萩商工高校	1年	小田	果歩
下関中等教育学校	2年	廣崎	彩音
中村女子高校	1年	浅川	由依
野田学園高校	2年	有馬	愛恵
早鞆高校	3年	橋口	桃夏
萩光塩学院高校	2年	廣中	芽泉



2 第46回全国高等学校総合文化祭 (とうきょう総文2022)

前年度の山口県高等学校総合文化祭で最優秀賞を受賞した3名の作品が、東京都美術館に展示されました。今回は美術・工芸部門、写真部門も同時に展示され、広く芸術に触れられる機会となりました。書道部門の3点は、県総文の作品を更に大きな画仙紙に書き改め、パワーアップした作品を披露し

ました。審査の結果、防府高校有松さんの作品が特別賞を受賞しました。本県からの受賞は、平成18年の京都大会以来ということで、実に喜ばしい結果となりました。

交流会は感染対策として、和気藹々としたものではなかったようですが、江戸文字をお互いのミニ卷子に書き込むことで、楽しんでいたようです。



参加生徒感想

「全国高校総合文化祭に参加して」

防府高校 3年 有松 優

私は今回、「伊都内親王願文」の臨書に挑みました。初めは慣れない独特な筆遣いや書風の特徴をとらえることにかなり苦戦しましたが、何度も臨書を重ねるうちに上達してきているなど実感することが嬉しく、練習が楽しくなりました。

また、作品制作を通して、何よりも書道の楽しさや奥深さというものを改めて味わうことができました。臨書した願文の中に出てくる漢字や字形、さらに歴史的背景などにも興味を持ち、自分なりに調べた

り先生に教わったりして疑問点を一つずつ解決しながら臨書を重ねていきました。

残念ながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響で現地に行けず、実際に生で作品を見ることはできませんでしたが、全国から選抜された 300 点の作品を作品集で見ました。その中には、さらに様々な書体や表現方法があることを知り、新たにチャレンジしたいと思える作品にも出会えました。

この貴重な経験を通して、これからも自分自身と向き合いながら書道を楽しんでいきたいと思っています。

「第 46 回全国高等学校総合文化祭に出品して」

山口高校 3 年 秋本 優花

この度、県代表として全総文祭に作品を出品させていただいたことを大変光栄に思います。全総文祭に出場することを目標に練習に励んできて、結果が出た時には、「努力は裏切らない」と強く感じ、とても嬉しかったことを覚えています。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、現地へ足を運ぶことは断念することになりました。同世代の高校生の皆さんの作品を間近で鑑賞したり、交流会に参加したりすることはできませんでしたが、作品集に目を通し、素晴らしい作品の数々に圧倒されました。自分の知っている作品もいくつかありましたが、初めて見る作品も多くあり、臨書の魅力を改めて感じることができました。

初めて触れる画仙紙の大きさに驚きながらも、顧問の先生の熱心なご指導のもと、大作を仕上げることができ、私にとって、貴重

な経験となりました。この経験は、さらに書道に親しみたいと思わせるものにもなりました。これからも、書道の魅力を存分に味わいながら、筆を手に様々な作品と向き合っていきたいと思っています。

最後になりますが、全総文祭の準備・運営をしてくださった高校生や関係者の皆様、本当にありがとうございました。

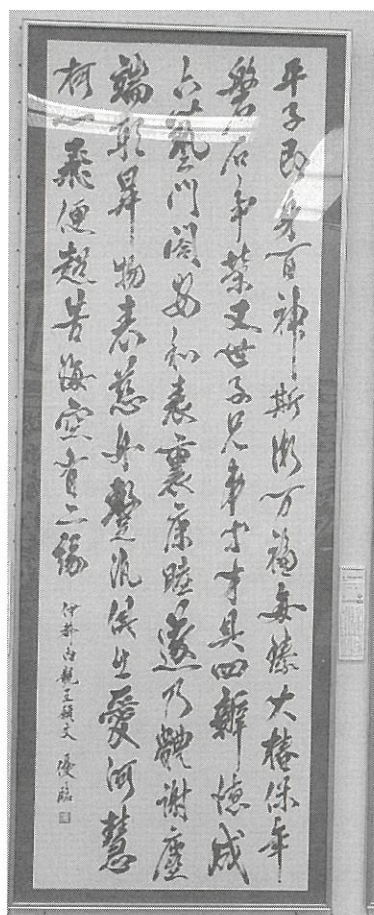
下関商業高校 2 年 黒田 真衣佳

私は、令和 4 年 8 月 1 日から 8 月 3 日まで開催された第 46 回全国高等学校総合文化祭の書道部門に作品を出品し、参加しました。

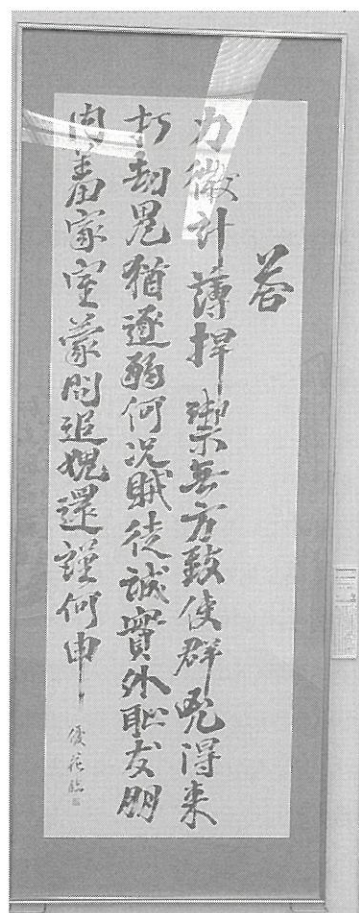
私は、角先生のご指導のもと、「金冬心」の特徴に留意しながら書き進めていきました。「金冬心」は、側筆を強調した隷書体で、強烈なタッチで運筆も速く、重厚感のある作品です。そして、締め切り日近くで、納得する重厚感のある作品を仕上げることができました。その瞬間、熱心にご指導して下さいった先生への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

東京都立美術館には、全国から選ばれたレベルの高い作品が多く飾られていて圧倒されました。そこでは交流会も開かれ、私と同じ高校生の書から書道の奥深さを感じました。全国の雰囲気を実際に味わうことができ、良かったです。

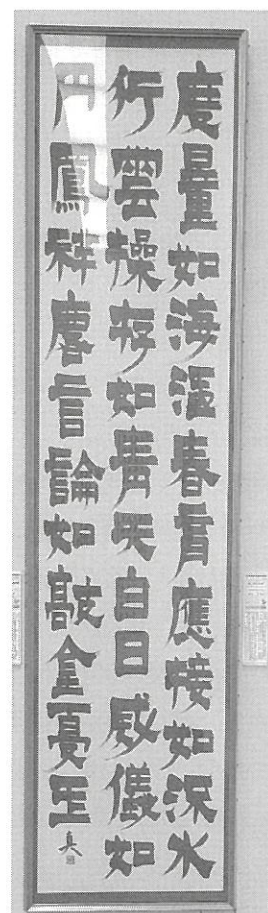
今回出場することができたのは、顧問の先生方や友達など周りの方々からの支えがあったからです。コロナ禍の東京での大会でしたが、今回携わって下さった全ての方々に感謝し、これからより一層精進していききたいと思います。



特別賞受賞
 防府高校
 有松優



山口高校
 秋本優花



下関商業高校
 黒田真衣佳

各部門の報告

写真部門

理事長 尾崎 勝利

(山口県立南陽工業高等学校教諭)

令和4年度の山口県高文連写真部門の活動状況について報告いたします。

1. 令和4年度第46回全国高等学校総合文化祭(とうきょう総文2022)写真部門

全国高校総文写真部門は全国展・企画展が7月31日、8月2日～4日の期間に、美術・工芸部門と同時に東京都美術館で行われました。各都道府県の代表作品が展示される全国展には、全国高校生の撮影した優れた作品が数多くあり、写真の取り組みに対する意識の高さが感じられ、見応えがあります。本県からも5点の作品が出品されました。なかでも下松高等学校の吉川桜優さんの作品「無に在る」が、全国上位30点にあたる奨励賞を受賞しました。

2. 第44回山口県高等学校総合文化祭展示部門

11月10日(木)山口県立南陽工業高等学校において県総文写真部門の作品審査が、また12月17日(土)～18日(日)周南市立德山駅前図書館交流室において作品展示が行われました。今年度は13校128点の作品の応募がありました。ここ10年で最も応募が少なかった昨年度よりも21点多い参加でありましたが、コロナ前の水準よりは30点くらい少ない状況です。部員数や出品数は他県と比較してかなり少ない状況であり、今後の部員数の増加や活動の活性化に課題を残しています。今後は写真部・美術部の垣根を超えた写真の啓発により、写真部会の活性化ができればと考えています。また例年、審査員としてプロカメラマンである(社)日本写真家協会会員のタカオカ邦彦氏を迎え、プロによる評価・講評を続けています。今年度は審査の結果13点が優秀賞に選ばれ、そのうち5点が来年の全国高校総文鹿児島大会への出品候補作品となりました。11月13日の講評会ではタカオカ氏からのていねいな講評があり、参加された生徒・顧問の皆さんも学ぶことが多かったのではないかと思います。

準備・運営に携わってくださった役員の先生方、また補助員の生徒の皆さんに感謝いたします。

3. 11月13日(金)に周南市シビック交流センター交流室に於いて、タカオカ邦彦氏による写真研修会があり、51名の参加がありました。午前中は県総文祭作品の入賞作品講評会の後、参加生徒が提出した作品を講評する研修会を行いました。今回の研修の提出作品のテーマは「ポートレート」でした。作品をスクリーンに投影し、作品に対する本人の説明の後、生徒たちが講師からの講評・アドバイスを受けるという対話重視の研修を体験しました。なお作品展示・講評会・研修会の施設使用料につきましては周南市が全額負担してくださいました。感謝いたします。

また、1～2月には生徒・顧問から提出された作品に対して、タカオカ氏による作品講評がなされる、という形での研修会を行います。

今後も同様な形で研修会を開催し、写真部員の技術向上に役立てたいと考えています。

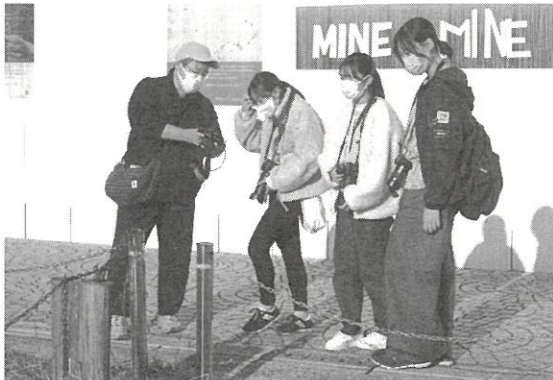


研修会のようす

4. その他の活動

第29回全国高等学校写真選手権大会(写真甲子園2022)の本戦出場校を決める中国ブロック決勝5校に、下松高等学校と防府高校と南陽工業高校の3校が進出し、中国ブロック審査会を経て下松高等学校が本戦出場しました。本県からの写真甲子園本戦出場は一昨年の下松高

校、昨年の防府高校に続き、3年連続であり、全国で毎年500校近くの応募がある中で18校しか本戦に出場できないことを考えると、これは快挙と言っても過言ではないでしょう。また、昨年度に引き続き、公益財団法人山口きらめき財団より、高校生の写真部活動に対する予算措置(助成)がなされ、山口きらめき財団と県高文連との共催の形で「高校生のための写真講習会」を11月5～6日の1泊2日で、秋吉台国際芸術村にて行われました。高校生(写真部であるかどうかは問わない)に対し、日本大学芸術学部教授の秋元貴美子氏を講師に迎え、撮影会・提出写真をもとにした研修・講師の講演会を行いました。宿泊費を含む参加費は無料(食費は自己負担)であり、施設の最寄駅からの無料送迎バスも準備されました。3校26人の参加がありました。



高校生のための写真講習会での撮影会のようす

また、10月29～30日、周南市の徳山下松港開港100周年記念事業として、周南市・下松市・光市の高校写真部の生徒を対象に、写真家 初沢亜利氏を講師に迎え、第2回目となる「周南市高校生写真大会2022」が開催され、5校23人が参加しました。参加費・昼食代は無料。内容は初日に3人1チームでの撮影会・講師による組写真作成についてのワークショップがあり、最終日にはチーム撮影・組写真作成・審査発表(審査員：初沢亜利氏・周南市美術館館長 有田順一氏・アートディレクター 原田祐馬氏)・表彰が行われました。周南市の事業である性質上、周南地域の高校生を対象としたものでありましたが、今年度は防府高校写真部を招待して行いました。

以上のように写真甲子園本戦出場など全国レベルで熱心に活動している部も存在します。また、山口きらめき財団や周南市の取り組みのように、写真部活動に手を差し伸べ、応援してくださる外部団体も存在します。本当に感

謝しています。しかし山口県の高校写真部では、部活動の廃部や活動縮小、定着しない顧問配置など、写真部活動が全く重要視されていないと考えざるを得ない状況が何年も続いています。また、写真専門部の取り組みに対する各学校での周知にも課題が見えます。われわれ生徒と向き合う者は、文化活動に対して意欲ある生徒たちを応援していく存在であって欲しいと切に願います。



周南市高校生写真大会のようす

5.全国高等学校総合文化祭参加生徒の感想

[山口県立下松高等学校 3年 吉川 桜優]

私は今回、第46回全国高等学校総合文化祭東京大会に出場させていただきました。東京の地に足を踏み入れ、景色を撮影するのは初めてなので、とても楽しみにしていました。

生徒交流会では、自己紹介をしながら事前に準備をした自分の作品を見せ合い、感想を言い合いました。普段聞くことが出来ない意見や感想を聞くことが出来て、とても新鮮味を感じました。その後、全国各地から来た高校生と一緒に撮影場所やスケジュールを話し合って決め、翌日に都内での撮影に挑みました。撮影では、同じチームの生徒たちと山手線を一周し、その時に撮りたい場所や景色を撮影しました。生徒たちだけでなく、各高校のコーチや撮影先で出会った方々とも交流をし、仲を深めることが出来ました。この大会で出会った仲間と大会を終えた現在でも連絡を取り合っており、人とのつながりが広がっていくことに喜びを感じました。そして、応募作品が奨励賞に選ばれ、表彰式にも参加させていただきました。受賞したことを知ったときは、驚きが隠せませんでした。写真家の方々に作品を審査していただき、胸が高鳴りました。東京での経験を忘れず、これからの活動に存分に活かしていきたいです。また、再び東京都を訪れる機会があれば、違う視

点や角度から東京都の魅力を再発見し、撮影しようと思います。

[山口県立下松高等学校 2年 西村 七海]

第46回全国高等学校総合文化祭はとても素敵な出会いばかりでした。東京の風景はビルばかりで、普段見ている景色と違い新鮮味を感じました。また、ハービー山口先生の講義では、プロの写真家の方の講義を聞くのは初めてだったので、人との関わりや話しかけ方など普段聞かないことも多く、とても興味深かったです。さらに生徒交流会では、全国各地の高校から集まった個性豊かなメンバーと話したり、それぞれ撮影したお気に入りの写真を交換したりして、仲良くなりました。

2日目の撮影会では、同じチームのみんなと山手線を一周しました。東京はあまり詳しくありませんでしたが、地元の高校生が同じチームだったので、迷うことなくたった1日で東京をめぐることができました。みんなの知っているような有名な駅から、都会とは少しかけ離れた駅まで様々な場所を訪れ、東京の様々な顔を知ることができました。撮影中にかき氷屋さんの店主と出会い、とても親切にしてくださり、いい思い出となりました。

この大会でプロの方の写真の目線を学び、全国各地の高校生、先生方と交流でき、とてもたくさんの出会いに恵まれました。また、様々な展示作品を鑑賞し、いろんな視点の作品が多くとても勉強になりました。

今回のこのような経験をこれからの作品作りにつなげていきたいと思います。機会があれば、また東京を訪れて同じメンバーで撮影をしたいです。

[山口県立防府高校 3年 橋本 唯]

とうきょう総文では沢山の方と出会ってお話する機会が得られ、とても刺激的な経験が出来ました。

1日目の講演会では先生方のこれまでと、良い写真とは何かや何に気をつけてシャッターを切るかなどを聞かせていただきました。その中でも特に印象に残っているのは、ハービー・山口さんが仰っていた「その方の幸せをそっと祈ってシャッターを切ると、不思議と良い写真が生まれる」というお話です。常にそういった心持ちで人と接し、シ

ャッターを切ることでその思いや人柄も写真に乗るのかなと思います。

2日目は、山口県の写真の審査委員である東京在住の先生のご厚意でそこに住むからこそわかるような写真スポットを案内していただきました。その先生は良い写真はまるで映像を見ているみたいに物語を入れ込んでいるんだということを教えてくださり、本を沢山読むようになってから写真に物語を入れ込むということがより出来るようになったと仰っていました。

また、先生は人との出逢いも作ってくださいました。海外に住んでいたという写真好きの方とお話する機会を設けていただき、自分にはない価値観や考え方を知ることができました。

その他にも今回のとうきょう総文に来たからこそ出来た体験・出逢えた方々・知れたことが沢山あります。この経験を通じて私が1番学んだことはおそらく、人脈は写真と人生をずっと豊かなものにするという事です。沢山の人と出逢って、沢山のことを経験することで柔軟な自分自身が確立されていくのだと思います。

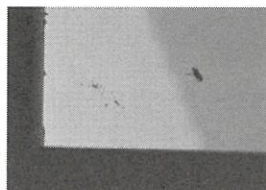
これからも今回学んだことを心に置いて、人を大事にすることを大切に生きていきます。



東京での撮影会のようす

6.令和5年度全国高等学校総合文化祭写真部門

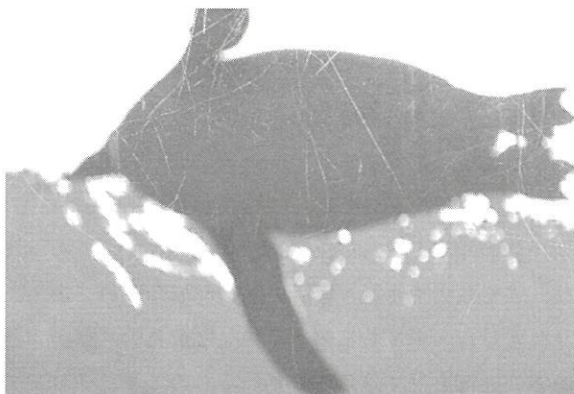
出品候補作品



山口県立下松高等学校 2年 西村 七海『時代を眺る』



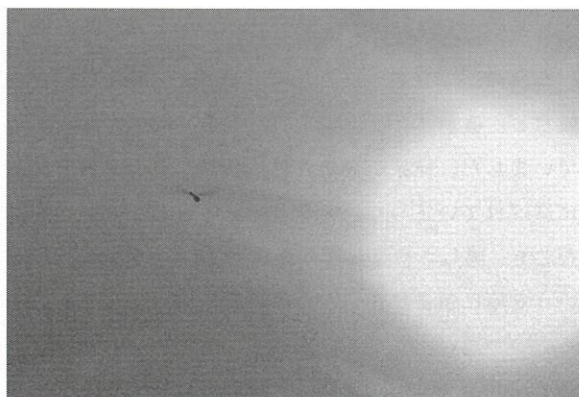
山口県立熊毛北高等学校 1年 有馬 清香『輝き続けて』



山口県立下松高等学校 1年 河村 佳奈『僕は鳥』



山口県立南陽工業高等学校 1年 斉藤 こころ『秘め事』



山口県立下松高等学校 1年 吉光 美葵『邁進』

放送部門

理事長 熊谷 麻衣子
(山口県立山口中央高等学校教諭)

I 第46回全国高等学校総合文化祭(とうきょう総文2022) 放送部門は、8月3日(水)、4日(木)の2日間の日程で、東京都大田区の片柳学園 日本工学院専門学校 蒲田キャンパスを会場に開催されました。昨年11月の山口県大会で選出された生徒と作品が出場しました。どの出場者、出場作品ともに健闘しました。特に朗読部門では、ブロック毎の優勝者に与えられる優秀賞と第2位を受賞しました。



《出場者・作品》(各部門エントリー番号順)

【アナウンス部門】

渡邊 栞 (山口高校3年)
中山 ひかる(光高校 3年)
高野 紗希 (山口高校3年)

【朗読部門】

吉田 朱音 (山口高校2年)
馬木 華歩 (柳井高校3年)
小笠原 涼乃 (下松高校3年) 優秀賞受賞

【オーディオメッセージ部門】

いわくにのうた (岩国高校)

【ビデオメッセージ部門】

街の夢をつなぐ人 (山口高校)
医療現場で闘うスイマー (光高校)

《出場生徒の声》朗読部門 小笠原涼乃さん

8月3日、平和の尊さを伝えるために、私はとうきょう総文の舞台に立ちました。

放送部に入って朗読にふれて、私が大切だと気づいたことは、聞き手に自分が伝えたいことを伝えられるかどうかということです。それから作品や場面を選ぶときや練習するときには、何を伝えたいのか、どうすれば伝わるのかを意識しながら朗読をしてきました。

そして迎えた最後の夏。私は、太平洋戦争の際、人間魚雷“回天”での特攻を志願した若者たちを描いた

作品を読むことに決めました。その本を読んだ時、身近な命を失う虚しさや戦争の恐ろしさを痛感し、当たり前のありがたみを伝えたいと強く思ったからです。

どうすれば伝えられるのか。練習は、顧問の先生に付き合ってもらいながら、その時代の生活様式や歴史的な背景も考えて行いました。しかし、私自身戦争を経験したことがないため、本当にこれでいいのかという不安を感じていました。そんな中、先生が「回天記念館に行ってみないか」という提案をしてくださしました。実際に当時の訓練員たちが暮らしていた宿舎跡に建てられた記念館があると知って、ここに行けば何か掴めるものがあるかもしれないと思い、私は回天記念館に行くことにしました。

まず、入口へ続くエントランスには、国のために亡くなった方たちの名を刻んだ石碑が並んでいました。ズラリと並んだ実名を見て、一気に彼らの魂が感じられるような不思議な気持ちになりました。その他にも、太平洋戦争の流れが書かれたパネルが置いてあったり、服や私物や手紙、写真の現物が展示されてあったりしました。中でも私物や手紙など形見の品は、家族の方の許可を得て展示されているものです。それまで私は想像上の気持ちしか言葉に込めていなかったけれど、過去に寄り添う記念館の展示を見て、訓練士たちやその家族のリアルな気持ちが少しわかった気がしました。戦争があったことを風化させてはいけないと、ここまで“伝えなければならない”という使命感に駆られたのは初めてでした。

舞台の上で発表したときのことはよく覚えていないけれど、直前まで記念館で見た物を心の中で思い返していました。結果が発表され、私はブロックの優秀賞に選ばれていました。スクリーンに名前が映し出されたとき、嬉しさや喜びより先に、“伝えられたんだ”という安堵に包まれました。この経験は、きっとこれから先いつ思い出しても、私の糧になってくれると思います。今大会、そして高校3年間の放送活動全てで学んだことを忘れず、伝えることを大切に生きていきたいです。

2 第44回山口県高等学校総合文化祭第29回山口県高等学校放送部大会は、11月5日（土）に実施しました。参加数は、アナウンス部門20人、朗読部門26人、オーディオメッセージ部門2校2作品、ビデオメッセージ部門7校7作品でした。コロナ禍となってからは、新型コロナウイルス感染症感染対策を講じ、オンライン開催、リアル開催ともに対応できるようなデータ対応など、工夫をしながら、実施しています。例年は午前中に読み（アナウンス、朗読）部門、午後に番組（オーディオメッセージ、ビデオメッセージ）部門の審査を行っていますが、昨年に引き続き今年度も、読み部門のみ山口県健康づくりセンターにてリアル開催、番組部門はデータ審査（後日WEB公開）で実施しました。この大会の上位入賞者は、中国大会である令和5年1月28日（土）～29日（日）に開催される第8回中国地区高校放送コンテスト山口大会、並びに全国大会である令和5年8月3日（木）～4日（金）に開催される第47回全国高等学校総合文化祭（2023かごしま総文）に参加します。



《結果》（各部門エントリー番号順）

【アナウンス部門】

最優秀賞	岩下 梨央	（下関西高校 2年）
優秀賞	森田 遼	（山口高校 2年）
優秀賞	秋本 結衣	（下松高校 2年）
以上3名 全国大会出場		
入賞	牧野 結心	（下関西高校 2年）
入賞	河田 晴香	（高水高校 2年）
入賞	北村 諒子	（熊毛南高校 2年）
入賞	小林 佳穂	（華陵高校 2年）
入賞	竹本 さくら	（下関西高校 1年）
入賞	小林 莉菜子	（華陵高校 1年）
入賞	白石 葉月	（高水高校 2年）
入賞	山本 陽花	（徳山高校 2年）
入賞	瀧 小雪	（下関西高校 2年）
入賞	田中 瑠名	（豊浦高校 2年）

以上13名 中国大会出場

【朗読部門】

最優秀賞	井上 幸紀	（山口高校 2年）
優秀賞	安藤 小瑛	（山口高校 2年）
優秀賞	弘永 操奈	（熊毛南高校 2年）

以上3名 全国大会出場

入賞	多田 妃葵	（光高校 1年）
入賞	吉田 朱音	（山口高校 2年）
入賞	中原 りあら	（熊毛南高校 2年）
入賞	守田 亜未	（下松高校 1年）
入賞	丁野 結月	（熊毛南高校 2年）
入賞	古川 匠	（高水高校 2年）
入賞	大下 凜子	（山口中央高校 2年）
入賞	秋積 優奈	（華陵高校 2年）
入賞	桑原 裕羽	（下関西高校 2年）
入賞	坂野 由奈	（下関西高校 2年）

以上13名 中国大会出場

【オーディオメッセージ部門】

最優秀賞 Mr.A～Logical thinkingの伝導者～

（華陵高校）

以上1作品 全国大会出場

入賞 太陽のせせらぎ （岩国高校）

以上2作品 中国大会出場

【ビデオメッセージ部門】

最優秀賞 本能寺の縁 （高水高校）

優秀賞 養豚農家を目指して～豚と過ごした

6か月～ （山口農業高校）

以上2作品 全国大会出場

入賞 未来へ繋ぐ （岩国高校）

入賞 【初投稿】商店街、推してみた。

（山口高校）

入賞 みんなの笑顔のために （豊浦高校）

以上5作品 中国大会出場

3 おわりに

今年度は山口での中国大会開催もあり、コロナ禍での大会実施、そして途絶えてしまった学校を越えた生徒同士の交流の復活が大きな課題でした。

新型コロナウイルス感染症対策を講じた大会の実施については、ノウハウが出来つつあります。しかし、やはり大きなホールで発表する充実感に勝るものはないと感じています。感染対策と充実度向上の両立に苦心しています。学校を越えた生徒の交流として、研修会を3年振りに行うことができました。新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの実施や、リアルではマスクを着用し同じ内容の研修を複数回行って、分散参加ができる工夫を行うなどしました。引き続き生徒にとってより充実した活動となるよう、交流の持ち方や大会の開催方法を模索していきます。

各部門の報告

囲碁部門

理事長 高野 朝男
(山口県立山口高等学校教諭)

<令和4年度の主な活動報告>

1 囲碁研修大会

期日:7月10日(日)

場所:防府商工高等学校

指導:日本棋院プロ棋士 山本賢太郎



(研修大会・指導碁風景)

〈個人戦〉(男女各1名)

男子 松原 歩夢(山口) 1勝5敗44位

女子 伊藤 未葵(宇部) 1勝5敗43位



(全国総文・対局風景)

2 第46回全国高等学校総合文化祭囲碁部門

期日:8月1日(月)・2日(火)

場所:日本棋院東京本院

参加者は6局を打ち、盤上の熱戦を繰り広げました。

大会は、団体戦(男女混成3名の各県代表チーム)と男女個人戦(各1名の各県代表)で行われました。山口県チームは、前年10月の県総文祭の上位入賞者が代表となって出場しました。大会での順位付けは、団体戦・個人戦ともに、勝者同士・敗者同士を対局させて、2日間で6局の各対局相手の勝敗も加味して順位を決めるスイス方式で行われました。参加した代表生徒はそれぞれに力を出し切りました。また、コロナ禍の中でもそれなりに全国の高校生との交流も楽しんでいました。

《出場者と成績》

〈団体戦〉(男女混成3名)

大原 雅武(宇部)

赤尾 譲司(光)

國富 佳乃(徳山)

2勝4敗40位

3 第44回山口県高等学校総合文化祭囲碁部門 第34回大会

期日:10月23日(日)

場所:防府商工高等学校

参加校は6校で、33名の生徒が参加しました。この大会は、来年度鹿児島県で開催される第47回全国高等学校総合文化祭囲碁部門大会の県代表と今年度本県で開催される第26回中国高等学校囲碁選手権大会の県代表を決定するものです。参加生徒は全部で5局を打ち、スイス方式によって順位を決め、その結果で、男子個人戦上位3名と女子個人戦上位2名が全国大会に出場することになります。

大会結果

男子団体 優勝 山口県立山口高等学校

男子個人 優勝 大原 雅武(宇部)

準優勝 松原 歩夢(山口)

準優勝 田中 秀明(山口)

女子団体 優勝 山口県立防府高等学校

女子個人 優勝 森野 愛彩(防府)

準優勝 國富 佳乃(徳山)



(県総文・対局風景)

4 第26回中国高等学校囲碁選手権大会

期日:12月26日(月)・27日(火)

場所:山口県山口市・山口県健康づくりセンター

中国各県から全70名の選手が参加し、盤上の激戦を展開しました。山口県からは、男子団体戦に山口高校、女子団体戦に防府高校と宇部高校、男子個人戦に県予選の上位12名、女子個人戦に上位3名、合計で24名の選手が出場しました。

《入賞者と成績》

〈団体戦〉

男子 山口高等学校 1勝2敗3位

女子 防府高等学校 1勝2敗3位

〈個人戦〉

男子 大原 雅武(宇部) 4勝1敗4位



(中国大会・対局風景)

将棋部門

理事長 堀 達也

(山口県立下関西高等学校教諭)

本年度も、新型コロナウイルスに注意しながら、県大会を予定通り実施しました。また、全国大会や中国大会なども、予定通り実施されました。参加者数も例年とあまり変わらず実施できました。

また、4月には、山口県初の将棋プロ棋士徳田拳士プロが誕生しました。中学1年で奨励会に入会後、この度プロになりました。プロになられた後も、高勝率で活躍されています。彼に続いて欲しいと思います。

さらに、藤井聡太竜王が、今年も活躍され、将棋をあまり知らない人の間でも、話題になっています。

さて、来年度も、感染防止を徹底し県大会が予定通り実施できるように取り組みたい。

女子個人 7名

優 勝 田村 莉子 (防府商工高校)

準優勝 伊藤 未紘 (徳山高校)



入賞者の写真



対局の様子

1 第44回山口県高等学校総合文化祭

将棋部門

令和4年5月28日(土)・29日(日)

防府市文化福祉会館

男子団体 24 チーム 75 名

優 勝 徳山高校A

準優勝 下関西高校A

3 位 徳山高校C・下関西高校C

女子団体 2 チーム 6 名

優 勝 防府高校

男子個人 82 名

優 勝 廻本 透羽 (岩国高校)

準優勝 實松 楓真 (下関西高校)

3 位 松谷 駿也 (下関工科高校)

竹澤 陽希 (誠英高校)

2 第46回全国高等学校総合文化祭

将棋部門

令和4年8月3日(水)・4日(木)

東京都港区「東京都立産業貿易センター」

男子団体 徳山高校 予選 2勝2敗敗退

女子団体 防府高校 予選 2勝2敗敗退

男子個人 實松 楓真 (下関西高校)

予選 2勝2敗敗退

廻本 透羽 (岩国高校)

予選 1勝3敗敗退

女子個人 田村 莉子 (防府商工高校)

予選 2勝2敗敗退

伊藤 未紘 (徳山高校)

予選 2勝2敗敗退

【全国総文祭に参加して】

山口県立徳山高等学校 棋道部

3年 重國裕太郎

僕は高校に入学してから本格的に将棋を始めました。ルールは幼いころから知っていたので、時々父と指すことはありましたが、戦法など1つも知らないためいつも負けており、あまり好きではありませんでした。

棋道部に入部してからは、先生や先輩から様々な戦法や手筋を教わりました。家ではほとんど毎日インターネットを使い将棋を指しました。練習を重ねるごとに実力がついてきていることを実感し、初めて成果が出たのは、1年生の時に出場した中国大会です。僕はこの大会で3勝2敗と勝ち越すことができ、全国大会に出ることを目標に掲げました。

そして最後の大会でチームメイト2人と団体の部で全国大会への出場を決めました。

全国大会は、8月3日から4日にかけて東京の産業貿易センター浜松町館で行われましたが、県大会と雰囲気はあまり変わらなかったため、いつもと同じように対局に臨めました。

結果的に徳山高校と僕は2勝2敗で予選敗退でしたが、3人とも普段よりも集中しており、それぞれの持ち味を十分に出せた後悔のない将棋を指すことができました。

僕は、2年間の部活動を通して、努力が実を結ぶことを肌で経験することができ、なんといっても将棋という1つの財産を得ました。死ぬまでこの奥深いゲームを楽しみたいと思います。

3 山口県高等学校文化連盟将棋専門部 研修会

(第27回山口県高等学校将棋新人大会)

令和4年11月6日(日)

防府市文化福祉会館

男子個人 11校 62人

優勝 木下 遼 (徳山高校)
2位 廻本 透羽 (岩国高校)
3位 實松 楓真 (下関西高校)
竹重 和輝 (下松高校)
5位 竹澤 陽希 (誠英高校)
小倉 佑太 (宇部高校)

女子個人 2校 4人

優勝 菊池 彩水 (防府高校)
2位 田村 莉子 (防府商工高校)
3位 中村 桜子 (防府高校)

研修会(親睦戦) 予選敗退者で実施

研修会(指導対局)

指導 日本将棋連盟山口支部

北村公一氏・弘中敏之氏



入賞者の写真

4 第21回中国地区高等学校将棋選手権大会

令和4年12月17日（土）・18日（日）
岡山市・ピュアリティまきび

男子個人 参加31名

實松 楓真（下関西高校）	3勝2敗
廻本 透羽（岩国高校）	3勝2敗
木下 遼（徳山高校）	2勝3敗
小倉 佑太（宇部高校）	2勝3敗
竹澤 陽希（誠英高校）	1勝4敗
竹重 和輝（下松高校）	1勝4敗

女子個人 参加15名

田村 莉子（防府商工高校）	3勝1敗
中村 桜子（防府高校）	2勝2敗
菊池 彩水（防府高校）	1勝4敗

5 第30回全国高等学校文化連盟将棋新人大会【前年度】

令和4年1月27日（木）～28日（金）
徳島市・徳島グランヴィリオホテル

男子個人

木下 遼（徳山高校）	
予選	1勝2敗 敗退
大庭 雅裕（大島商船）	欠場

女子個人

峯崎 梓遥（下松高校）	
予選	1勝2敗 敗退
伊藤 未紘（徳山高校）	欠場



対局の様子

各部門の報告

小倉百人一首かるた部門

理事長 藤野 恭平
(慶進高等学校教諭)

1 部門の活動報告

小倉百人一首かるた部門が発足して 10 年が経ちました。様々な方々から御指導をいただき、少しずつ組織として前進しています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止対策をした上で各種大会が開催され生徒はまた目標に向かって日々練習に励んでいます。

かるた競技は、「畳の上の格闘技」といわれています。静寂と美しい日本語の調べのなかで自己と向き合う高度な集中力と記憶力、相手に勝る瞬発力、そして常に冷静な判断力、長時間の対戦に耐え得る精神力や体力が求められる厳しい競技です。また、美しい振る舞いや相手を敬う人間性も必要です。山口県では、かるた会と協力しながら選手育成をおこなっています。かるたに向き合って集中し、日々厳しい稽古に取り組んでいる生徒の顔は、とても熱く輝いています。山口県から、未来の名人・クイーンが育つことを期待しています。

2 第 44 回山口県高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門

5 月 22 日(日)に県総合文化祭を開催しました。新型コロナウイルスの感染予防のため、個人戦の出場選手を制限し実施しました。全国大会の出場を目指し選手たちも気合を入れて臨みました。

団体戦 第 1 位 小野田高等学校 A チーム
第 2 位 小野田高等学校 B チーム
第 3 位 慶進高等学校

個人戦

上級の部

第 1 位 田中 雅貴 (山口県立小野田高等学校)
第 2 位 藤野 杏美 (山口県立小野田高等学校)
第 3 位 田中 満百合 (山口県立長府高等学校)

中級の部

第 1 位 渡部 莉帆 (山口県立小野田高等学校)
第 2 位 末富 優佳利 (山口県立小野田高等学校)
第 3 位 杉 苺香 (山口県立小野田高等学校)

初級の部

第 1 位 高村 柚奈 (山口県立小野田高等学校)
第 2 位 原田 万誼 (山口県桜ヶ丘高等学校)
第 3 位 勝田 真央 (慶進高等学校)



3 第 44 回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

滋賀県大津市の近江神宮で毎年開催される、「かるたの甲子園」と呼ばれる伝統と名誉ある大会です。今年は 7 月 22 日(金)～24 日(日)に開催されました。

団体戦 山口県立小野田高等学校 出場

個人戦 A 級準優勝

田中 雅貴 (山口県立小野田高等学校)

B 級第 3 位

藤野 杏美 (山口県立小野田高等学校)

4 第 46 回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門

今年度は東京都で 7 月 31 日 (日) ~ 8 月 2 日 (火) に開催されました。山口県チームは見事予選リーグを突破し、ベスト 16 進出を果たしました。

団体戦 山口県チーム ベスト 16

主将 田中 雅貴 (山口県立小野田高等学校)

副将 藤野 杏美 (山口県立小野田高等学校)

三将 田中 満百合 (山口県立長府高等学校)

四将 岡本 遥奈

(宇部フロンティア大学付属香川高等学校)

五将 岩本 一輝 (慶進高等学校)

六将 渡部 莉帆 (山口県立小野田高等学校)

七将 末富 優佳利 (山口県立小野田高等学校)

八将 杉 苺香 (山口県立小野田高等学校)



山口県立長府高等学校 1 年 田中満百合

「第 46 回全国高等学校総合文化祭東京大会」

私は、総合文化祭に三将として出場してきました。

初出場だったので、緊張やプレッシャーがありました。

1 試合目の対戦は宮城県でした。この県は A、B 級がそろっていると聞いて鳥肌が立ちました。この試合では、体が思うように動かず、とても悔しかったです。

2 試合目の対戦は山形県でした。この試合では気持ちを切り替えて挑みました。よく集中して相手よりも速く取ることができました。3 試合目の対戦は三重県でした。この県も B 級がそろっていると聞いて、試合前には不安でいっぱいでした。しかし、自分の予想外によく反応できていて取るスピードも速くなっていました。今までで一番良い試合ができたと思います。この大会を通して、県代表という責任の重さや全国の高校生のレベルの高さを痛感しました。また、いろいろな人と対戦して成長した所もあれば、自分に足りなかったものもありました。それは、これからの練習で改善していきたいと思います。また、この大会にあと 2 回出場できるので、チームを引っ張っていけるよう、さらにレベルアップしていきたいです。

コロナ禍でもこの大会を開催してくださった方々に感謝したいです。また、決勝トーナメントに入ることができ、とても嬉しかったです。そして、どの試合でも最後まで楽しめて良い経験となりました。

宇部フロンティア大学付属香川高等学校 3 年

岡本遥奈

「全国総文感想文」

1 年に 1 回しかなくて、3 年間で 1 回だけ総文に出れて良かった。メンバーはあまり知らない人たちばかりで緊張したけど、皆フレンドリーですぐ仲良くできた。段位関係なく試合するから緊張とワクワクでやばかった。1 試合目は、すごく緊張してしまったけど頑張っておいあげできたのが 1 番うれしかった。2 勝 1 敗で決勝トーナメントに進めてすごくうれしかった。1 試合目は A 級が 2 人いたから、A 級とあたればいいなと思って、あたれたから良かった。出る速さも聞く速さも全然自分と違ってすごく勉強になった。決勝トーナ

メントは1回戦で負けてしまったけどベスト16であるメンバーで出来たことがすごくうれしかった。

慶進高等学校1年 岩本一輝

「全国総文で学んだこと」

僕は、とうきょう総文2022の小倉百人一首かるた部門に山口県代表8人の1人として出場しました。

チームとしては4試合出場しましたが、僕はのうち1試合出場しました。僕が対戦した人は相手チームの主将で、僕と同じ高1でしたが、A級の選手でした。僕はC級なので僕にとって相手はとても強かったです。結果は22枚差で負けるという大敗でしたが、焦らないためにどうすれば良いかを考えて試合をすることが大切であるということを学びました。

チームとしての結果は、全国ベスト16という、過去最高成績に並ぶ成績となりました。主将の田中雅貴先輩にはとても感謝していますし、また、自分が高2、高3になった時にはさらに良い成績を出せるようこれから練習を頑張っていこうと思います。そのためにはやはり、部活の練習に集中して緊張感を持って取り組むことが大切であると思いました。日々の練習にしっかり取り組もうとさらに思いました。

山口県立小野田高等学校2年 杉苺香

「全国総文に出場して感じたこと」

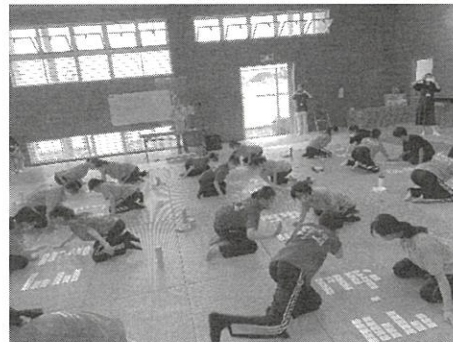
私は7月31日から8月2日まで東京都で行われた全国総文に出場しました。初戦の宮城戦は山口県が劣勢で苦しい戦いでした。最後まで粘り強く戦いましたが惜しくも敗れてしまいました。2試合目の山形戦では私は3番席で試合をしました。自分自身の試合内容はあまり良くなく、かなり緊張してしまって思うような試合ができませんでした。最終的にはお手つきで、チームに一勝をあげることができなかったのもとても悔しかったです。でも周りのみんなが勝ってくれて、チームとして勝利することができました。チームメイトには本当に感謝しています。3試合目の三重戦も勝利することができ、山口県は決勝トーナメントに進むことができました。決勝トーナメントでは埼玉県に敗れてしまいましたがベスト16という結果を残すこと

ことができました。全国の舞台に立って自分の未熟さを痛感しました。この経験を生かし、チームの勝利に貢献できるよう努力しようと思います。

5 第25回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選会

9月11日(日)に開催し、山口県で行われる中国大会への切符をかけ、熱戦が繰り広げられました。

- 団体戦 第1位 山口県立小野田高等学校 A
第2位 山口県立小野田高等学校 B
第3位 慶進高等学校



6 第25回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会

11月12日(土)、13日(日)に山口県立小野田高等学校で開催されました。県内での開催ということもあり、出場選手以外にも役員として多くの生徒がお手伝いとして参加してくれました。

団体戦出場

山口県立小野田高等学校

文芸部門

理事長 白井 理恵子

(山口県立岩国高等学校教諭)

今年度は、2020年の感染症蔓延防止により中止されていた、様々な大会を行うことができました。以下、その一部を報告します。

第46回全国高等学校総合文化祭とうきょう総文2022

期間：7月31日（日）～8月4日（木）

場所：東京都渋谷区 聖心女子大学



散文部門

山口県立徳山高等学校 3年 山本 涼香

私は八月二日から四日にかけて開催されたとうきょう総文二〇二二散文部門に参加した。以下その報告を記す。

一日目は開会式の後、文芸散歩に出掛けた。私たちは文京区コースとして森鷗外記念館、東京大学附属図書館を回った。森鷗外記念館では、戦災から焼け残った三人冗語の石を見学した。ここで鷗外が作品を執筆したのかと思いを馳せ、歴史を感じられた。そして本の外観をした東京大学附属図書館では館内を見学したのち、鷗外に関して館長から講義を受けた。中でも、鷗外はナショナリズムの中にもヒューマニズムを大切にした、という紹介がとても印象に残り、鷗外の文芸に対する姿勢に感銘を受けた。

二日目は部門別交流会に参加した。私は散文部門の中でも広島、鳥取、福島の実験校と同じグループになって活動した。まずはビブリオバトルで交流を深め、次に事前に提出した小説について合評会をした。作品のテーマは「ふるさと」だったが、真正面からふるさとに向き合ったり、ふるさとをマイナスに捉えたり、心の拠り所として考えたり、と作品へのふるさとの取り入れ方が様々でとても面白かった。またストーリー

展開の巧妙さや描写の丁寧さなど一人ひとりの武器も見つけられた。そういった特長を褒め合うような機会はこれまでなかったので新鮮だったとともに、同志の凄さを積極的に吸収することができた。

その後は講師の額賀滯先生の講義から小説とは何か、小説を書くにあたって意識すべきことは何かをワークショップを交えながら学んだ。先生には、常に読者を第一に考えること、実感をもたせるために説明ではなく五感を使った描写を大事にすること、作者が思い描く情景を正確に伝えるためにわかりやすさにこだわること、の三点の重要性を教えていただいた。先生の言葉の中で特に心に残ったのは、小説はマラソンで、最後まで書ききらないと意味がない、ということだ。確かに小説は書いていて苦しくなる時がある。しかし、書き終わって俯瞰的に読み直せば自ずと改善点も見えてくる。途中で投げ出さず、自分が生んだ小説の火種を消さないようにしたい。

三日目は谷村志穂先生の記念講演「まっさらな原稿用紙の前で」を聴いた。講演会では文芸に携わる上で物事の一方的な見方に囚われず、想像力を膨らませることが大切だと学んだ。さらに「書くこと」は人生と並行していて、心が揺れるたびに振幅が大きくなり、表現が広がると教わった。力いっぱい生きることによって自分の表現を豊かにしていきたい。

以上三日間の活動を通して貴重な学びをたくさん得て、同志との交流もできた。この大切な経験を活かしてこれからも文芸を続けていこうと思う。最後に、このような状況の中、開催に尽力してくださった方々、私の参加を支えてくださった方々に感謝し、この報告の結びとする。

詩部門

山口県立下関西高等学校 3年 長田 幸樹

八月二～四日、広尾の聖心女子大学にて、第四十六回全国高等学校総合文化祭、とうきょう総文が開かれ、詩部門に参加した。以下、その報告をする。

一日目、主な予定は開会式と文学研修だった。開会式は大学内の二つの会場で同時に行われ、僕はこのうちの一つマリアンホールで、これからの文学研修の説

明をされた。割り当てられた文京区コースでは、各自日比谷線から千代田線に乗り継ぎ千駄木駅へ、そして森鷗外記念館へ向かった。森鷗外記念館では森鷗外の好んだ庭についての説明を館の方から聴いて、今まで名前と有名な作品でしか知らなかった森鷗外の生活を知ることができた。その後再び電車で、今度はとうきょう総文のスタッフの付き添いで、東京大学付属図書館へ向かった。本来は東京大学へは根津神社を経由しての徒歩での移動だったが、当日の東京の気温は35度を軽く超えたため、電車での移動となったようだ。しかし、そのおかげでスタッフである現地の高校生と話せたことは、なかなか経験し難い思い出になった。

二日目は部門別交流会だった。全国の優秀な文芸部員が集まる三四二教室で、僕の高校では感じることをできない、文芸というコンテンツの大きさを感じた。最初に交流会のメンバーでのアイスブレイクが行われた。四人から五人のグループに分かれ、東京に関するクイズを協力して解いた。そのあとの課題は講師の高柳先生の詩の穴埋めだった。空欄になった箇所になんていう言葉を入れていくのか、当然僕らには答えなどわかるはずもなく、本題はどれだけユニークな詩を創り出せるかである。この問題で、僕は高校文芸で勝ち抜く人間がどれだけ逸脱した発想をするかを思い知らされた。一見命のテーマにしか見えない詩に、カレーライス、パレードに関連する語を入れるなんていうことを、誰が思いつくだろうか。次に、アイスブレイク後の高柳先生の講義では、詩とは何か、詩を作る上で大事なものは何か、また詩における表現技法など、隅から隅まで有益と言わざるを得ないお話を聴かせていただいた。ちなみに高柳先生は子供のころ自身を宇宙人だと思っていたようで、やはり詩人になる人はどこかしら独特な部分があるのだろうか、とも思った。

そして早くも最終日だ。開会式の会場と同じ、マリアンホールで小説家の谷村先生の記念講演を聴かせていただいた。この講演で心に残るものと言えば、やはり「自分を小説の主人公とするとき、まずどのようなシーンから始めるか」という問いだろう。先生はこの問いを参加者に与えた後、何人かに答えを聞いていった。自身の好きなところを映し出す人や、地元の名産について語る人、様々な小説がその場で生み出され、僕には思いつけもしない考え方も多くあった。本当にこの文化祭では、学ぶことだらけである。

閉会式では、とうきょう総文を開催してくださった

方々のお話や、四十七都道府県最後の総文開催地である鹿児島への引継ぎが行われた。閉会の宣言が行われ会場が拍手に包まれたところで突然、総文のマスコットキャラクターが会場に現れ、写真撮影が行われ、会場はもはや記者会見のようになっていた。(無論、僕のスマホのアルバムにも、十数枚の写真が残されている。)

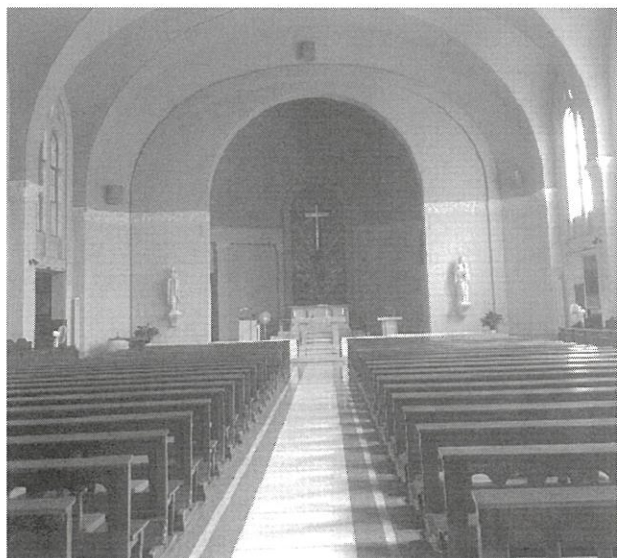
短歌部門

山口県立徳山高等学校 3年 三浦 風沙

私が全国総合文化祭に参加して、特に印象に残ったことがいくつかある。

まず、総合文化祭文芸部門の主な会場となった聖心女子大学そのものが印象的だった。学内にはいたるところにマリア様の絵が飾られており、キリスト教系の大学らしい雰囲気醸し出していた。重そうなドアの向こうには高い天井をもつ礼拝堂があり、まるで小説や漫画の世界のようだった。

そして肝心の短歌部門では、各都道府県から来た猛者たちと語り合い、充実した時間を過ごすことができた。講師の森山晴美先生には、自分の思ったことを素直に歌に乗せる大切さを教わった。万葉集のころから昭和まで幅広い時代の短歌を参考にして、作者が歌にどのように気持ちを託しているのかを学んだ。



部門別交流会でこんな歌を詠んだ。

やっちゃいけないをぜんぶやりたい手始めに
23時のアイスを食べる

「上五の字余りは、短歌で基本的に『やっちゃいけない』ことだから歌の内容と響きあって面白い」という意見をもらい、自分の歌の良さに気づくことができた。やはり初対面の人から褒められると自信につながる。短歌の楽しさを再確認できた会だった。

次に印象的だったのは文学研修だ。森鷗外記念館や東京大学図書館を巡り、東京という都市の文化の豊かさに圧倒された。

森鷗外記念館は観潮楼（鷗外の家）の跡地に建っており、かつてはそこから海が見えたのだという。今では見渡す限り高層ビルが立ち並んでおり、その隙間からは東京スカイツリーがぼんやりと見えた。観潮楼は戦時中に焼失したので、敷石しか現存していない。偉大な文豪のいた場所に自分が立っていると思うと感慨深いものがあった。また私は森茉莉（鷗外の長女で作家）の大ファンだ。茉莉のエッセイにも観潮楼はたびたび登場するので、本物を見てみたかったという思いがつのった。

東京大学のキャンパスは緑にあふれていた。徳山高校の前の通りのようにイチョウが立ち並んでいて、東大生も秋には銀杏のにおいに苦しんでいるのかと思うと少しだけ親近感がわいた。東京大学図書館は並木道の奥にある。古風な木のベンチが備え付けられた閲覧室からデジタル機器が完備された部屋まであり、東京大学の歴史の深さを感じた。

これら以外にも様々なことを学び、楽しむことのできた旅だった。このような機会を得られたことに感謝し、この文章の結びとしたい。

俳句部門

山口県立徳山高等学校 3年 伊藤 彩乃

東京という大都市での開催となった全国総合文化祭では、長時間の移動や慣れない人混みなど様々な苦労が伴ったが、貴重な体験に満ちた充実した四日間となった。

初日は移動日となり、二日目からが本格的な学びの時間となった。二日目の文学研修では、まず森鷗外記念館、それから東京大学図書館へ行き図書館では館長の方から森鷗外についてのご講演を聞かせていただいた。その講演で特に心に残った言葉がある。質問で「今の高校生が森鷗外を楽しむには、どのように読めばよいのか」と聞かれた際の館長の返答だ。まず「楽しむ」という言葉には少し語弊があるというものだった。現代と森鷗外が生きた時代では大きな違いがあり、今を生きる高校生では「娯楽のように楽しむ」のは難

しい。大事なものは「興味をもって学ぶように楽しむ」ことだと言う。昔の時代に生きた人の生き様を参考にするような気持ちで読むといい。特に森鷗外という人物は自分らしく生きることを模索し続けた人であるから、そういう「楽しむ」をもって読むのが「森鷗外を楽しんで読む」ことなのだと教えていただいた。

三日目は部門ごとの交流会となった。私たち俳句部門は、出身地がバラバラの班になることから始まった。それから会場である聖心女子大学のキャンパス内を歩き、そこで目にしたものや感じたことで一人一句俳句を作った。それぞれが作った句を班ごとに評価し合った後、今度は先生の出された題で、班で一句を作り、投票して一番の句を決めた。基本、俳句制作は一人ですることがほとんどだったため、数人で話し合いながら一句作りあげるのはとても新鮮だった。また、同じ班員で一日を過ごしたため雑談する時間が多かったが、そのときに気付いたことがある。交流会の途中で激しい夕立が降ったのだが、関東から来た人たちとそれ以外から来た人たちとでは反応が違った。聞いてみるとゲリラ豪雨も関東ではよくあることだそう。山口出身の私は「夕立」という夏の季語をあまり身近に感じていなかったが、関東の人たちにとっては、それこそ夏の風物詩であるという。また「虹」も夏の季語なのだが、それまでなぜ夏なのだろうと疑問に思っていたのが解消された。歳時記の指す「虹」とはつまり夕立のあとに架かるものであったのだ。これも日本全国から高校生が集まった総文ならではの出来事だと思う。地域による季語の身近さの違いの発見は、小さなことだが、私にとっては大きな発見だった。

四日目の谷村志穂先生の講演は、身に染みる言葉の数々であふれていた。言葉を扱う人は言葉に敏感になっている。人を傷つける為でなく愛するために豊かに言葉を使う、それが私たち文芸に携わる者の役目なのだと。

この四日間の体験は本当に得難いものであり、心から参加できてよかったと思う。

最後に東京総文 2022 に携わった方全てに感謝を。

文芸部誌部門

山口県立徳山高等学校 3年 松田 凜

初日は移動日で、二日目からが本格的な研修だった。開会式を終えた後、私たちは、文京区コースとして森鷗外記念館を見学し、東京大学付属図書館内を見学した後、森鷗外に関する講演を聞いた。私は鷗外の作品は読んだことはないが、一日を通して鷗外の文芸の足

跡を辿って、とても興味が湧き、読んでみたいと思った。

三日目は部門別交流会に参加した。吉原洋一先生の部誌づくりに関する講演を聞いて、その講演をもとに、他校の部誌を『編集』『装丁』『意図』という、三つの観点から読み解き、グループ内で共有し合った。最初の『編集』では、特に目次に注目して読み解くよう、ご指導いただいた。他の部誌を読んでも、散文、詩、俳句、と作品のジャンルごとに並べてあったり、バラバラに並べてあったりと、さまざまであった。部誌にとって、目次、作品の並べ方は、読者にこの部誌をどのように読んでほしいか、を示すためにとても大切なものだということがわかった。二つ目の『装丁』では、表紙や紙質、インデックスなど、読者が読みやすいように工夫されている点に注目した。章ごとにインデックスがついていたり、章ごとに色や材質の違う紙を差し込んであったり、読みやすいようさまざまな工夫がしてあった。また、グループ内で共有する時間では、『耿光』（徳山高校の部誌）の表紙と裏表紙を色合いが綺麗と褒めていただいて、嬉しかった。最後の『意図』では、この部誌をどのような思いで制作したのか、誰に向けて作ったのか、その部誌全体のテーマを意識して部誌を読んだ。この『意図』が一番大切で、これからはっきりと読み取れる部誌は良い部誌である、と先生はおっしゃった。他の部誌を読んでも、部誌の名前がそのままテーマになっていたり、最初に部誌のテーマやどのように作品作りに取り組んだのかを説明してあったりとさまざまであった。こう読んで



みると、私たちはあまり、そういうことを意識して部誌を作っていないことに気付けた。一日を通して、ほとんどの都道府県の学校の部誌に目を通し、部誌作りの心得を学ぶことができた。この学びを、これからの『耿光』のために、後輩たちに託したいと思う。

最終日は谷村志穂先生の講演を聞いた。私は普段、散文を主に書いていて、ためになる話をたくさん聞かせていただいた。その中でも特に心に残った言葉は、書くために生きるのではなく生きる中で書く、という言葉だった。散文を書いていると、どうしても自分の物事の知らなさを痛感してしまい、経験豊富な人の方が奥行きのある深い作品を書けると思いがちだ。しか

し、拙くても今の自分の言葉でありのままを書くことが大切だということが分かった。

三日間の研修を通して、たくさんのことを学んだ。この学びを生かして、これからも、社会人になっても、作品を作り続けたいと思う。

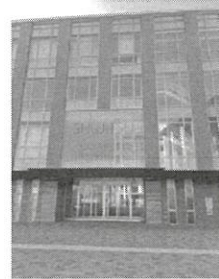
第24回高校生文芸道場中国ブロック大会

（岡山大会）文芸コンクール

期間：11月12日（土）

場所：岡山県岡山市 就実大学

近年、感染症のため見送られていました現地での大会が行われ、講演会や各分科会が実施されました。コンクールの結果は以下のとおりです。



散文部門

優秀

山口県立徳山高等学校 2年 増野 月麦
「すりガラスの向こう」

入選

山口県立徳山高等学校 2年 三吉 花佳
「クリームソーダの夏」

詩部門

優秀

山口県立徳山高等学校 3年 松田 凜
「物語」

入選

山口県立徳山高等学校 3年 山本 涼香
「ちくわは穴が一番うまい」

短歌部門

入選

山口県立徳山高等学校 2年 今元 春樹
「夢破れて…」

山口県立徳山高等学校 3年 三浦 風沙
「やわらかい…」

俳句部門

入選

山口県立徳山高等学校 2年 三吉 花佳
「観客に…」

山口県立徳山高等学校 2年 大迫 悠真
「ビーカーを…」

文芸誌部門

最優秀

山口県立徳山高等学校 「耿光 8 4 号」

令和 4 年度第 44 回山口県高等学校総合文化祭

第 20 回山口県高等学校文芸コンクール

今年度は、参加校 12 校、参加生徒数 63 名、77 作品の応募がありました。結果は以下のとおりです。

なお、優秀な作品は本年度の第 24 回高校生文芸道場中国ブロック大会、来年度の第 47 回全国高等学校総合文化祭鹿児島大会に参加します。

散文

最優秀

山口県立徳山高等学校 3 年 松田 凜

「宇宙戦隊リュウセイジャー★」

優秀

山口県立徳山高等学校 2 年 志熊 龍之介

「デキブレイク・クロード・ミルクセエキ」

山口県立下松高等学校 2 年 逸見 弥生

「記憶を失った後の私」

優良

山口県立防府高等学校 2 年 見戸 幸姫

「選択肢 B」

山口県立萩高等学校 2 年 阿武 未来

「月の石」

誠英高等学校 2 年 幹 あぐり

「カスミソウの彼」

入選

山口県立山口高等学校 3 年 池田 美咲

「木ツ女のサクラさん」

山口県立徳山高等学校 2 年 三吉 花佳

「クリームソーダの夏」

山口県立徳山高等学校 3 年 山本 涼香

「美しき悲しみ」

山口県立防府高等学校 2 年 徳富 桜汰

「好き」

詩

最優秀

山口県立光高等学校 2 年 菅嶋 紗羽

「カラスとガラス越し」

優秀

山口県立徳山高等学校 3 年 松田 凜

「物語」

優良

山口県立徳山高等学校 3 年 三浦 風沙

「進化論」

入選

山口県立萩高等学校 2 年 阿武 未来

「時計」

短歌

最優秀

山口県立徳山高等学校 3 年 伊藤 彩乃

「星にまで」

優秀

山口県立徳山高等学校 3 年 三浦 風沙

「ドラゴンも」

優良

山口県立光高等学校 2 年 菅嶋 紗羽

「浴槽に」

入選

山口県立光高等学校 3 年 皆木 彩那

「赤い空」

俳句

最優秀

山口県立徳山高等学校 3 年 山本 涼香

「シクラメン」

優秀

山口県立徳山高等学校 3 年 伊藤 彩乃

「青梅や」

山口県立下松工業高等学校 3 年 佐野村 卓弥

「山笑ふ」

優良

山口県立徳山高等学校 1 年 湊谷 夏輝

「星空を」

山口県立徳山高等学校 2 年 大迫 悠真

「桜貝」

入選

山口県立防府西高等学校 2 年 高橋 咲耶

「ころころと」

山口県立下松工業高等学校 3 年 三浦 愛弥音

「雲の峰」

山口県立下松工業高等学校 3 年 山口 桃果

「冬めくや」

山口県立下松工業高等学校 3 年 松浦 健人

「インターハイを目指す青春」

最優秀学校賞

山口県立徳山高等学校

自然科学部門

理事長 石 田 純 一

(山口県立山口高等学校教諭)

1. はじめに

今年度、自然科学部門では、「とうきょう総文 2022」にて3分野の研究発表とポスター発表を行いました。参加校は、下関西高校(研究発表[物理])、徳山高校(研究発表[化学])、山口高校(研究発表[生物])、宇部高校(ポスター発表[生物])でした。発表を行った参加校の生徒は、いずれも主体的に研究に取り組み、その結果を自分たちなりに工夫してまとめ、発表しました。

山口県では、自然科学部門立ち上げから12年目になりますが、今年度から全国総文に向けての県内審査会を立ち上げました。申請書類の作成等、参加希望校の皆様には負担をおかけしますが、これにより、県内の自然科学研究のレベルがより一層上がり、全国総文での上位入賞につながることを期待しています。今後ともよろしく願いいたします。

2. 「とうきょう総文 2022」に参加した生徒からの参加報告と感想

以下に、「とうきょう総文 2022」に参加した生徒の声を掲載します。

[1] 研究発表(物理) 「『マスクをしたら声が小さくなる』ってホント？」 下関西高校 竹内 晴大

8月2日に、私はとうきょう総合文化祭に参加しました。トップバッターとして全国の人たちに自分たちの研究を発表することは、とても良い経験になりました。十数分の間、教授の方や他の地域の生徒たちの前で待つのはとても緊張しましたし、十数分が何時間にも感じられました。自分が最初に発表をし始めるので緊張しないようにゆっくり発表したら、常岡くんの発表途中で想定よりも早いタイミングでベルが鳴ったのですごくドキドキしました。でも、常岡くんがしっかりと時間内に収めてくれたのでさすがだなと思いました。

さらに、発表後も高校生新聞の記者の方に見つけていただきインタビューを受けたことも、いい経験になりました。実験で大変だなと感じたことは、最初の頃の、マスクの影響でどの周波数にどのような影響が与えられるかを調べたことです。その実験中は数時間の間ずっとスピーカーから出る純音を聞き続けなくてはいけなかったですし、実験のためにずっと静かにしていないといけなくて気が狂うかと思いました。

なかなか体験することができない、このような機会を与えてくださりありがとうございました。

下関西高校 常岡 慶太郎

私たちはマスクと音の関係の発表を行いました。研究の中で苦労したことは、何についての研究をするか決定することでした。お互いに研究したいことが少しずつ違っていたので2人が納得できる研究内容を見つけることが大変でした。また、研究で苦労したことは、音の研究だったため、条件をそろえることです。音はその日の気温や湿度が関係していると考え、できる限り実験の誤差をなくすため、同じ実験は一日のうちにすべて終わらせることを心掛けました。また、結果の考察をする際も、同じ実験でも同じグラフにまとめてよいのかや、データのちょっとした違いを誤差として扱ってよいのか正しい結果として扱ってよいのかというのを深く考えました。

発表するときに大変だったことは、人にわかりやすく伝えることです。当たり前のことですが、わかりやすい発表をするためには、第一に自分がよく理解しておかなければいけません。また、僕は質問の対応をする係でもあったため、どんな質問に対しても勘違いが起きないように正確に回答するために一つ一つの実験においてなぜ行うのか、また自分たちがまとめた考察も何を根拠にそう思ったのかをいつ聞かれても答えら

れるように論文や研究要旨などを見返して準備をしていました。また発表練習をするときにも、先生方と相談してどのような質問が予想されるかや、その質問が来たらどう回答するかをメモしていました。

当日の発表で感じたことは、準備はいくらしていても足りないということです。先程も述べたように、色々な準備をして会場に向かいましたが、一番初めの発表ということもあり、他校の生徒の皆さんもいる中で十数分の間、前で待っていると、頭が真っ白になって発表がうまくいくのか急に不安になりました。しかしその時に自信を与えてくれたのは『これほど用意してきたんだから』という思いでした。そう思うだけで少しだけ気持ちが楽になりました。しかし、もっと色々な準備をしていたらさらに気持ちが楽になったのかな、と思うとまだ何か準備ができた気がして少しだけ後悔しています。

研究の時から発表が終わるまでたくさんの困難やハプニングがありましたが、すべて終わってみると僕自身やはり研究が好きで、とても楽しかったなと思いました。今回、このように感じる機会を与えてくださった周りの方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

[2] 研究発表（化学） 「海洋プラスチックから瀬戸内海を守れ～酸化チタンによるマイクロプラスチックの分解～」

徳山高校 吉富 颯人

私たちの今回の研究は手探りの連続でした。最初はプラスチックを劣化させるところから始まり、マイクロプラスチックを探したりと現在の研究では使わなかったことを調べたりもしました。また、先行研究は大学の研究室で行ったもののため、先行研究で使用している機材がなくそのままでは測定ができない、つまり参考にならないということも多々ありました。化学分野ならよくあることと顧問からも言われましたが、先行研究との差別化にも苦労しました。思いついたものがたいていは先行研究にあり、独自性を出すのにも苦労しました。

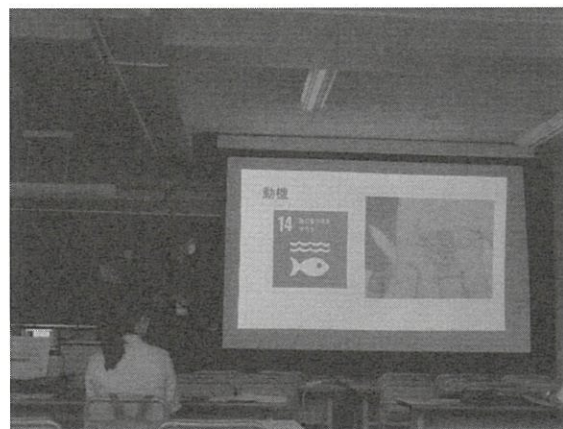
実験中の失敗で印象深いのは資料が入れ替わっていることに気づかず、そのまま実験を続けてデータが半

分くらい取り直しになったことです。確認というものは、やりすぎることではないと学びました。



実際に総合文化祭に出て発表を聞いて、まず驚いたのは他校の研究期間の長さです。私たちの研究が、始めてから大体一年二ヶ月ぐらいで終わらせざるを得なかったものだったのに対し、他校では研究期間が二年を超えるのはざらで、中には十年以上にわたって代々引き継ぎながら研究を続けている学校もあり、本当に驚きました。また、ある班は研究に使う装置だけで一年弱かけていてそれだけで県予選を突破していて、本当にすごいと思いました。

また、総合文化祭のポスター発表ではいろいろな分野の発表を聞くことができ、自分たちが普段やっている化学分野以外の発表、また、「風洞装置を用いたスズメ目各種の翼周辺に生じる気流の解析」のように物理学×生物学というなかなか見られない研究も見ることができ、とても面白かったです。



私たちが出した研究発表では、他校のスライドや発表の進行方法などを見ていろいろと学ぶことができました。大学に入ってから生かしたいと思います。あのような大人数の前で発表することもめったにあることで

はないため、とてもいい経験になりました。

総合文化祭の最終日に行った生徒交流会では、他県の生徒たちとビンゴゲームをしました。初対面とはいえ、色々言い合って問題を解くのは楽しかったです。

最後には、東京大学出身の瀬尾拓史氏の講演を拝聴することができました。タイトルは、「医療×3DCG」という、ベクトルの違う二つのものを掛け合わせて全く新しい診断方法を作ってしまうという研究でした。今後の医療を根本から変えうるレベルの話でも充実した90分でした。私は化学班に所属していますが、化学だけでなく生物学、とりわけ動物行動学が好きです。この講演を聞いて、医療と3DCGという全く別の分野でもここまでのことができるということを知れて大きな希望になりました。

今回自分たちの発表が入賞しなかったこと自体は悔しいことですし、発表の準備にもとても長い時間がかかって大変でしたが、今回はそれ以上のものを得ることができました。特に他校の発表をたくさん聞くことができたのはいい経験だし、楽しかったです。

徳山高校 兼石 悠生

私たちが研究を本格的に始めたのは2年の夏でした。「海洋プラスチックの問題を何らかの手段を用いて解決する」ことを目標に始めた実験でしたが、はじめはなかなか上手くいきませんでした。最初は、プラスチックは日光に当たり続けると劣化するというに着目し、ひたすら放置したりしましたが、あまり効果はありませんでした。どうすればいいのか悩み続けたときに、光触媒である酸化チタンの存在を知り、これを用いて実験を行うことになりました。

酸化チタンを用いることが決まった後も困難の連続でした。酸化チタンをただ加えただけではプラスチックは質量が減少せず、そこからどう発展させていくのかという点が問題となりました。水でなく硫酸を加えてみたり、酸化チタンでない添加物を増やしたりしましたが、最終的には先生方や友人達の協力もあり、光触媒は、加える液体よりも光のほうが重要であることが判明したので、銅を加えることで光の波長を変え、酸化チタンのはたらきを促進するという方法を確立す

ることができました。

東京では様々な経験をすることができました。とうきょう総文の一日目は多くの学校の発表を見ました。他校の発表は多様性に富んでおり、「パンジーの蛍光成分を探る」や「アルミニウムの酸化被膜形成と水素発生量」、「廃棄豚骨による金属イオンの吸着」といった私たちの想像もつかなかったような研究テーマの学校もありました。

私は中でも「麦わらストローの研究」が一番頭に残りました。私たちの研究に関連している部分もあり、対症療法ではなく問題を根本から絶つという視点からの研究であり参考になりました。環境にやさしく、耐久性も高く、生産もしやすい麦わらストローが、いつの日かプラスチックストローの座にとって代わり流通してほしいです。

また、中には私たちと同じ「マイクロプラスチック問題の解決」というテーマに取り組んでいる学校もありました。私たちの学校とは異なる油を用いたアプローチをしており、一つの問題に対しても多様な解決手段がありそれぞれの利点を用いて問題を解決していくことが大切だと感じました。



二日目のポスター発表も驚きにあふれた有意義な時間となりました。スライド発表とは異なる、模型や実演を交えた発表を実際に見ることができ、とても分かりやすく興味を惹かれました。研究発表とは異なり、SDGsや地域の環境や特産品に関連したものが多く、今すぐ役に立つような実用的な研究ばかりでした。過疎化や少子高齢化が進み地方が衰退していく昨今、地元の魅力を引き立てるような研究は人々にとって素晴らしいものだと思います。地球の環境を維持し

ていだけでなく経済も発展させることができるようなこれらの研究が今すぐ役立ってほしいです。

最終日は瀬尾弘史氏による講演会が行われました。医療とCGというあまりかかわりのないジャンル同士を組み合わせることによって、今まで発見することが難しかった腫瘍の発見を容易にしたり、ウイルスのモデルを作ることわかりやすくなりするなど、新たな領域を切り開いていく姿に感動しました。

三日間という短い時間でしたがとても有意義な時間となりました。最終的に、目的であった「プラスチックの可視光下における効率的な分解方法を探す」を達成することはできましたが、まだ実用化することはできません。私たちの研究を知った誰かがこの研究をもとにして環境問題を解決してくれることを祈っています。

[3] 研究発表（生物） 「水流に対するシマアメンボとヒメアメンボの行動の差異」 山口高校 前田 大成

とうきょう総文自然科学部門の生物部門に出場しました、山口高校化学・生物部の前田です。今回、この大会に出場させて頂いたことを大変感謝しています。

私は、1年生の頃からの継続研究である、アメンボを強い水流にさらし、その行動を観察した研究について発表しました。私には今回の研究発表およびその準備にあたって学んだことがあります。それは、「人に自分の研究を伝えることの難しさ」です。私には、観客に伝えたい研究の要点やおもしろさがいくつかありました。それをいかに人に伝えるか、どうしたらより理解してもらえるか工夫を凝らすことがとても大変でした。論文集用の論文作成では、募集要項にしたがって、限られた文字数の中で論を展開していくことはとても難しいと感じました。また、発表に用いたパワーポイントの作成の際には、どのように図やグラフを配置するのか、デザインや色をどのように変えればより見やすいスライドになるのか、そして、実験や考察をどのような順番にすればより伝わりやすくなるのかを模索していくことには大変苦労しました。その上、パワーポイントがある程度完成した後、12分という限られた時間内に発表を収めることが難しいと分かり、スライ

ドを少し作り変えたこともありました。そして、大会本番では、発表者の目を見たり、一人でパソコン操作と説明をこなしたりすることがとても大変でした。

これらの苦労や困難を体験して、私は自身の技能の向上ができたのと同時に、自身のいたるなさを実感しました。これからの人生、何かを人に伝える場面は多々あると思います。その時々、今回学んだことを基盤にさらなる成長を遂げていきたいです。

それから、私は全国各地から集まった高校生の研究に触れ、そのレベルの高さに驚きました。それには研究のテーマや実験方法のレベルの高さもありますが、なにより研究の動機から結論まで発表の流れが美しく、発表そのもののレベルの高さにも圧倒されました。また、各発表の後の質疑応答の際には、他校の生徒が質問するのを聞くだけでなく、私も積極的に質問をして、各学校の研究の理解を深めることができました。このように、全国のトップクラスの研究に触れ、その発表をただ聞くだけでなく自分も参加することによって、「科学」の楽しさを存分に味わうことができました。

私は本大会に参加し、3日間とても充実した時間を過ごすことができました。実は、私が東京に行くのは今回が初めてでした。東京の街並みを実際に目にし、その雰囲気を感じることができ、そういった意味でもとても貴重な体験ができました。しかし、私は今年度で高校を卒業してしまうので、以後この大会に参加することはできません。私は、山口高校の生徒もしくは山口県の高校生が今後もこの大会に参加し、彼らがこの大会で「科学」を全力で楽しんでくれることを願っています。

最後になりますが、実験や発表の準備のご指導に加え、大会当日の引率などにもご尽力くださった、化学・生物部顧問の入江壽朗先生には大変感謝しております。また、これまで私の活動を支援していただいた部員や教員の皆様には、この場を借りて感謝申し上げます。そして、とうきょう総文を企画、運営していただいた実行委員の方々にも感謝申し上げます。皆様、本当にありがとうございました。

[4] ポスター発表（生物） 「光がコウジカビの成長に与える影響～アミノ酸生成量に着目して～」

宇部高校 村中 佑衣

私はこの度、ポスター（パネル）発表部門「光がコウジカビの成長に与える影響～アミノ酸生成量に着目して～」でとうきょう総文に参加させていただきました。出場できることを知ったときはとてもうれしく思い、研究を進めるのにいっそう力が入ったように思います。自分なりに仮説、計画を立て、器具や装置を準備し、実験を行い、結果を記録する。この繰り返したように思いますが、これを1周するごとに毎度気づきがあり、研究を進めるのは楽しかったです。しかし、時には、コウジカビの培養・実験時にコンタミが起こって、すべて一からやり直しになったり、試薬を加えるのを忘れてしまったりと、失敗も多くありました。さらに、時間をかけてポスターやスライドを作ったにもかかわらず、発表会が中止になるということも幾度かありました。そんな中、出場できたとうきょう総文は対面形式で発表ができ、とても貴重な経験でした。ポスター発表を行っていて気づいたことは大きく分けて2つあります。

1つ目は、生徒の研究への熱意の大きさです。どの学校の生徒も、取り組んだ研究をわかりやすく伝えるために様々な工夫をしていました。例えば、手の込んだ展示物を制作したり、動画を見せたりするなどです。「わかりやすく」という点は、わたしが最も苦労したことの一つです。ポスターを制作するとき、言いたいことの中から、どれを文字として載せ、どれを図や表で、また口頭で伝えるべきなのかに悩み、時間が過ぎていきました。最後の最後まで悩んだ図を観客の方に褒めていただけたときは、本当にうれしかったです。

2つ目は、「研究」の面白さです。出場者全員分だけ、研究テーマがあり、実験の手法がありました。私は、一人での参加でしたので、ブースを空けておくわけにもいかず、全員分の発表を聞くことは残念ながら出来ませんでした。近隣の発表を聞くだけでも、それぞれの研究の面白さ、すばらしさを感じられました。

また、総合文化祭というのは、多くの人に支えられ

て、行われていることを実感しました。道順を示すために立って挨拶しているのは、ほとんどすべてが研究発表をするわけではない高校生ボランティアでした。話によると3年前から生徒実行委員会を中心にこの計画を立てていたそうで、感謝しないといけないと思いました。

記念講演をしてくださった瀬尾拓史さんのお話は、一つのことを極めるのも大切ですが、複数のことをある程度知っておくことでも人に役立つことがあると学びました。とても面白く、これからの自分の進路に重ねて考えることができました。

最後になりましたが、この度は参加させていただきありがとうございました。ここで発表をしたことは、将来研究を進めたり、研究を発表したりするうえで生きてくると思います。これからも頑張っていきたいと



全国高等学校総合文化祭に参加して

山口県立華陵高等学校

丸子 美花

私は、東京都千代田区で行われた全国高等学校総合文化祭の総合開会式に、山口県代表として参加しました。私は、カメラを持ちはじめたばかりで、高等総合文化祭についても何も知りませんでした。全国という大きな舞台に参加できることに喜びを感じましたが、私に県代表が務まるのかという不安もありました。

開会式への参加が決まった際、ある宿題が出されました。『日本の美を再発見！』という山口県の伝統工芸品の写真を撮り、その紹介をするというものでした。山口県の伝統工芸品といえば、萩焼、赤間硯、大内塗などがあります。友達とも他県に山口県の伝統工芸品を紹介するのなら何が良いのか話し合った結果、『金魚提灯』に決めました。紹介するために写真を撮らなければならない、実際に柳井市に写真を撮りに行きました。山口県には素敵なものがあることが全国の人に伝わるような写真を撮るため、何度もシャッターを切りました。その日は風もあり、写真はモノクロでなければいけなかったため撮るのが大変でした。

当日は朝も早いので、前日に新幹線で東京へ行きました。その時はまだ、本当に来た、これから参加するのだという実感がわきませんでした。翌日、電車から見た会場や、同じように会場へ向かっている人を見て、やっと来たのだという実感がわきました。

本番当日、会場へ行くと既に多くの高校生が集まっており、ここにいる高校生全員が参加するのだと思うととても緊張しました。そして、受付や案内を同じ高校生がしているのを見て、こんなにも高校生が主体となっているのだと驚きました。リハーサルや本番の説明も実行委員会の人たちが丁寧にしてくれました。同じ高校生なのにこんなにしっかりしていてすごいと感じました。

本番前のリハーサルでは、ステージでの立ち位置や出るタイミングの調整をしました。本番までの休憩中に、他県の高校生と交流できる機会がありました。自分からは緊張して声をかけることができずにいると、実行委員の方が話しかけてくれました。話しかけてくれたおかげで緊張がほぐれ、楽しい時間になりました。

本番、会場の席は人で埋まり、カメラも回っているためリハーサル以上に緊張しました。リハーサルの時にもらったアドバイスを意識しながら自分の役割を精一杯果たしました。結果、無事に終わり、いいものになることができ、とても嬉しく思いました。

その後、高校生たちによるミュージカルを見ました。リアルな私たち高校生の心情を元にしたストーリーで、共感できる部分も多く、観客も一緒になって楽しめるものでした。堂々と発表する姿はとてもかっこよく、この総文を素敵なものにしようとしているのが伝わってきてとても眩しく見えました。高校生たちが作り上げる総文を知ることができて、参加することができて良かったと感じました。

今回の「とうきょう総文」に参加したことで、全国の高校生で何かを作り上げるという貴重な経験や、今までしたことのない経験を沢山することができました。この貴重な経験を、これからの学校生活に生かしていきたいと思います。このような機会を与えていただき、ありがとうございました。

自主事業・補助事業の報告

《自主事業》【劇団「のんた」演劇公演】

岩国総合支援学校

【生徒感想】

最初にてんぐの面をつけているところで本物の天狗と思って、びっくりしたところです。メイクがすごかったです。天狗の面を渡したとき女の人がてんぐの面をとられたところのセリフが面白かったです。久しぶりに演劇を観ることができて良かったです。



【教員感想①】

児童・生徒の声が大きく劇の声が聞こえにくい場面があった。コロナ発生で何年間も劇やコンサートを観たり聴いたりすることがなく、今回久々に楽しい行事に子どもたちが参加することができました。子ども達は、興味津々で舞台をみて、楽しさを全身を使って表現していました。この度は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

【教員感想②】

小学部児童にとっては初めての演劇鑑賞でしたが、目の前の物語を身体中で感じていたと思います。内容の理解までは届きませんでしたが、日常では席に着くことが難しい場面もある児童が、身体を動かさずじっとして劇の世界へ入っている所がみられとても感動しました。ありがとうございました。



《自主事業》【山口交響楽団】

山口総合支援学校

【生徒感想①】

ありがとうございました。クラリネットの音がきれいでした。聴いたことがある曲がいっぱいあって楽しかったです。体に響きました。音には色や形があって、その形ごとに音が変わっていくのにびっくりしました。またぜひいらしてください。待っています。



【生徒感想②】

指揮の体験をしました。緊張したけど、楽しかったです。いろんな曲を聴くことができました。アンコールも良かったです。全曲聴けてうれしかったです。またいらしてください。コンサートがあったら行きたいです。



【生徒感想③】

ディズニーメドレーを聴いて心に残りました。ヴァイオリンの音色がきれいでした。馬のしっぽでひくことにびっくりしました。いろんな曲を聴けて楽しかったです。いろんな楽器の紹介で分かりやすく説明くださりありがとうございました。またいらっしゃってください。ありがとうございました。



《自主事業》【山口交響楽団】

下関南総合支援学校

【生徒感想】

本日は、楽しい音楽をたくさん聴かせてくださり、ありがとうございました。

僕は、生まれて初めてオーケストラの生演奏を聞きました。CDを聞くのとは違って、耳だけでなく体中に振動を感じました。また、教科書で

か見たことのなかった楽器を実際に見て、音色を聞いて、とても勉強になりました。

これを機会に、いろいろな音楽や楽器に親しんでいきたいと思います。ありがとうございました。



《自主事業》【古館由佳子ジプシーバイオリン 公演】

宇部総合支援学校

【生徒感想①】

美しき青きドナウを聴いた時に、目の前に美しい森と清らかに流れる川が見えました。昔からハンガリーとオーストリアはご縁が深い

ので、生で聴くことができてうれしかったです。ヴァイオリンの無限に広がる音色とピアノの生き生きとしたリズムに心が踊りました。チューニングの後にすぐに演奏が入った瞬間、鳥肌が立ち

ました。前奏なしで息の合う演奏ができるのは、おたがいを信頼しているからこそだと気づきました。

すてきな音色を届けて下さり、ありがとうございました。



【生徒感想②】

初めて古館由佳子さんの公演を鑑賞しました。ヴァイオリンの音を間近で聴くのは初めてで、すごく印象に残りました。曲の途中で「キューイン」という音が聞こえてきて、鳥の鳴き声に似ていたのですごいなと感じました。前半の曲は、正直分からなかったですが、ラピュタの曲が最後に演奏されて「あっ！！ラピュタの曲！！」と頭に浮かびました。それと同時にムスカ大佐の名言も浮かび、笑ってしまいそうになりました。本当にありがとうございました。

《自主事業》【宇部芸術座 演劇公演】

宇部フロンティア大学付属香川高校

【生徒感想①】

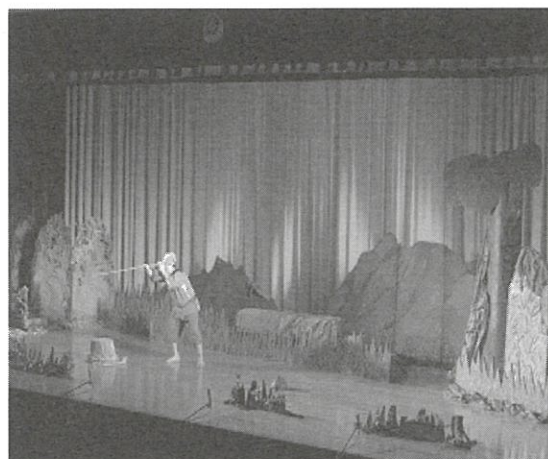
今日の公演で見た昔話は今まで見たことがなかったけど、本で読むよりも迫力があってとてもおもしろかったです。保育科で劇をする時などに、抑揚のつけ方や話し方など参考にできる点が多くあったので、これから劇をする時に生かせるといいなと思います。また、最初に出てくるのが真ん中からだと思っていたけど、端からでてきたのがとても驚きました。ライトもメインの人の場所やシーンによって色や光の方向も変わっていて、そこまで考えられているんだなと思いました。音響もつりざおが水に落ちる音や水の流れる音などがタイミングよくなくて、すごいなと思いました。演劇の公演を見たのは初めてだったけど、とてもおもしろかったです。



【生徒感想②】

私は演劇部で役者をやらせていただけていますが、やはり大人が演じる演劇はクオリティーが高くびっくりしました。役者さんの声は奥までひびき、とても聞き取りやすかったです。動きも同じ動きがほとんどなく、一つ一つに工夫がされていてびっくりしました。とくに、酒に酔っているときの動きはリアルですごかったです。大道具や小道具の作りも手がこんでいて、自分もまるでその川にいるみたいな感じになりました。基本的に大道具は動かさずに劇をしているんですが、照明の入れ方や、今その場所にはいない役者は体を動かさずにとまっていることで、今は殿さまのお城の中なんだと分かりました。そしてまた、川の方に照明をきりかえることで、また川の場面になるという、狭い場所の中でいかに効率よくステージを生かすことができるのか、とても工夫されていてすごいと思いました。私が一番好きだったのが、川に落ちた時の川の水しぶきの表現です。だいたいそこには川があるだけで劇をしてしまいがちですが、あのロープと水色のテープを使うことで川をリアルに表現しているので、これを参考

に部活の道具も工夫していこうと思います。役者一人一人に個性があり、見ていて飽きない素晴らしい演劇でした！！



《自主事業》【RENDAN 公演】

山口県立熊毛北高等学校

【生徒感想①】

今まで連弾というのを見たことがなかったので、見ていてとてもおもしろかったです。2人の仲の良さが公演の中でたくさん伝わってきました。知っている曲も知らない曲みたいにアレンジされていてすごいなと思いました。小さなピアノに2人並んで、20本の指でピアノを弾いているのを見て弾きにくそうだなとか思ったりしていたんですけど、そんなことを感じさせないくらい素晴らしくてめちゃめちゃ夢中になってしまいました。

私は授業でピアノを弾いているのですが、自分とはほんとに天と地の差以上のレベルでプロはやはりすごいなと改めて思いました。普段、クラシックなどを聴くことがなかったのですが、今日から少しずつ聴いてみようと思いました。これからも頑張ってください。

本日は本当にありがとうございました。



【生徒感想②】

初めて生で連弾を聞きました。曲に合わせて音の強弱がはっきりしていてとても聴きやすかったです。ジュピターのときは、すごく落ち着いた感じで感動するような弾き方だったけど、トルコ行進曲やクシコスポストなどは、弾けた感じで楽しみながら聴けるような弾き方でした。ピアノのことは詳しくはないけど、すごく感動しました。小瀧さんは、スタイルがよく腕が長かったので途中にあったあの弾き方は小瀧さんにしかできないようでした。米津さんは、テレビにも出演したことがあるみたいで、ピアノはもちろん演奏後のトーク面でも盛り上げてくださってすごかったです。

東京からわざわざいらしてくださって聴けてとても良かったです。クラシックは普段はまったく聴かないけど今回を機に興味を持ち聴いてみようと思いました。



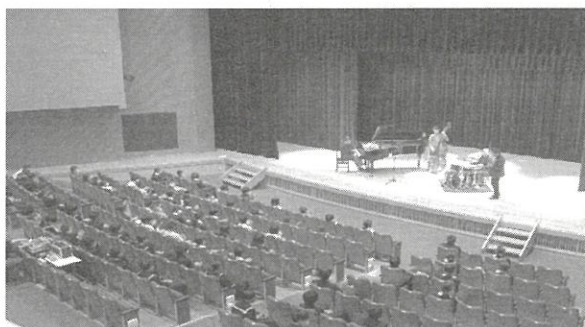
【生徒感想①】

とても良い音色が聴けて、心が浄化されました。有意義な時間を過ごすことができました。また、個人的にジャズコンサートに行きたいです。



【生徒感想②】

生で良い音楽を聞くのは物凄く久しぶりで、ジャズのピアノを聞く機会もあまりなかったので新鮮でよかったです。ジャズのピアノにも興味が湧いたので、自分もやってみたくくなりました。



【生徒感想①】

今回のコンサートでは、今まで触れたことのなかったジャズというジャンルの曲の魅力を知ることができて、とても楽しかったです。ピアノ、ドラム、コントラバス、アルトサックスのそれぞれの音が、重なっては消え、お互いに助け合いながら曲を演奏していたことが強く印象に残っています。ピアノやサックスの音は、今まで聞いてきた音楽とは全く違う音色に感じられて、その幅広さにも驚きました。また、ジャズは演奏もとても難しそうで、経験者でなければとても演奏できないのではと思っていましたが、手を上げた数人の生徒だけでもしっかりと曲が完成していて、感動しました。オーケストラ部と一緒にされた演奏も、リズムカルで迫力もあり、思わず聞き入っていました。普段はあまりこうして音楽に触れることはないので、今回のコンサートはとても良い経験になりました。ジャズにも少し興味がわいたので、色々な曲を聞いてみようと思います。来年の文化講演会が今から楽しみです。



【生徒感想②】

音楽の「ジャズ」というのを生ではじめて聞きました。ジャズだからこそそのピアノの音の出し方、リズムであったり、「ピシッ」とそろえるのではなく、楽しくみんなで音を合わせているところに心がワクワクしました。クラシックは楽譜に書いてあることを忠実に演奏することがほとんどだけど、ジャズは決められた範囲内に自由があるなと感じました。自由があるから、演奏していない

人も心と体が弾んでくるんだと思いました。一回も合わせたことのない人たちでも音でみんなと心を1つにして合わせて、1つの作品にすることができる音楽は素晴らしいと思います。世界中にある素晴らしい音楽に出会っていきたいと思い

ました。

素晴らしい音を届けてくださりありがとうございました。

《補助事業》【吉田豊ジャズコンサート】

山口県立光高等学校

【生徒感想①】

今までジャズを聴くことはあまりなかったのですが、とても良い経験になりました。曲の演奏だけでなく、ジャズの魅力を分かりやすく伝えてくださったり、生徒と一緒に参加して演奏したり、とても楽しく、充実した1時間になりました。校歌をジャズ風にアレンジして演奏してくださったのがとても印象に残っています。光高生徒なら誰でも知っているのも、本来の校歌とジャズにアレンジした校歌のちがいが分かりやすく、ジャズの良さがより伝わってきました。

一緒に吹奏楽部として演奏させていただいて、普段なら指揮に合わせて演奏するところを、その場の雰囲気を感じとって演奏するのは初めてで、合うか心配で不安だったけど、とても楽しくて、「ジャズってこんなに楽しいんだ!」と思うことができました。これからジャズの曲も聴いて音楽をもっと好きになっていきたいです。今日はありがとうございました。



【生徒感想②】

今回、吉田豊ジャズカルテットさんとコラボして、色々な気持ちが芽生えました。自分は普段J-POPや吹奏楽曲などでドラムや鍵盤をやっているのですが、ジャズはそれらの曲とは全く曲の価値観やニュアンスが人それぞれ違うので、どうなるかが分かりません。しかし、それを臨機応変に対応していったら、一緒に心を合わせてやることによって素晴らしい演奏になるということが分かりました。また、井上さんとのドラムのアドリブバトル、セッションは今までで一番気持ちよくドラムを叩くことができました。ジャズ独特のグルーブを体全体で感じて演奏したら一瞬でジャズにハマってしまうと思いました。これからの部活で色々な曲をやることになるけど、今日ジャズを演奏して分かったことや、ドラムの井上さんに教えていただいたことをしっかりと生かしていけるように一日一日を大切に一生懸命練習していきたいです。今日は人生で一度しかないかもしれない貴重すぎる体験をさせていただいて、本当に嬉しかったですし、最高に楽しかったです!

【生徒感想①】

とても貴重な経験をさせていただいたと思いました。普段、わたしたちが聴く歌とはまた違う、約400年以上も前から伝わる芸術を目の当たりにして、圧倒されました。藤田さんの歌への愛が伝わりました。

他国の言語の歌なので、何を意味しているのか分かりにくい部分もありましたが、最初に説明があり、理解してから聴けて良かったです。そして、日本語の歌もあるというのが一番驚きました。ピアノを弾いている方も、もう雰囲気からして、幾年もの年を重ねて腕を鍛えてきたんだろうと思いました。

とても良いものを見られたと思います。

【生徒感想②】

今日の公演によって、「音楽」というものをより理解し、より楽しみ、より好きになりました。私は、以前、ピアノを習っていたことや、クラシックに関係するアニメを見ていた影響でクラシックを聴いたことは何度かありました。また、毎日音楽を聴いたり、歌ったりしているため、音楽は大好きです。そんな私ですが、今日の公演で新しいジャンルの音楽を生で聴き、「音楽ってすごい」という気持ちがより高まりました。

藤田先生のコメントでもありましたが、日常のちょっとした音・リズムも音楽であるという言葉に対して、とても感銘を受けました。今日、明日、この先も、私の周りにはたくさんの音楽があり、音で溢れていることを実感し、わくわくしました。これからも、どんどん「音楽」に触れ、好きになっていこうと思いました。

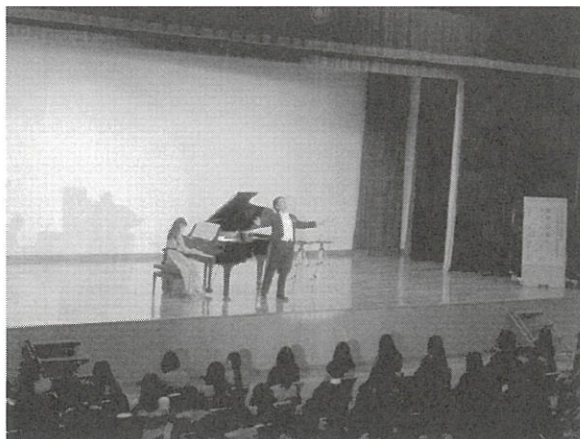
今日の公演に参加できて良かったです。

【生徒感想③】

どの曲も美しく、声に迫力があり、心に響く音楽でした。一つ一つの曲ごとに登場してくる人物の表情や曲への思いが込められた情景などが、藤田さんの声色だけでなく、表情だったり、声のスピード、ピアノの音のやさしさ、歌声と一音一音の混ざり合いから浮かんできました。「すごい」という言葉だけでは、表せないけれども本当に聴けてよかったと思いました。

コロナ禍ということもあり、コンサート会場など行きにくい中、この中村女子高等学校で最高の鑑賞会をしていただけたことに感謝したいと思います。

また、音楽の楽しさや素晴らしさを改めて身に感じる事ができました。今回、この鑑賞会をきっかけに音楽をさらに好きになることができました。



山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No.1

数字は実施年度(62～63は昭和、1～30は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校

☆はコロナ禍により中止したもの。

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峡座	
1	周防大島 安下庄校舎	63, 7, 25	4, 10	10, 21, 28			26, 27
	久賀校舎	63	3				
2	岩国	1					
	坂上分校	63, 11	5, 26	3			
	広瀬分校	63, 14, 21	17	20, 26			
3	岩国総合	1, 30	11				
4	高森		2				
5	岩国商業	3		62, 15			
	定時制東分校						
6	岩国工業		2	6, 8			
7	柳井		7	11, 29			19
8	柳井商工		11, 14	1, 4, 11, 14, 27			
9	熊毛南	63, 19(分), 27, R1, ※R5	6, 17	12, 24			20, 26, 28, 30, R2, R3
10	田布施農工	15(分), 18(分)	3, 18, 20, 27	5, 24	16		22, R3
11	光	63, 20(定)	8, 23	17			21, 29, R2, R4
12	下松	63, 7, 12	15				
13	華陵	63	8	1			R1
14	下松工業		1				
15	熊毛北	R4	2, 14	63, 7	R1		R2, R3, ※R5
16	徳山	4(定), 8(定), 10(定)	15		12		R3
	徳山北分校	63, 21	4, 11	8			20
	鹿野分校	3, 10	9	1, 16			
17	新南陽	63	22	25	5	14	19
18	徳山商工	63, 1, 5		3, 4	7		
19	南陽工業	1, R1	62				
20	防府						23
	佐波分校	63, 7, R2	27	R1	※R5		R4
21	防府西	1	10				
22	防府商工	63(定), 1	12, 30			6	
23	山口	62(定), 15(定), 16(定)	2				27
	徳佐分校	63(分), 25, 27	63, 10, 20	13			
24	山口中央	63, 10, 12, 13	R2☆, R3				22, R1, R4
25	山口松風館						
26	西京	62	4		7		R1
27	山口農業		5, 21		3	24	29
	西市分校		63	22		27	23
28	宇部	63					
29	宇部中央	1(定), 14(定)	10, 19		63, 26	30	23
30	宇部西		14, 28		10, 23		26, 27, 30, R2, ※R5
31	宇部商業	63	62, 6		3		
32	宇部工業	2, 13	8				
33	小野田	63(定), 19(定)			22, 27(定)	25	R2☆, R3, ※R5
34	厚狭	1	15, 21			9, 18	28
35	小野田工業	63(定)				4	
36	美祿青嶺	4, 22	63	R2, ※R5	17, 20, 29	10	
37	田部		1, 13		18	20	

山口県高等学校文化連盟自主事業・補助事業実施校一覧 No.2

数字は実施年度(62～63は昭和、1～30は平成)、※は今年度実施予定、(定)は定時制、(分)は分校 ☆はコロナ禍により中止したもの。

番号		自 主 事 業					補助事業
		青少年劇場小公演	山口県交響楽団	巡回演劇教室			
				劇団のんた	宇部芸術座	下関海峡座	
38	豊浦						
39	長府	1					26, 30
40	下関西						19, 28, 29(定)
41	下関南	22					
42	下関北	62, R3	3, 28, ※R5			15, 22, 29	30
43	下関双葉						
44	下関工科	62, 28	12, 25, 29			2, 6, R1	19, 20, 22, ※R5
45	大津緑洋 大津校舎	63	12		5		
	日置校舎	63, 5, 9, 15	19		25	2, 13, 23	22
	水産校舎		12				
46	萩	63	3			6	24
	奈古分校	11, 17	1, 9, 24			26	
47	萩商工	63	6, 7, 16	23	9	2, 4, 12, 17	
48	下関中等教育				5		
49	岩国総合支援	3, 13, 16, 30	24	10, 19, R4			
50	田布施総合支援	6, 17	62, R2☆, R3☆	30			
51	周南総合支援	15, 17, 20					
52	徳山総合支援	1, 11	※R5				
53	防府総合支援	62, 63, 3, 12, 26, 28	16				
54	山口南総合支援						
55	山口総合支援	19	14, R4				
56	宇部総合支援	63, 5, 14, R3, R4, ※R5	1, 9	18			
57	下関南総合支援	63, 3, 8, 10, 16, R2	7, 25, R4			1	※R5
58	下関総合支援	2, 6	16				
59	豊浦総合支援	11, 13, 16, 23, 29	26			19, 21	20, 27
60	萩総合支援	6, 24					
61	下関商業	14(定)					
62	高水			62			
63	柳井学園	6		63, R3☆			
64	聖光		2, 30				
65	山口県桜ヶ丘		R1				
66	誠英				7	9	
67	高川学園						
68	中村女子	63	2, 5, 22		11	16	R1, R4
69	野田学園	63	18				
70	山口県鴻城		10, 29		12, 15		
71	宇部鴻城		7		9		
72	慶進	29	23		30		21
73	成進						
74	宇部フロンティア香川		1, 5, 15		11, 19, 28, R2☆, R3☆, R4		
75	サビエル						
76	下関国際		R1			※R5	
77	梅光学院						
78	早鞆						
79	下関短期大学付属	62, 63, 4, 7, 24, 26			8	28	
80	長門		6				
81	萩光塩学院						

令和4年度 山口県高等学校文化連盟 事業報告

月	日	事 業	会 場
4	12	会計監査	山口中央高校
	20	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	13	評議員会	山口市：セントコア山口
	17	第44回県総文祭総開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会 令和3年度集録「高文連」発行	シンフォニア岩国
	22	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：山口県桜ヶ丘高校)	小野田高校 武道場
	24	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会	東京：星陵会館
28 ~	29	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：下関西高校)	防府市文化福祉会館
	30	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	岩国総合支援学校
	30	山口県文化連盟 総会	山口市：ホテルニュータナカ
6	6	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	山口総合支援学校
	16	第44回県高校総合文化祭総開会式(主管：熊毛南高校・柳井商工高校)	シンフォニア岩国
17 ~	18	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：岩国総合高校・岩国・柳井支部)	シンフォニア岩国
	18	県高校総合文化祭「日本音楽・郷土芸能部門」(主管：下関南高校)	下関市菊川ふれあい会館(アブニール)
7	1	第32回中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	鳥取県米子市：米子コンベンションセンター
	22 ~ 27	第44回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	滋賀県 大津市 近江神宮
	31 ~ 4	(公社) 全国高等学校文化連盟各専門部会	東京都
	31 ~ 4	第46回全国高等学校総合文化祭(とうきょう総文2022)	東京都
8	1	(公社) 全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	東京都
	19	第44回県総文祭総開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会	熊毛南高校
	25	マーチングバンド・バトントワリング講習会	山口県鴻城高等学校
	27 ~ 28	第33回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9	11	第25回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選(主管：小野田高校)	小野田高校 武道場
10	6	自主事業 青少年劇場小公演「古館由佳子ジブシーヴァイオリンコンサート」	宇部総合支援学校
	6	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	下関南総合支援学校
	7	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：岩国高校)	岩国高校
	23	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管：山口高校)	防府商工高校
22 ~	23	県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管：山口県鴻城高校)	山口市民会館
	31	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	宇部フロンティア大学付属香川高校
11	5	県高校総合文化祭「放送部門」(主管：山口中央高校)	山口県健康づくりセンター
5 ~	6	山口県中学校文化連盟第18回総合文化祭 柳井大会	サンビームやない・アクティブやない
5 ~	6	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：美祢青嶺高校)	おのだサンパーク
	11	自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	下関国際高校※中止
11 ~	13	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：防府西高校)	防府市地域交流センター アスプラート
	12	第24回高校生文芸道場中国ブロック大会	岡山県：就実大学
12 ~	13	第25回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会(主管：慶進高等学校)	山口県立小野田高等学校 武道場
	14	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	防府高校佐波分校
	15	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	山口中央高校
	16	自主事業 青少年劇場小公演「連弾 RENDAN」	熊毛北高校
	17	第1回専門部理事長会	山口中央高校
	17	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	光高校
12	1 ~ 2	第34回全国高等学校文化連盟研究大会(沖縄大会)	沖縄県那覇市：琉球新報ホール・ハ沙荘
	2	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	沖縄県那覇市：琉球新報ホール
	16	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	中村女子高校
17 ~	18	第21回中国地区高等学校将棋選手権大会	岡山県：ビューアリティまきび
17 ~	18	県高校総合文化祭「写真部門」(主管：南陽工業高校)	徳山駅前賑わい交流施設3階交流室2
24 ~	25	第60回中国地区高等学校演劇発表会(主管：宇部フロンティア大学付属香川高校)	山口県下関市：下関市民会館
26 ~	27	第26回中国高等学校囲碁選手権大会(主管：山口県立山口高等学校)	山口県山口市：山口県健康づくりセンター
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校または大蔵中学校
	20	第2回専門部理事長会	山口中央高校
28 ~	29	第8回中国地区高等学校放送コンテスト(主管：山口県立山口高等学校)	山口県山口市：山口県健康づくりセンター
2	9 ~ 11	第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	山梨県甲府市：
	15	第2回企画運営委員会	山口中央高校
3	22	令和4年度中国地区高文連実務担当者会議	鳥取県米子市：米子市文化ホール
	27	第41回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：岩国高校)	岩国市民文化会館
【その他】 各専門部会……部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会…県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業5公演			

令和4年度 山口県高等学校文化連盟会計決算書

R5.3.31

収入総額 39,290,603円
支出総額 28,033,425円
次年度繰越金 11,257,178円

収入の部					(単位：円)
区 分		予 算 額	決 算 額	増減額 (減△)	摘 要
繰 越 金		17,689,560	17,689,560	0	
加 盟 費		18,093,000	17,885,850	△ 207,150	
内 訳	全 日 制	18,033,000	17,821,200	△ 211,800	600円×29,702人 (昨年度より802人減)
	定時制・ 総合支援学校	60,000	64,650	4,650	50円×1,293人 (昨年度より133人増)
補 助 金		3,715,000	3,715,000	0	山口県より
内 訳	県 総 文 祭	976,000	976,000	0	主催 岩国・柳井地区
	全国総文祭	2,739,000	2,739,000	0	主催 東京都
調整基金から繰入		0	0	0	
雑 収 入		164	193	29	利息等
合 計		39,497,724	39,290,603	△ 207,121	

支出の部					(単位：円)
区 分		予 算 額	決 算 額	残額(超過△)	摘 要
運 営 費		2,619,800	1,978,306	641,494	
内 訳	事 務 費	800,000	735,241	64,759	記念品 事務機器維持費 消耗品費 HP管理費等 県総文パネル パソコン・プリンター更新
	通 信 費	300,000	208,461	91,539	振込手数料 電話 郵便 Zoom利用料 送料等 サーバ代
	分 担 金	519,800	514,800	5,000	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金 県文連会費
	賃 金 等	1,000,000	519,804	480,196	事務補助賃金 労災保険料
会 議 費		2,700,000	1,982,010	717,990	
内 訳	会 議 費	400,000	330,976	69,024	県内会議 (高文連主催) 旅費 大会参加費 役員保険料 会議用茶等
	旅 費	2,300,000	1,651,034	648,966	全国会議 (東京) 中国地区会議 (鳥取) 研究大会 (沖縄) 県内視察 全総文祭理事長・事務局旅費
事 業 費		21,757,920	18,043,109	3,714,811	
内 訳	県 総 文 祭	9,104,920	9,130,915	△ 25,995	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	6,500,000	4,077,767	2,422,233	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費 参加負担金
	自主事業	1,924,000	1,624,000	300,000	自主事業6公演 (1公演中止) 補助事業4公演
	大会補助金	1,033,000	546,853	486,147	特別支援学校文化祭 中国大会 (4部門)
	専門部会費	2,996,000	2,504,323	491,677	研修費 分担金 役員旅費・保険等
	印 刷 費	150,000	147,565	2,435	集録 県総文ポスター
	中高連携費	50,000	11,686	38,314	中高文連交流事業
感染症対策事業費		2,000,000	0	2,000,000	県総文祭等への助成金
調 整 基 金		6,000,000	6,000,000	0	2028全総文祭基金、調整基金へ
予 備 費		4,420,004	30,000	4,390,004	手数料節約のため、3万円分の硬貨を金庫現金管理
合 計		39,497,724	28,033,425	11,464,299	

令和4年度 2028全国高等学校総合文化祭 基金決算額

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
7,000,000	3,000,000	10,000,000

令和4年度 調整基金会計決算額

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
4,000,000	3,000,000	7,000,000

上記の通り相違ありません
令和5年4月 12日

監事

監事

村山 晋一
齊藤 莫一郎

令和5年度 山口県高等学校文化連盟 事業計画

月	日	事業	会場
4	12	会計監査	山口中央高校
	20	第1回企画運営委員会	山口中央高校
5	12	評議員会	山口市：セントコア山口
	15	第45回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第1回実行委員会	周南市文化会館
	16	公益社団法人全国高等学校文化連盟定時総会 令和4年度集録「高文連」発行	東京：星陵会館ホール
	21	県高校総合文化祭「小倉百人一首かるた部門」(主管：小野田高校)	小野田高校 武道場
	27～28	県高校総合文化祭「将棋部門」(主管：下関西高校) 山口県文化連盟 総会	防府市文化福祉会館 山口市：ホテルニュータナカ
6	3	第70回NHK杯全国高校放送コンテスト山口県大会	山口県健康づくりセンター
	12	自主事業 巡回演劇「劇団のんた」	美祢青嶺高校
	15	第45回県高校総合文化祭総合開会式(主管：華陵高校)	周南市文化会館
	16～17	県高校総合文化祭音楽4部門発表会(主管：下松高校・周南支部)	周南市文化会館
	17	県高校総合文化祭「日本音楽・郷土芸能部門」(主管：聖光高校)	光市民ホール
	23	第33回中国地区高等学校文化連盟 理事会及び関係者合同会議	島根浜田市：石央文化ホール
	28	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	徳山総合支援学校
7	21～23	第45回全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会	滋賀県 大津市 近江神宮
	29～4	第47回全国高等学校総合文化祭(2023かごしま総文)	鹿児島県
	30	(公社)全国高等学校文化連盟加盟団体代表者会議	鹿児島県
8		第45回県総文祭総合開会式・音楽4部門発表会 第2回実行委員会 マーチングバンド・バントワリング講習会	華陵高校
	26～27	第34回全国高等学校総合文化祭優秀校東京公演	東京：国立劇場大劇場
9	10	第26回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会山口県予選(主管：長府高校)	小野田高校 武道場
	28	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	小野田高校
10	13	県高校総合文化祭「文芸部門」(主管：岩国高校)	岩国高校
	22	県高校総合文化祭「囲碁部門」(主管：山口高校)	防府商工高校
	23	自主事業 青少年劇場小公演「サクソフォンとピアノのコンサート」	宇部総合支援学校
	27	自主事業「山口県交響楽団演奏会」	下関北高校
	28～29	県高等学校総合文化祭「演劇部門」(主管：華陵高校)	周南市文化会館
11	1	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	下関南総合支援学校
	4	県高校総合文化祭「放送部門」(主管：山口中央高校)	山口県健康づくりセンター
	6	自主事業 巡回演劇「宇部芸術座」	防府高校佐波分校
	6	補助事業「吉田豊ジャズコンサート」	下関工科高校
	6	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	宇部西高校
	10	自主事業 巡回演劇「劇団海峡座」	下関国際高校
	8～12	県高校総合文化祭「美術・工芸部門」(主管：サビエル高校)	宇部市文化会館
	10～12	県高校総合文化祭「写真部門」(主管：南陽工業高校)	防府市地域交流センター アスビラート
	11～12	県高校総合文化祭「書道部門」(主管：美祢青嶺高校)	おのだサンパーク
	11～12	第26回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会 (主管：島根県立益田高等学校)	島根県益田市：島根県立益田高等学校・学習センター
	15	補助事業「藤田卓也テノールコンサート」	熊毛北高校
	16	自主事業 青少年劇場小公演「連弾 RENDAN」	熊毛南高校
	18～19	山口県中学校文化連盟第19回総合文化祭 萩大会	萩市民館・明倫学舎
	18	第25回高校生文芸道場中国ブロック大会 (主管：島根県立米子東高等学校)	島取県米子市：島取県立米子東高等学校
		第1回専門部理事長会	山口中央高校
12	7～8	第35回全国高等学校文化連盟研究大会(徳島大会)	徳島県徳島市：あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)
	8	全国高等学校文化連盟実務担当者会議	徳島県徳島市：
	16～17	第22回中国地区高等学校将棋選手権大会 (主管：広島なぎさ高等学校)	広島県広島市中区：広島工業大学広島校舎
	23～24	第61回中国地区高等学校演劇発表会 (主管：島取県立境高等学校)	鳥取県米子市：米子市文化ホール
	23～24	第27回中国高等学校囲碁選手権大会 (主管：広島学院中学校・高等学校)	広島県尾道市：尾道市庁舎
1		山口県中文連・高文連合同調査研究打ち合わせ会	山口中央高校または大庭中学校
		第2回専門部理事長会	山口中央高校
	25～26	第32回全国高等学校文化連盟将棋新人大会	石川県金沢市：
2	3～4	第9回中国地区高等学校放送コンテスト (主管：島根県立浜田高等学校)	島根県出雲市：出雲市市民会館 島根県立出雲工業高等学校
		第2回企画運営委員会	山口中央高校
3		令和5年度中国地区高文連実務担当者会議	島根県浜田市：
	26	第42回山口県高等学校 器楽・管弦楽スプリングコンサート(主管：下関中等教育学校)	下関市生涯学習プラザ
【その他】 各専門部会……部会長校を中心に開催予定 各専門部研修会……県下各地において開催予定 ※巡回演劇教室3公演、巡回音楽教室(山響)2公演、青少年劇場小公演2公演 ※補助事業5公演			

令和5年度 山口県高等学校文化連盟 会計予算書・調整基金会計予算書

収入総額 32,734,778円

支出総額 32,734,778円

収入の部		(単位：円)			
区 分		予 算 額	前年度予算額	増減額(減△)	摘 要
繰 越 金		11,257,178	17,689,560	△ 6,432,382	
加 盟 費		17,762,500	18,093,000	△ 330,500	
内 訳	全 日 制	17,700,000	18,033,000	△ 333,000	600円×29,500人
	定時制・ 総合支援学校	62,500	60,000	2,500	50円×1,250人
補 助 金		3,715,000	3,715,000	0	山口県より
内 訳	県 総 文 祭	1,193,000	976,000	217,000	主催 周南地区
	全 国 総 文 祭	2,522,000	2,739,000	△ 217,000	主催 鹿児島県
調整基金から繰入		0	0	0	
雑 収 入		100	164	△ 64	利息等
合 計		32,734,778	39,497,724	△ 6,762,946	

支出の部		(単位：円)			
区 分		予 算 額	前年度予算額	増減額(減△)	摘 要
運 営 費		2,520,000	2,619,800	△ 99,800	
内 訳	事 務 費	700,000	800,000	△ 100,000	記念品 事務機器維持費 消耗品費 HP管理費等 県総文パネル シュレツダー購入
	通 信 費	300,000	300,000	0	振込手数料 電話 郵便 Zoomライセンス料 運送料等
	分 担 金	520,000	519,800	200	全国高文連会費 賛助会費 中国高文連分担金
	賃 金 等	1,000,000	1,000,000	0	県文連会費
会 議 費		2,700,000	2,700,000	0	事務補助賃金 労災保険料
内 訳	会 議 費	400,000	400,000	0	県内会議(高文連主催) 旅費 大会参加費 役員保険料 会議用茶等
	旅 費	2,300,000	2,300,000	0	全国会議(東京) 中国地区会議(島根) 研究大会(徳島) 県内視察
事 業 費		21,525,096	21,757,920	△ 232,824	
内 訳	県 総 文 祭	9,816,906	9,104,920	711,986	総合開会式 各部門大会開催費
	全 総 文 祭	6,000,000	6,500,000	△ 500,000	生徒旅費補助 引率旅費補助 運搬費 参加負担金
	自 主 事 業	1,924,000	1,924,000	0	自主事業7公演 補助事業5公演
	大会補助金	300,000	1,033,000	△ 733,000	特別支援学校文化祭 NHK放送コンクール
	専門部会費	3,184,190	2,996,000	188,190	研修費 全国分担金 役員旅費・保険等
	印 刷 費	250,000	150,000	100,000	集録 県総文ポスター 封筒
	中高連携費	50,000	50,000	0	中高文連交流事業
	感染症対策事業費	1,000,000	2,000,000	△ 1,000,000	県総文祭等への助成金
調 整 基 金		2,000,000	6,000,000	△ 4,000,000	調整基金へ
予 備 費		2,989,682	4,420,004	△ 1,430,322	
合 計		32,734,778	39,497,724	△ 6,762,946	

令和5年度 調整基金会計予算書(案)

前年度繰越	一般会計から繰入	今年度末残高
7,000,000	2,000,000	9,000,000

山口県高等学校文化連盟規約

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、山口県高等学校文化連盟と称する。

(事務局)

第2条 本連盟の事務局を山口市宮島町6番1号山口中央高等学校に置く。

(目 的)

第3条 この連盟は、高等学校における生徒の創造活動の向上充実を図り、文化活動の健全な発展と芸術文化の振興に資することを目的とする。

(事 業)

第4条 この連盟は、前条の目的を達成するために、次に掲げる事業を行う。

- (1) 山口県内の高等学校による文化活動行事の開催に関する事業。
- (2) 全国高等学校文化連盟が主催する行事への派遣に関する事業。
- (3) 芸術文化に関する研修会、講習会、鑑賞会、講演会等の開催に関する
- (4) 高等学校等の文化活動に関する調査研究事業。
- (5) 高等学校による文化活動の国際交流に関する事業。
- (6) その他前条の目的の達成に必要な事業。

(組 織)

第5条 この連盟は、山口県内の公立及び私立すべての高等学校(中等教育学校後期課程を含む。以下、「高等学校」という。)並びに高等部を設置している特別支援学校をもって組織する。

- 2 山口県内を七つの地域に分け、地域ごとに連合体を組織することができる。この場合において、地域の区分は、山口県高等学校校長会の区分と同じものとする。

第6条 この連盟に、次の専門部を置く。

- 2 演劇、器楽・管弦楽、合唱、吹奏楽、マーチングバンド・バトントワリング、日本音楽、吟詠剣詩舞、美術・工芸、書道、写真、囲碁、将棋、放送、文芸、自然科学、小倉百人一首かるたの各部門とする。

第2章 役 員

(役 員)

第7条 この連盟に次の役員を置く。

- | | |
|------------|---------|
| (1) 会 長 | 1 人 |
| (2) 副会長 | 若干人 |
| (3) 評議員 | 各加盟校に1人 |
| (4) 支部長 | 7 人 |
| (5) 専門部会長 | 16 人 |
| (6) 専門部理事長 | 16 人 |
| (7) 監 事 | 2 人 |
| (8) 参 与 | 若干人 |

(役員を選出)

第8条 役員を選出は、次のとおりとする。

- (1) 会長及び副会長は、評議員の互選により選出する。
- (2) 評議員は、加盟校の校長をもって充てる。
- (3) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、各地域及び専門部の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- (4) 監事及び参与は評議員会の推薦に基づき、会長が委嘱する。
- 2 役員の兼任は妨げない。

(役員の職務)

第9条 役員の職務は、次のとおりとする。

- (1) 会長は、この連盟を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を行う。
- (3) 評議員は、評議員会に出席し、この連盟の事業について審議する。
- (4) 支部長・専門部会長・専門部理事長は、企画運営委員会を構成し、この連盟の会務を審議し執行する。
- (5) 監事は、会計を監査する。
- (6) 参与は会長の諮問に応ずる。

(役員の任期)

第10条 役員は高等学校等に在職する者とし、その任期は2年とする、ただし、再任を妨げない。

- 2 役員に欠員が生じたときは、必要に応じて補充する。ただし、任期は前任者の残任期間とする。

第3章 会 議

(会 議)

第11条 この連盟の会議は、次に掲げる通りとし、会長が必要に応じてこれを招集する。

- (1) 評議員会
- (2) 企画運営委員会
- (3) 理事長会
- 2 会議の議長は、会長がこれに当たる。
- 3 会議は、構成員の2分の1以上の出席がなければ、開会することができない。
- 4 会議の議事は、出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長がこれを決定する。
- 5 会議に出席できない構成員は、代理人に表決を委任することができる。この場合において、前2項の規定の適用については、会議に出席したものとみなす。

(評議員会)

第12条 評議員会は、次の事項を審議し決定する。

- (1) 規約の制定及び改廃に関する事項
- (2) 予算及び決算に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる重要事項

(企画運営委員会)

第13条 企画運営委員会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 評議員から委任された事項
- (2) 会務の運営及び執行に関する事項
- (3) その他、連盟の運営に係わる軽易な事項
- 2 企画運営委員会に事業の運営及び執行のために委員会を置くことができる。
- 3 委員会は、事業を主管する学校長を委員長とし、委員として当該事業担当の教職員若干人及び専門教職員をもってこれに充てる。
- 4 委員会の委員の任命及び委員会議の招集は、委員長が行うことができる。

(理事長会)

第14条 理事長会は、次の事項を審議し、決定する。

- (1) 企画運営委員会から委任された事項
- (2) その他各専門部の運営に係わる事項

第4章 会 計

(経 費)

第15条 この連盟の経費は、各高等学校等の加盟費、補助金、寄付金及びその他の収入をもって充てる。

(予算及び決算)

第16条 この連盟の収支予算は、評議員会の決議により定め、収支決算は、会計年度終了後、監事の監査を経て次の評議員会でその承認を得なければならない。

(会計年度)

第 17 条 この連盟の会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月 31 日に終わる。

(会計経理)

第 18 条 この連盟の会計経理の手続きについては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第 5 章 事 務 局

(事務局)

第 19 条 この連盟の事務を処理するため、事務局を置く。

(運 営)

第 20 条 事務局の運営に関しては、企画運営委員会の議決を経て、別に定める。

第 6 章 雑 則

第 21 条 この連盟の規約の施行について必要な事項は、評議員会の議決を経て、別に定める。

附 則

この規約は、昭和 62 年 4 月 1 日から施行する。

昭和 62 年 4 月 1 日制定
平成 元年 4 月 1 日改正
平成 2 年 4 月 1 日改正
平成 3 年 4 月 1 日改正
平成 4 年 4 月 1 日改正
平成 6 年 4 月 1 日改正
平成 8 年 4 月 1 日改正
平成 9 年 4 月 1 日改正
平成 15 年 4 月 1 日改正
平成 16 年 4 月 1 日改正
平成 18 年 4 月 1 日改正
平成 20 年 4 月 1 日改正
平成 21 年 4 月 1 日改正
平成 22 年 4 月 1 日改正
平成 23 年 5 月 6 日改正
平成 25 年 5 月 10 日改正

山口県高等学校文化連盟諸規程

[会 計 規 程]

- 第1条 この規定は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、会計経理に関し必要な事項を定めるものとする。
- 第2条 すべての収入、支出は予算に計上しなければならない。
- 第3条 会長は、収支予算書及び事業計画書の案を作成し、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第4条 会計経理は、収入科目、支出科目及び整理科目を設けて経理の整理をし、現金及び預金出納簿を備え全ての経理内容を記入するものとする。
- 第5条 会長は、決算報告書について、監事の監査を受けた後、これを評議員会に提出しなければならない。
- 第6条 各高等学校は、毎年5月31日までに、加盟費を納入するものとする。

各在籍生徒数に以下の金額を乗じたもの。但し、在籍生徒数は当該年度5月1日現在とする。

(全日制生徒)	600円
(定時制、特別支援学校高等部生徒)	50円

- 第7条 この規程の執行に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
平成4年4月1日改正
平成5年4月1日改正
平成8年4月1日改正
平成20年4月1日改正
平成23年5月6日改正
令和元年5月10日改正

[事 務 局 規 程]

- 第1条 この規程は、山口県高等学校文化連盟規約に基づき、事務局の運営に関し必要事項を定めるものとする。
- 第2条 事務局に次の職員を置く。
- (1) 事務局長
- (2) 事務局員 ア 事務局次長 イ 総務係 ウ 会計係
- 第3条 事務局長は、会長の命を受け、事務局の事務を統括する。
- 第4条 事務局次長は、事務局長を補佐する。
- 第5条 事務局総務係は、事務局長の命を受け、総務・企画・文書等に関する事項を分掌する。
- 第6条 事務局員会計係は、事務局長の命を受け、会計に関する事項を分掌する。
- 第7条 事務局の会計に関する規程その他事務処理上必要な諸規程は、別に定める。
- 第8条 その他事務局の細目的事項は、会長が別に定める。
- 第9条 会長が命令する出張等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から実施する。

昭和62年4月1日制定
昭和62年7月14日改正
平成23年5月6日改正

[表 彰 規 程]

第1条 山口県高等学校文化連盟規約第4条6号に基づく表彰規程を次のように定める。

(表彰の種類)

第2条 本規程に基づく表彰は、次のとおりとする。

- (1) 文化功労賞
- (2) その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めたもの

(文化功労賞)

第3条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、当該年度の卒業予定者を対象として授与する。

第4条 受賞人員は在籍生徒数120名に対し1名の割合を原則とする。

第5条 本賞の受賞者の選考は、当該学校に一任する。

第6条 本賞の受賞者の選考基準は、次のとおりとする。

- (1) 人格、識見共に優秀と認める者。
- (2) 芸術文化活動歴が優秀である者、ただし、その活動は学校の内外を問わない。

第7条 各学校は、受賞者を決定し、別記様式(1)により、本連盟事務局あて報告するものとする。

第8条 本賞の授与は、卒業式に関する行事に際し、施行することを原則とする。

(その他、会長及び企画運営委員会が必要と認めた者)

(優秀芸術文化賞)

第9条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の生徒であって、各専門部において、全国大会等で特に優秀な成績をおさめたと認められた個人並びに団体を対象とする。

(功績賞)

第10条 本賞は、山口県高等学校文化連盟加盟校の教職員であって、長年にわたり本連盟の発展に寄与した者を対象とする。表彰は退職する年度または退職後に行う。ただし、専門部理事長を3期6年勤めた者は退任時に表彰することができる。

(優秀指導者賞)

第11条 本賞は、第10条功績賞対象者のうち、全国高等学校総合文化祭表彰規定により表彰された部の指導を行った者を対象とする。

第12条 第9条、第10条、第11条の授賞については、高文連企画運営委員会に諮り、これを決する。本賞の授与は県総文祭の総合開会式で行うことを原則とする。

附 則

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

昭和62年4月 1日制定
昭和62年7月14日改正
平成 元年4月 1日改正
平成 2年4月 1日改正
平成 6年4月 1日改正
平成 8年4月 1日改正
平成15年4月 1日改正
平成18年4月 1日改正
平成24年5月11日改正
平成25年5月10日改正
平成26年5月 9日改正

山口県高等学校文化連盟旅費支給基準

〔旅費支給基準〕

- 第1条 会長が招集する会議等の旅費は、山口県旅費規程に準じて支給する。
第2条 県総文祭の運営に関する旅費は、委託された主管校から山口県旅費規程に準じて支給する。
第3条 全国高等学校総合文化祭に関する旅費の引率教員は山口県旅費規程に準じて支給する。

生徒は、〔交通費実費（学割・団体割引）＋宿泊費（大会規定料金）×2泊〕×1/3とする。

※新幹線のみで100km以上の場合は特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

※在来線で100km以上の場合は急行または特急指定料金を含む。（ただし県内は除く）

ただし、特殊な事情がある場合はその都度協議し会長が決定する。

〔調整基金細則規定〕

- 第1条 規約第4条の事業を円滑に遂行し、財務の健全化を図るため調整基金を設ける。
第2条 調整基金の額は、年度予算に計上して積み立てるものとする。
第3条 調整基金に属する現金は、金融機関への預金等最も確実な方法により保管するものとする。
第4条 調整基金は、事業執行上の財源が著しく不足する場合において、当該不足分を補うための財源に充てるときに限り、評議員会の議決によりこれを処分することができる。

附 則

- 1 この規定は、昭和62年4月1日から施行する。
- 2 この細則の施行前の調整基金については、この細則による執行とみなす。

昭和62年4月1日制定
昭和63年4月1日改正
平成元年4月1日改正
平成11年4月1日改正
平成13年4月1日改正
平成16年4月1日改正
平成22年4月1日改正
平成28年5月13日改正

令和4年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名		氏 名	所属校
会 長		大村 勇	山口中央高校
副会長		徳田 充	徳山高校
		国清 賢一	宇部高校
		廣川 晋	聖光高校
参 与		杉山 昌史	山口高校
支部長	岩国支部	竹村 和之	岩国高校
	柳井支部	浅原 正和	柳井高校
	徳山支部	徳田 充	徳山高校
	山防支部	大塚 泰二	防府高校
	宇部支部	国清 賢一	宇部高校
	下関支部	山田 哲也	下関西高校
	長北支部	岩崎 和弘	萩高校
監 事		藤村 慎一郎	防府商工高校
		齊藤 英一郎	西京高校

専門部

専門部	会長	理事長	所属校
演劇	村上 浩昭	石田 千晶	光高校
合唱	山本 泰之	高山 律子	宇部中央高校
吹奏楽	国清 賢一	中村 亮	宇部高校
器楽・管弦楽	内田 正弘	秋本 隆	下関南高校
日本音楽	古谷 方正	古田 正彦	宇部鴻城高校
吟詠剣詩舞	休部	休部	休部
郷土芸能	古谷 方正	古田 正彦	宇部鴻城高校
マーチングバンド・パトントワリング	国清 賢一	中村 亮	宇部高校
美術・工芸	浅原 正和	島田 憲貢	柳井高校
書道	古川 幸隆	鏡 証子	美祢青嶺高校
写真	末永 和文	尾崎 勝利	南陽工業高校
放送	柴田 利道	熊谷 麻衣子	山口農業高校／山口中央高校
囲碁	杉山 昌史	高野 朝男	山口高校
将棋	山田 哲也	堀 達也	下関西高校
小倉百人一首かるた	待水 清信	藤野 恭平	慶進高校
文芸	竹村 和之	白井 理恵子	岩国高校
自然科学	杉山 昌史	石田 純一	山口高校

事務局

職 名	氏 名	所属校
事務局長	西村 正浩	山口中央高校
事務局員(総務)	河本 展子	山口中央高校
事務局員(会計)	山本 直美	山口中央高校
事務局員(庶務)	丸山 智子	嘱託

令和5年度 山口県高等学校文化連盟役員

職 名		氏 名	所属校
会 長		大村 勇	山口中央高校
副会長		徳田 充	徳山高校
		国清 賢一	宇部高校
		廣川 晋	聖光高校
参 与		杉山 昌史	山口高校
支部長	岩国支部	竹村 和之	岩国高校
	柳井支部	浅原 正和	柳井高校
	徳山支部	徳田 充	徳山高校
	山防支部	大塚 泰二	防府高校
	宇部支部	国清 賢一	宇部高校
	下関支部	宮村 和幸	下関西高校
	長北支部	岩崎 和弘	萩高校
監 事		村山 晋一	防府商工高校
		齊藤 英一郎	西京高校

専門部

専門部	会長	理事長	所属校
演劇	村上 浩昭	石田 千晶	光高校
合唱	岩崎 和弘	富川 沙輝	萩高校
吹奏楽	国清 賢一	中村 亮	宇部高校
器楽・管弦楽	内田 正弘	秋本 隆	下関南高校
日本音楽	家入 林太郎	森川 理恵	柳井学園高校
吟詠剣詩舞	休部	休部	休部
郷土芸能	家入 林太郎	森川 理恵	柳井学園高校
マーチングバンド・パントワリング	金石 芳朗	内田 良一	山口県鴻城高校
美術・工芸	徳田 充	島田 憲貢	徳山高校
書道	古川 幸隆	鏡 証子	美祢青嶺高校
写真	末永 和文	尾崎 勝利	南陽工業高校
放送	柴田 利道	熊谷 麻衣子	山口農業高校／山口中央高校
囲碁	杉山 昌史	藤井 康広	山口高校
将棋	宮村 和幸	堀 達也	下関西高校
小倉百人一首かるた	藤村 敦史	松崎 砂織	長府高校
文芸	竹村 和之	高橋 共	岩国高校
自然科学	杉山 昌史	入江 壽朗	山口高校

事務局

職 名	氏 名	所属校
事務局長	上田 憲明	山口中央高校
事務局員(総務)	河本 展子	山口中央高校
事務局員(会計)	山本 直美	山口中央高校
事務局員(庶務)	丸山 智子	嘱託

全国高文連の歌

全国高等学校文化連盟制定
向 川 栄 美 作 詞
乗 松 美 紀 作 曲



1. てをのばせば ほら きつと だれかが ささえて くれる
2. よびかければ ほら きつと だれかが こたえて くれる

みーわ たせー ば ほら なかまが いつでも そばに いる きみ
こころ をひらけ ば ほら なかまは いつでも まって いる きみ

は ひとりじゃない さあ ある き だ そ う
は ひとりじゃない さあ あ は き ば た そ こ

ぼくら のぶんか を つく る た め 一 に
ぼくら のぶんか を つき ず く た め 一 に

全国高文連の歌

一、手を伸ばせば ほら

きつと誰かが支えてくれる
見渡せば ほら

仲間がいつでもそばにいる

君は一人じゃない

さあ 歩きだそう

僕等の文化を創るために

二、呼びかければ ほら

きつと誰かが応えてくれる

心を開けば ほら

仲間がいつでも待っている

君は一人じゃない

さあ 翔はばたこう

僕等の文化を築くために

山口県高等学校文化連盟

「高文連」編集委員

(各部門)

演	劇	石 田 千 晶	(光 高 等 学 校)
合	唱	高 山 律 子	(宇 部 中 央 高 等 学 校)
吹	奏	中 村 亮	(宇 部 高 等 学 校)
器 楽・	管 弦 楽	秋 本 隆	(下 関 南 高 等 学 校)
日 本 音 楽・	郷 土 芸 能	古 田 正 彦	(宇 部 鴻 城 高 等 学 校)
マーチングバンド・	パントワリング	中 村 亮	(宇 部 高 等 学 校)
美 術・	工 芸	島 田 憲 貢	(柳 井 高 等 学 校)
書	道	鏡 証 子	(美 祢 青 嶺 高 等 学 校)
写	真	尾 崎 勝 利	(南 陽 工 業 高 等 学 校)
放	送	熊 谷 麻 衣 子	(山 口 中 央 高 等 学 校)
囲	碁	高 野 朝 男	(山 口 高 等 学 校)
将	棋	堀 達 也	(下 関 西 高 等 学 校)
小倉百人一首かるた		藤 野 恭 平	(慶 進 高 等 学 校)
文	芸	白 井 理 恵 子	(岩 国 高 等 学 校)
自 然 科 学		石 田 純 一	(山 口 高 等 学 校)

事 務 局 長	西 村 正 浩	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 員 (総 務)	河 本 展 子	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 員 (会 計)	山 本 直 美	(山 口 中 央 高 等 学 校)
事 務 局 員 (庶 務)	丸 山 智 子	

令和4年度
山口県高等学校文化連盟集録
「高文連」

編集・発行 山口県高等学校文化連盟事務局
〒753-0043 山口市宮島町 6-1
山口県立山口中央高等学校内
電 話 083-922-0032
FAX 083-932-0813

表紙デザイン／林 友樹菜
(熊毛南高等学校2年)
題名「夏の日思い出」

